

平成18年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JOC SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION REPORT 2006



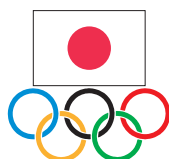
財団法人 日本オリンピック委員会
JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

スポーツ環境専門委員会
SPORT AND ENVIRONMENT COMMISSION

平成18年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

地球温暖化と環境破壊の現状

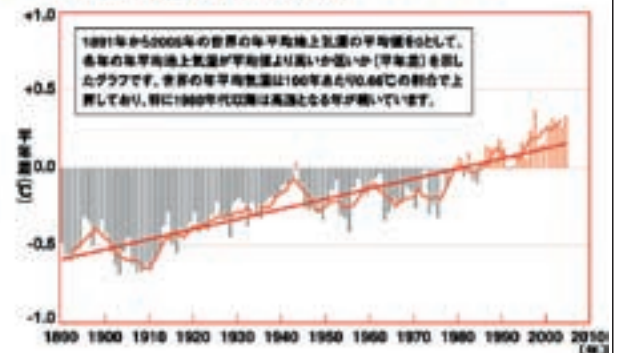
地球温暖化

二酸化炭素などの「温室効果ガス」が増加することによって、地球の平均気温が上昇

1. 海面水位上昇による土地の喪失、水没の危険
2. 豪雨・干ばつなどの、異常気象の増加
3. 生態系への影響・貴重な遺伝子の減少
4. 森林伐採や異常気象による砂漠化の進行
5. 水資源などへの影響、水不足の発生
6. 熱帯性感染症発生の増加（マラリヤ・コレラなど）
7. 気温上昇による穀物生産の低下、食糧不足問題
8. 高温による冷房などの消費エネルギーの増加によるエネルギー不足

これ以上被害を増やさないためにも、地球温暖化を防ぐ措置が必要になってくるのです

■世界の年平均地上気温の年々差の経年変化
(1891～2005年) (出典:気象庁)



■温室効果ガスと地球温暖化メカニズム



地球温暖化の影響



スイス、アルプスの氷河。永久に残る氷河と
言われていたが、ここ数十年をかけて溶け、
縮小が変化し、山腹が下から次第に裸で
覆われ始めている

高山地帯環境と自然博物館・リサーチセンターより
(<http://www.2000.org>)



崩落する氷河



湖を覆う大氷塊
(アルゼンチン)

地球温暖化による被害

海岸侵食



干天のため枯死した稲



異常気象：都市部のヒートアイランドと集中豪雨



都市部のヒートアイランド現象



この日降雨量は35mmに



強い上昇気流が起これ、海霧が流れ込み、暴風雨の発生。突如の豪雨
観測地点 25mm・1hr
降雨 131mm・1hr

異常気象 06.11.7 北海道 佐呂間町を襲った竜巻



オゾン層の破壊

“CFC”などの人工化学物質が地球を取り巻く“成層圏”に存在しているオゾン層を破壊すること

- 皮膚がんや白内障の増加
- 免疫抑制等による人の健康への影響
- 動植物の生育障害等の生態系への影響
- 大気汚染等への影響



野生生物種の減少

森林(熱帯林)の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- 遺伝子資源の減少
- 観光・レクリエーション資源の減少
- 生態系の破壊
- 食物連鎖の破壊



森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などにより熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

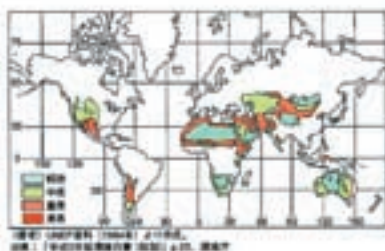
- そこに生息する野生生物種の減少
- 土壌(表土)の流出
- 森林に蓄積された炭素がCO2となって放出されることによる温暖化の進行
- 水圏の富栄養化や酸雨、海と陸との相互作用機能の低下



地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などにより砂漠化。

- 単種生産型への悪化
- 生物多様性の喪失
- 貧困の加速
- 気候変動への影響
- 都市への人口集中
- 難民の増加



砂漠化

中国、内モンゴル自治区



拡大を続けるホルチン沙漠



村落に迫る砂丘。電信柱の下半分が砂で埋まっている

スポーツ環境の啓発活動

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

■ジャック・ロゲ国際オリンピック委員会会長 来日

●日時／ 2006 年 10 月 19 日 場所／東京プリンスホテル



ジャック・ロゲ IOC 会長、竹田恆和 JOC 会長



竹田恆和 JOC 会長 ジャック・ロゲ IOC 会長、水野 JOC スポーツ環境専門委員長

●第 15 回アジア競技大会 (2006 / ドーハ)

●日時 / 2006 年 12 月 1 日 ~ 15 日



中澤さえ選手、棟田康幸選手



北島康介日本代表選手団主将



潮田玲子選手、小椋久美子選手



吉田沙保里日本代表選手団旗手



ホッケー女子チーム

■第 15 回アジア競技大会（2006 / ドーハ）日本代表選手団結団式

●日時 / 2006 年 11 月 25 日 場所 / 新高輪プリンスホテル



林務日本代表選手団団長、福田富昭日本代表選手団副団長、吉田沙保里日本代表選手団旗手、河野一郎ドーハ本部役員



柳本晶一監督とバレーボール女子チーム

■第 6 回アジア冬季大会（2007 / 長春）日本代表選手団結団式

● 2007 年 1 月 24 日



竹田恒和会長、村里敏彰日本代表選手団団長、福田修子日本代表選手団旗手、及川佑日本代表選手団主将



富田正一日本アイスホッケー連盟会長、河津務北海道アイスホッケー連盟会長、遅塚研一 JOC 常務理事、土田忠日本アイスホッケー連盟常務理事、君塚晋日本アイスホッケー連盟常務理事、林利博日本水泳連盟会長

■ JOC スポンサー感謝の集い

●日時 / 2006 年 5 月 12 日 場所 / 赤坂プリンスホテル 参加人数 / 280 名



■オリンピックコンサート 2006

●日時／ 2006 年 6 月 11 日 場所／ N H K ホール 参加人数／ 2,945 名



岡崎朋美選手、上村愛子選手

■第 4 回オリンピックファミリーゴルフ（日本赤十字社チャリティ大会）

●日時／ 2006 年 6 月 12 日 場所／ 程ヶ谷カントリー倶楽部 参加人数／ 118 名



■オリンピックフェスティバル

●日時／ 2006 年 10 月 9 日 場所／ 駒沢オリンピック公園総合運動場 参加人数／ 24,849 名



■オリンピックデーラン 2006

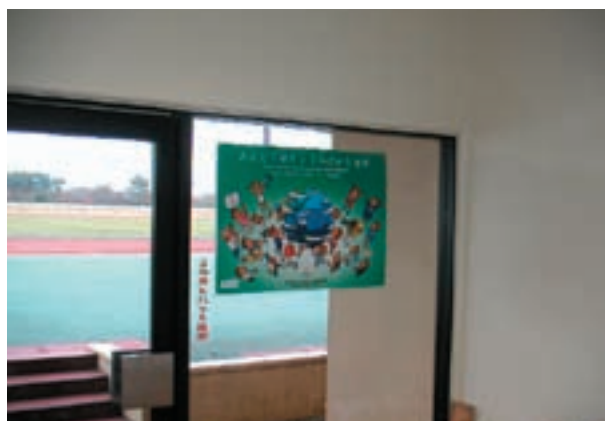
●長野大会 日時／ 2006 年 7 月 22 日



●喜多方大会 日時／ 2006 年 11 月 3 日



●ひたちなか大会 日時／ 2006 年 11 月 23 日



●スノーラン山形大会 日時／ 2006 年 3 月 18 日



〈開催日〉

オリンピックデーラン ／ 2006

- ・ 5 月 14 日（日）大阪大会
- ・ 7 月 22 日（土）長野大会
- ・ 7 月 29 日（土）新潟大会
- ・ 8 月 5 日（土）青森大会
- ・ 8 月 27 日（日）土別大会
- ・ 10 月 9 日（月・祝日）

東京オリンピックフェスティバル

- ・ 10 月 22 日（日）神戸大会
- ・ 11 月 3 日（金・祝）喜多方大会
- ・ 11 月 19 日（日）愛媛大会
- ・ 11 月 23 日（木・祝日）ひたちなか大会

オリンピックスノーラン ／ 2007

- ・ 3 月 18 日（日）山形大会

■第2回スポーツと環境・JOC 地域セミナー

●日時／ 2006 年 9 月 22 日 場所／長野県県民文化会館 参加人数／ 189 名



竹田恒和会長



鷲澤正一長野市長



荻原次晴、荻原健司



水野正人スポーツ環境専門委員長



鈴木克幸長野市環境部主幹



大林素子スポーツ環境アンバサダー



丸山仁也国際スキー連盟技術代表



黒岩敏幸日本スケート連盟スピード
スケート強化スタッフ



百瀬公基日本近代五種・バイアスロン
連合理事



中村慎日本アイスホッケー連盟理事



藤牧博和日本ボブスレー・リュージュ連盟総務・財務委員長



長岡秀秋日本カーリング協会理事・
強化委員長

■スポーツジャーナリストセミナー 2006

●日時／ 2006 年 11 月 7 日 場所／ 共同通信社大会議室 参加人数 110 名



フェクロ・キダネ元 IOC 国際協力部長、小野清子副会長、
水野正人スポーツ環境専門委員長



竹内浩事業・広報専門委員会副委員長



パネリスト



配布資料



林務副会長、フェクロ・キダネ元 IOC 国際協力部長、河野
一郎理事

■第3回スポーツと環境担当者会議

●日時／2006年11月10日 場所／オリンピック記念青少年総合センター 参加人数／85名



会場



水野正人スポーツ環境専門委員長



吉野議章環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室プロジェクトリーダー



鎌賀秀夫スポーツ環境専門委員



八木沼純子スポーツ環境アンバサダー



竹内敏子日本卓球協会常務理事



鈴木征日本ソフトボール協会スポーツ環境委員長



大本修アオダモ資源育成の会理事長

■ IOC スポーツと環境委員会

●日時／ 2006 年 7 月 7 日 場所／ローザンヌ



水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、ジャック・ロゲ IOC 会長



パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長



Sunil SABHARWAL IOC スポーツと環境委員、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長



IOC スポーツと環境委員会メンバー

■ IOC スポーツと環境・東南アジア地域セミナー

●日時／ 2006 年 5 月 27 日 場所／クワラルンプール



パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長



左から 4 番目：パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長



遠藤幸一 スポーツ環境専門委員



セミナー参加者

■ IOC スポーツと環境・カリブ海地域セミナー

●日時／ 2006 年 8 月 11, 12 日 場所／キングストン



パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長、ケネス・ホールジャマイカ提督、夫人



セミナー参加者

(財) 日本陸上競技連盟

Japan Amateur Athletic Federation

■日本学生選手権（横浜）

●日時／ 2006 年 6 月 2 日



澤木啓祐専務理事、梶原洋子 JOC 女性スポーツ専門委員



大串啓二顧問、小口正行北信越学生陸上競技連盟会長、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、保利耕輔日本学生競技連盟会長、関岡康雄専務理事、田中淳浩監事

■第 90 回日本陸上競技選手権大会

●日時／ 2006 年 6 月 30 日－7 月 2 日 場所／神戸



河野洋平会長 櫻井孝次名誉副会長



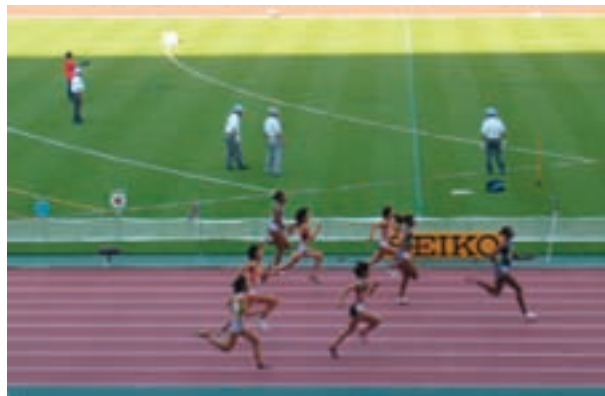
室伏広治選手、末続慎吾選手、内藤真人選手、大橋祐二選手

■セイコースーパー陸上2006ヨコハマ

●日時／ 2006 年 9 月 24 日 場所／日産スタジアム



水野正人 JOC スポーツ環境委員長、久保田克彦 JOC スポーツ環境委員



■第 22 回全国小学生陸上競技交流大会

●日時／ 2006 年 8 月 25 日(金)～ 27 日(日) 場所／東京・国立競技場



※第 22 回全国小学校陸上競技交流大会

■ 2006 東京国際女子マラソン大会 兼第 11 回世界陸上競技選手権大会代表選手選考会

●日時／ 2006 年 11 月 19 日(日) 12 時 10 分 START 場所／国立競技場



■第 10 回記念大会 東京・荒川市民マラソン in ITABASHI

●日時／ 2007 年 3 月 18 日(日) 場所／東京・荒川河川敷 参加者／ 17,138 人



(財) 日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

■ OWS ジャパンオープン 2006 館山 第 10 回館山国際オープンウォータースイムレース

●日時／ 2006 年 7 月 16 日、17 日 場所／千葉県館山市北条海岸 参加人数／ 838 名



大会本部



競技役員による海岸の清掃活動

■第 57 回日本実業団水泳競技大会

●日時／ 2006 年 8 月 5 日(土)、6 日(日) 場所／愛知県豊橋市・アクアリーナ豊橋 参加人数／ 1405 名



100m 背泳ぎスタート

■第 21 回とびうお杯全国少年少女水泳競技大会

●日時／平成 18 年 8 月 5 日(土)～6 日(日)
場所／浜松市江之島水泳場



(左側) 右より古橋廣之進水泳連盟名誉会長、河合九平
浜名湾遊泳協会会長、磯部育夫浜名湾遊泳協会副会長
(右側) 右より林利博水泳連盟会長、萩原智子、藤原靖
久浜名湾遊泳協会理事長

■第 29 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会 (競泳)

●日時／ 2006 年 8 月 26 日(土)～30 日(水) 場所／東京辰巳国際水泳場 参加人数／ 4142 名



ポスターによるアピール



横断幕による啓発活動

■第 11 回 FINA シンクロワールドカップ 2007

●日時／平成 18 年 9 月 14 日(木)～17 日(日) 場所／横浜国際プール



泉常務理事、佐野 JOC スポーツ環境副委員長、水野 JOC スポーツ環境委員長、林会長



ごみ分別状況

■第 29 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会（シンクロ）

●日時／平成 18 年 8 月 26 日(土)～30 日(水) 場所／広島市総合屋内プール



チームテクニカルルーチン演技



競技役員によるごみ分別作業

■湘南オープンウォータースイミング 2006

●日時／平成 18 年 8 月 12 日(土)～13 日(日)

場所／藤沢市江の島海岸



佐野和夫専務理事、山本浩常務理事

■第 82 回日本学生選手権水泳競技大会(飛込)

●日時／9 月 2 日(土)～3 日(日) 場所／埼玉：青

木町公園総合運動場飛込プール 参加人数／38 名



3m 飛板飛込 表彰式

(財) 日本サッカー協会

Japan Football Association

■ 2006J リーグヤマザキナビスコカップ 鹿島アントラーズ VS ジェフユナイテッド千葉

●日時／ 2006 年 11 月 3 日 場所／国立霞ヶ丘競技場 参加人数／ 44,704 名

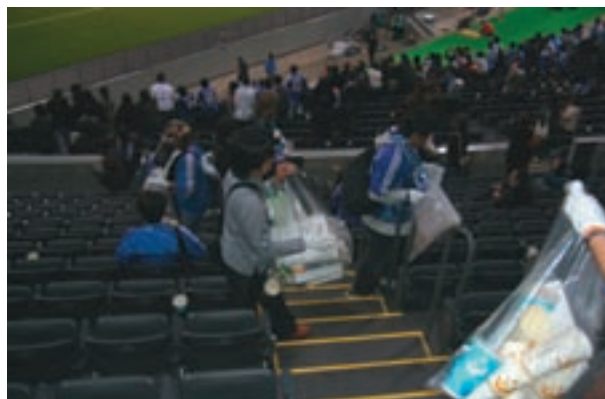


岡野俊一郎名誉会長、川淵三郎キャプテン、鬼武健二Jリーグチェアマン



■ Jリーグにおけるスポーツ環境啓発活動 アジアカップ予選 日本 VS サウジアラビア

●日時／ 2006 年 11 月 5 日 場所／札幌ドーム



(財) 全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

■春季定例評議会及びトリノオリンピック入賞者の顕彰式

●日時／ 2006 年 6 月 24 日



アルペン皆川賢太郎選手、スノーボードクロス藤森由香選手、クロスカントリー夏見円選手、ノルディックコンバインド小林範仁選手、ノルディックコンバインド山陽輔選手

■ 2006 FIS サマーグランプリ白馬ジャンプ大会

●日時／ 2006 年 9 月 9 日～ 11 日 場所／長野県白馬村



■スキー大学

●日時／ 2007 年 1 月 12 ～ 15 日 場所／北海道朝里川温泉スキー場



5 分間レクチャー 瀬尾洋 JOC スポーツ環境副委員長

■兵庫県スキー連盟主催 SAJ スキー指導者研修会

●日時／ 2007 年 1 月 6 日



中央 東野喜代一会長他兵庫県連役員

■第 62 回国民体育大会冬季大会スキー競技会

●日時／ 2007 年 2 月 10 日～ 13 日



開会式



開会式 選手団入場ゲート



国体鹿角クロスカントリー会場



国体会場のゴミの分別

■ 2007 フリースタイル FIS ワールドカップ猪苗代大会

●日時／ 2007 年 2 月 16 日～ 19 日



ゴールゲート



ゼッケン・滝澤宏臣選手・スキークロス優勝シーン

■ 2007 世界ノルディックスキー選手権大会

●日時／ 2007 年 2 月 22 日～ 3 月 4 日

場所／大倉山ジャンプ競技場



■ オリンピアンズ FUN FE 2007 in NOZAWA

●日時／ 2007 年 3 月 24 日

場所／野沢温泉スキー場



(財) 日本テニス協会

The Japan Tennis Association

■フェドカップ ワールドグループ&ワールドグループⅡ プレイオフ「日本対オーストリア」

●日時／ 2006 年 7 月 15 日(土)～7 月 16 日(日) 場所／有明コロシアム 参加人数／ 8 名



(左から) 植田実日本チーム監督、中村藍子選手、森上亜希子選手、浅越しのぶ選手、杉山愛選手、オーストリアチーム

■第 23 回全国小学生テニス選手権大会

●日時／ 2006 年 7 月 28 日(金)～30 日(日) 場所／東京都第一生命相模園総合グラウンドテニスコート 参加人数／ 96 名



(左から) 倉光哲トーナメントディレクター、内山勝日本テニス協会常務理事



■第 2 回グラスホパー全国ジュニアテニス in 佐賀大会

●日時／ 2006 年 8 月 4 日(金)～10 日(木) 場所／佐賀県ウインブルドン九州テニスクラブ 参加人数／ 128 名



参加ジュニア選手、スタッフ

■ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権大会 2006

●日時／ 2006 年 8 月 4 日(木)～ 16 日(火) 場所／大阪府鞆テニスセンター 参加人数／ 1,000 名



松岡修造 JOC スポーツ環境専門委員



■男子トップジュニアキャンプ

●日時／ 2006 年 11 月 7 日(火)～ 12 日(日) 場所／神奈川県荏原湘南スポーツセンター
参加人数／ 13 名



松岡修造 JOC スポーツ環境専門委員デビスカップスーパーバイザー

■第 17 回 JTA コーチャーズカンファレンス

●日時／ 2007 年 2 月 25 日(日)～ 26 日(月) 場所／国立スポーツ科学センター
参加人数／ 355 名 (テニス指導者)



盛田正明日本テニス協会会長



コーチーズカンファレンス受講者

(社) 日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

■全日本学生ホッケー選手権大会

●日時／ 2006 年 10 月 28 日～ 11 月 1 日 場所／山梨、甲府



■第 55 回男子・第 28 回女子全日本学生ホッケー選手権大会開会式及び監督主将会議



■全日本女子ホッケー選手権大会

●日時／ 2006 年 12 月 21 日～ 24 日 場所／新里ホッケー場



(財) 日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

■ 2006 バレーボール世界選手権大会

●日時／ 2006 年 10 月 31 日～ 12 月 3 日 場所／ 全国 10 都市



マルー・アコスタ FIVB 会長夫人、ルーベン・アコスタ FIVB 会長、中川利若北海道バレーボール協会会長、山崎宣夫日本小学生バレーボール連盟会長、西脇克治 JOC スポーツ環境専門委員



西脇克治 JOC スポーツ環境専門委員、ルーベン・アコスタ FIVB 会長



ルーベン・アコスタ FIVB 会長、村井恒夫埼玉県バレーボール協会理事長代行



山岸紀郎専務理事



ドイツ No.1 バガー選手、No.15 グリュン選手



アゼルバイジャン、No.9 マーマドワ選手、No.5 シャバフタ選手

■第 40 回記念 2006/07 V プレミアリーグ決勝大会

●日時／平成 19 年 4 月 14 日～ 4 月 15 日 場所／さいたまスーパーアリーナ



(左から)中野淳子 JVA 事務局(スポーツ環境小委員会担当)、西脇克治 JOC スポーツ環境専門委員、山岸紀郎 JVA 専務理事、丸山誠 JVA 副会長 日本バレーボールリーグ機構代表理事、梅北精幸日本バレーボールリーグ機構事務局長



西脇克治 JOC スポーツ環境専門委員、大林素子 JOC スポーツ環境アンバサダー



ゴミ分別箱

(財) 日本体操協会

Japan Gymnastic Association

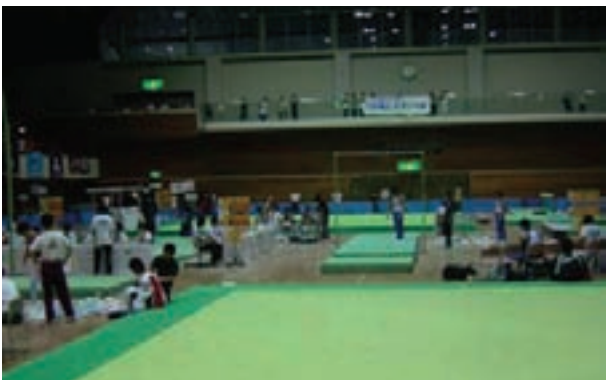
■第45回NHK杯兼第39回世界体操競技選手権大会日本代表決定競技会兼第15回アジア競技大会日本代表決定競技会

●日時／7月15日 場所／幕張メッセ・イベントホール



■第60回全日本学生体操競技選手権大会

●日時／8月9日 場所／町田市総合体育館



■第58回全日本学生新体操選手権大会

●日時／8月14日 場所／海老名市総合運動公園体育館



(財) 日本スケート連盟

Japan Skating Federation

■第 33 回全日本スピードスケートスプリント選手権

●日時／平成 18 年 12 月 22 日～24 日 場所／帯広の森スケート場 参加人数／1,389 名



左から萩原帯広スケート連盟会長、橋本聖子会長、河西北海道スケート連盟会長、林泰章副会長

■第 75 回全日本フィギュアスケート選手権大会兼 2007 年世界選手権大会第 3 次選考会兼 2007 年四大陸選手権大会最終選考会

●日時／平成 18 年 12 月 27 日～29 日 場所／名古屋市総合体育館レインボーアイスアリーナ 参加人数／8,956 名



浅田真央選手、常山正雄専務理事、安藤美姫選手、恩田美栄選手



啓発のための会場内表示
ゴミの持ち帰り



ゴミの分別表示（ペットボトル）



ポスターとゴミの分別表示

■第 13 回全日本スピードスケート距離別選手権大会

●日時／ 2006 年 10 月 28 日、29 日 場所／長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ
参加人数／ 2,760 名



左 林泰章副会長 常山正雄専務理事

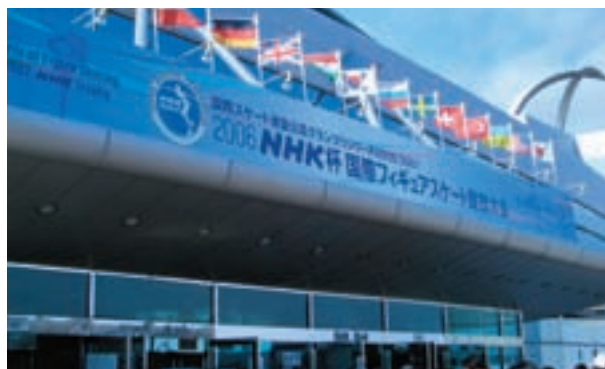


■ 2006NHK 杯国際フィギュアスケート競技大会

●日時／ 2006 年 11 月 30 日～ 12 月 3 日 場所／長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ



佐藤久美子シニア特別強化コーチ、小塚崇彦選手、織田信成選手、佐藤有香コレオグラファー、平松純子 JOC スポーツ環境専門委員、佐藤信夫シニア特別強化コーチ



■スピードスケートワールドカップ長野大会

●日時／ 2006 年 12 月 8 日～ 10 日 場所／長野市オリンピック記念アリーナエムウェーブ



常山正雄専務理事、鷲澤正一長野市長、橋本聖子会長、小林實長野オリンピックムーブメント推進協会会長、宮下富夫長野オリンピックムーブメント推進協会専務理事



大石雅寛理事、林泰章副会長、常山正雄専務理事、新保實理事

■第 17 回全日本ショートトラック選手権大会

●日時／ 2007 年 2 月 10 日、11 日 場所／ なみはやドームアイススケート場 参加人数／ 404 名



館内分別ゴミ



リンク出入口

■世界フィギュアスケート選手権大会 2007 東京

●日時／ 2007 年 3 月 20 日～ 25 日 場所／ 東京体育館



平松純子 JOC スポーツ環境専門委員、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、橋本聖子会長



浅田真央選手



中野友加里選手



中央 安藤美姫選手

(財) 日本レスリング協会

Japan Wrestling Association

■ JOC ジュニアオリンピックカップ 2006 年全日本ジュニアレスリング選手権大会

●日時／ 2006 年 4 月 22 日～ 23 日 場所／神奈川県横浜市・横浜文化体育館 参加人数／ 1134 名



■ 2006 女子レスリングトヨタワールドカップ名古屋

●日時／ 2006 年 5 月 20 日・21 日 場所／愛知県名古屋市・稲永スポーツセンター
参加国／アメリカ、カナダ、中国、ロシア、ウクライナ、日本 / 6 カ国



■平成 18 年度 明治乳業カップ 全日本選抜レスリング選手権大会 (2006 年世界選手権大会代表選手選考会)

●日時／ 2006 年 6 月 3 日・4 日 場所／東京都渋谷区・代々木第二体育館 参加人数／ 110 名



■第 23 回全国少年少女レスリング選手権大会

●日時／ 2006 年 7 月 21 日～ 23 日 場所／東京都世田谷区・駒沢体育館
参加人数／ 156 クラブ・1399 名



■第 11 回鎌ヶ谷幼児レスリング大会

● 2006 年 8 月 20 日 場所／千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館 参加人数／ 18 クラブ・76 名



■ JOC ジュニアオリンピックカップ 第 10 回ジャパンキッズレスリング選手権志賀大会

● 2006 年 8 月 20 日 場所／石川県羽咋郡・志賀町総合体育館 参加人数／ 22 クラブ・180 名



馳浩文部科学副大臣（右）

■第 61 回国民体育大会・のじぎく兵庫国体

●日時／ 2006 年 10 月 1 日～ 4 日 場所／ 兵庫県猪名川町・猪名川町文化体育館（成年男子）
猪名川町立猪名川中学校体育館（少年男子）



はばタン（大会マスコット）、福田富昭会長



（左から）栄和人女子強化コーチ、伊調千春選手、吉田沙保里選手



少年男子会場



成年男子会場



花原勉副会長、環境活動の取組についての説明

(財) 日本セーリング連盟

Japan Sailing Federation

■第61回国民体育大会のじぎく兵庫国体

●日時 2006年10月6日～9日 場所／新西宮ヨットハーバー



レース会場でエコバッグを持つ選手たち（江ノ島）



ウインドサーフィンの全日本も環境キャンペーンを支援する（蒲郡）



全日本インカレでも環境キャンペーンの横断幕が掲げられた（福岡）



(社) 日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

■第3回全日本学生選抜大会

●日時／ 2006 年 4 月 23 日 場所／横浜市磯子スポーツセンター 参加人数／ 46 名



小平紀生会長、三宅宏実女子優秀選手、中村友生男子優秀選手、岡本実理事長



マイプラスチックカップ

■第53回全国高等学校選手権大会

●日時／ 2006 年 8 月 5 ～ 8 日 場所／羽曳野市立総合スポーツセンター 参加人数／ 378 名



ポスターとゴミの分別

■第52回全日本大学対抗選手権大会

●日時／ 11 月 25・26 日

場所／横浜市磯子スポーツセンター



優勝 九州国際大学

■JOC カップ第27回全日本ジュニア選手権大会

●日時／ 2006 年 3 月 10・11 日

場所／さいたま市記念総合体育館

参加人数／ 126 名



櫻井勝利副会長、中山陽介男子優秀選手、嶋本麻美女子優秀選手

(財) 日本ハンドボール協会

Japan Handball Association

■第 10 回アジア男子ジュニア選手権 兼 第 11 回ヒロシマ国際ハンドボール大会

●日時／ 2006 年 8 月 21 日～ 31 日 場所／広島県広島市 東区スポーツセンター
参加人数／ 264 名



山下副会長、カラフ AHF 競技規則審判委員会委員



(左から) 江成常務理事、川上常務理事、市原副会長、カラフ AHF 競技規則審判委員会委員、バーレーンレフェリー、杉山茂、バーレーンレフェリー

■第 61 回のじぎく兵庫国体

●日時／ 2006 年 10 月 6 日～ 10 日
場所／兵庫県高砂市総合体育館他
参加人数／ 11,500 名



■第 15 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 2006

●日時／ 2006 年 12 月 25 日～ 27 日
場所／堺市家原大池体育館他
参加人数／ 8,700 名



■ Japan Cup 2006

●日時／ 2006 年 11 月 10 日～ 12 日
場所／大阪府住吉区スポーツセンター
参加人数／ 5,280 名



■第 31 回日本リーグプレーオフ

●日時／ 2007 年 3 月 17・18 日
場所／駒沢体育館
参加人数／ 10,240 名



(財) 日本自転車競技連盟

Japan Cycling Federation

■第41回全国都道府県対抗自転車競技大会

●日時／2006年8月20日～22日 場所／秋田県・美郷町、大仙市



■2006 四日市サイクルスポーツフェスティバル

●日時／2006年11月5日 場所／三重県四日市市水沢・桜地区鈴鹿山麓リサーチパーク付近
特設コース



(財) 日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

■第 24 回全国ホープス卓球大会

●日時／ 2006 年 8 月 29 日～ 31 日 場所／東京体育館



(左から) 斎藤進大会委員長、山口宇宙大会副会長、小川敏夫競技委員長

■大林カップ第 12 回ジャパントップ 12 卓球大会

●日時／ 2007 年 2 月 10 日 場所／駒沢体育館



(左から) 前原正浩大会委員長、星野一朗大会役員

■第 4 回全国ホープス選抜卓球大会

●日時／ 2007 年 3 月 24 日・25 日 場所／パークアリーナ小牧



(左から) 竹内敏子環境委員会担当常務理事、山口宇宙大会副会長

(社) 日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

■全日本ジュニア障害馬術大会 2006

●日時／ 2006 年 8 月 2 日～ 6 日 場所／山梨県馬術競技場



(左から) 東良弘一理事・障害本部長、常陸宮妃殿下、千玄室会長、竹田恆和 JOC 会長、米山順副会長



竹田恆和 JOC 会長、千玄室会長

■第 36 回全日本総合馬術大会 2006

●日時／ 2006 年 9 月 7 日～ 10 日

場所／山梨県馬術競技場

参加人数／ 1,500 人



加藤大助選手

■第 58 回全日本障害馬術大会 2006Part I

●日時／ 2006 年 12 月 21 日～ 24 日

場所／杉谷馬事公苑

参加人数／ 2,000 人



(左から) 嘉納寛治理事長、土橋武雄理事・環境委員長



馬事公苑入口



機関誌馬術情報誌

(財) 全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

■環境委員会 ●日時／5月2日



山口香 JOC スポーツ環境専門委員、上村春樹専務理事、川口孝夫審判委員長、津沢寿志事務局長

■全日本女子合宿

●日時／2006年6月10日 場所／和歌山県白浜体育館



上野雅恵選手 塚田真希選手



日蔭暢年女子監督（専任強化コーチ）

■平成18年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

●日時／2006年11月18日、19日 場所／千葉ポートアリーナ



会場入口



阿武教子全日本女子特別コーチ

(財) 日本ソフトボール協会

Japan Softball Association

■平成 18 年度日本女子リーグ決勝トーナメント

●日時／ 2006 年 11 月 11 日・12 日 場所／京都市 西京極野球場



鈴木征常務理事・スポーツ環境委員長、尾崎正則専務理事、中村玄一郎東京都ソフトボール協会副会長、亀田正隆日本女子リーグ機構



男子パシフィック大会 日本代表チーム

(財) 日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

■バドミントン日本リーグ 2006

●日時／ 2006 年 10 月 28 日～ 12 月 24 日 場所／高岡市民体育館・守口市民体育館 他
参加人数／ 35000 人



(左から) 綿貫民輔会長、三宅祐司副会長



(左から) 小椋久美子選手、瀬田玲子選手



(左から) 瀬田玲子選手、小椋久美子選手



社団法人 日本山岳協会

Japan Mountaineering Association

■平成 19 年新春の集い

●日時／ 2006 年 1 月 20 日（土） 場所／東京ガーデンパレス 参加人数／ 130 名



ネパール山岳協会副会長、田中会長、中国登山協会副主席



日本人女子初 K2 登頂者小松由佳、田中会長、平山ユージ選手



■世田谷区「才能の目を育てる体験学習」スポーツと環境を考える

●日時／ 2006 年 7 月 23 日
場所／文化生活情報センター



事前に環境に配慮した登山について学習

●日時／ 7 月 24 日～ 26 日 場所／五色沼・磐梯山



山岳協会講師から「登山の心得」として、山の歩き方、荷物、マナー等の話をした。



青い空・山も中で環境問題を体感した

(社) 日本カヌー連盟

Japan Canoe Federation

■第 29 回 NHK 杯全日本選抜カヌースラローム競技大会

●日時／ 2006 年 4 月 30 日 場所／群馬県利根郡みなかみ町 参加人数／ 175 名



式台



競技本部

■第 61 回国民体育大会カヌー競技フラットウォーターレーシング

●日時／ 2006 年 10 月 6 日～ 9 日 場所／兵庫県芦屋市キャナルパーク特設競技場
参加人数／ 446 名



競技場

(社) 日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

■北区アクアスロン大会

●日時／ 2006 年 9 月 10 日 場所／ 北区赤羽中学校



■ 2006 オール・キッズトライアスロン大会

●日時／ 2006 年 9 月 17 日 場所／ 国営昭和記念公園



■第 12 回日本トライアスロン選手権東京港大会

●日時／ 2006 年 10 月 22 日



(財) 日本ゴルフ協会

Japan Golf Association

■第 39 回日本女子オープンゴルフ選手権競技

●日時／ 2006 年 9 月 28 日～ 10 月 1 日 場所／茨木カントリー倶楽部



JGA 許斐順子競技委員、樋口久子女子プロゴルフ協会会長、尾関秀夫常務理事



■第 21 回日本オープンゴルフ選手権競技

●日時／ 2006 年 10 月 12 日～ 10 月 15 日 場所／霞ヶ関カントリー倶楽部



安西孝之会長、吉田友明副会長



■日本シニアオープンゴルフ選手権競技

●日時／ 2006 年 10 月 26 日～ 10 月 29 日 場所／桑名カントリー倶楽部



(社) 日本アマチュアボクシング連盟

Japan Amateur Boxing Federation

■第 18 回全国高等学校ボクシング選抜大会兼 JOC ジュニアオリンピックカップ

●日時／ 2007 年 3 月 22 日～ 25 日 場所／グリーンピア岩沼体育館 参加人数／ 100 名



井口経明岩沼市長、川島五郎日本アマチュアボクシング連盟会長、吉森照夫日連専務理事



競技会場に横断幕の掲揚

(財) 日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

■第 61 回天皇杯・皇后杯 全日本ソフトテニス選手権大会

●日時／平成 18 年 10 月 20 日～ 10 月 22 日

場所／福岡県東平尾公園テニス競技場・名島運動公園テニスコート



中野賢治福岡県ソフトテニス連盟理事長

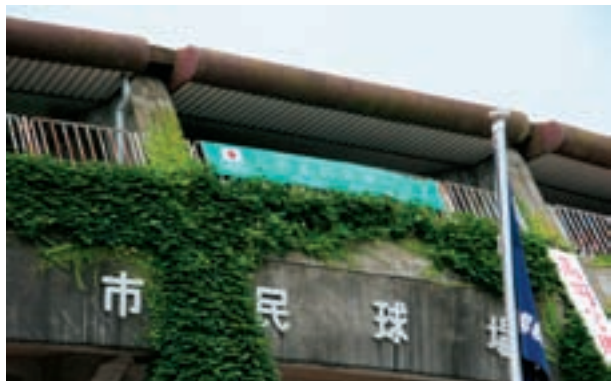


(財) 全日本軟式野球連盟

Japan Rubber Baseball Association

■高円宮賜杯第 26 回全日本学童軟式野球大会マクドナルドトーナメント

●日時／ 2006 年 8 月 12 日～ 17 日 場所／茨城県水戸市 他 参加人数／ 1200 名



左から 岡部英男会長、大山則夫専務理事

(社) 日本フェンシング協会

Federation Japonaise d'Escrime

■第 13 回 JOC ジュニアオリンピックカップフェンシング大会

●日時／ 2007 年 1 月 7 日～ 10 日 場所／駒沢オリンピック公園総合体育館
参加人数／ 1,200 名



西岡詩穂選手、藤野大樹選手

(財) 全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

■第 57 回全日本男子弓道選手権大会、第 39 回全日本女子弓道選手権大会

●日時／ 2006 年 9 月 21 日～ 25 日 場所／全日本弓道連盟中央道場



鈴木三成全日本弓道連盟会長



事務所内でも環境保全を推進

(社) 日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

■ 2006 年度全国秋季ピストル射撃競技大会

●日時／ 2006 年 10 月 27 日～ 29 日 場所／埼玉県朝霞オリンピック射撃場 参加人数／ 218 名



岸高清競技者育成プログラム委員長、三野卓哉 JOC 専任コーチ

(財) 全日本剣道連盟

All Japan Kendo Federation

■ 第 54 回全日本剣道選手権大会

● 日時／ 2006 年 11 月 3 日 場所／ 日本武道館



武安義光会長

(社) 日本近代五種・バイアスロン連合

Modern Pentathlon & Biathlon Union of Japan

■ JOC ジュニアオリンピックカップ 兼 第 3 回チャレンジ近代五種国際大会

● 日時／ 2006 年 9 月 3 日 場所／ 日本エアロビックセンター 参加人数／ 60 名



市川ビアスレ特別委員会委員長、荒木環境委員会委員長、前田賛助会員社長、荻原副会長、大内専務理事

(財) 日本ラグビーフットボール協会

The Japan Rugby Football Union

■第 43 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 第 44 回日本ラグビーフットボール選手権大会

●日時／ 2006 年 12 月 17 日～ 2007 年 1 月 13 日 2007 年 2 月 3 日～ 25 日

場所／秩父宮ラグビー場



比嘉智也事務局職員



事務所内

(社) 全日本アーチェリー連盟

All Japan Archery Federation

■第 61 回国民体育大会アーチェリー競技

●日時／ 2006 年 10 月 7 日～ 9 日 場所／兵庫県加東市 参加人数／ 228 名



兵庫県少女チームと飯塚十朗副会長

(財) 全日本空手道連盟

Japan Karatedo Federation

■第 34 回全日本空手道選手権大会

●日時／ 2006 年 12 月 3 日 場所／日本武道館 参加人数／ 344 名



(財) 日本アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

■第 74 回全日本選手権大会、第 26 回全日本女子選手権大会 (A) 第 11 回全日本女子選手権大会 (B) 他

●日時／ 2007 年 2 月 7 日～ 25 日 場所／八戸市、三沢市、釧路市、神戸市他
参加人数／約 4,000 名



清野勝専務理事、郷渡直樹広報委員



大会競技委員

(財) 全日本ボウリング協会

Japan Bowling Congress

■ JOC ジュニアオリンピックカップ争奪第 30 回全日本高校ボウリング選手権大会

●日時／ 2006 年 7 月 25 日～ 26 日 場所／東京都品川プリンスホテルボウリングセンター
参加人数／ 319 名



(競技場内にポスター掲示)



赤木恭平会長、竹俣茉耶選手（女子優勝）、川添奨太選手（男子優勝）、相澤隆也専務理事

■平成 18 年度定時評議員会

●日時／ 2006 年 5 月 28 日 場所／東京都田町ハイレーン会議室 参加人数／約 90 名



木林博一副会長、赤木恭平会長、臼井日出男副会長

日本ボブスレー・リュージュ連盟

Japan Bobsleigh & Luge Federation

■ 2006 / 2007 リュージュワールドカップ長野大会

日時／ 2006 年 12 月 11 日～ 17 日 場所／長野市ボブスレー・リュージュパーク 参加人数／ 13 カ国 480 人



大会事務局ポスター提示



全日本アマチュア野球連盟

Baseball Federation of Japan

■第 88 回全国高等学校野球選手権大会

●日時／ 2006 年 8 月 6 日～ 21 日 場所／阪神甲子園球場



小坂憲次文部科学大臣



脇村春夫 日本高等学校野球連盟会長



(社) 日本カーリング協会

Japan Curling Association

■ 2006 パシフィックカーリング選手権大会

●日時／ 2006 年 11 月 21 日～ 26 日

場所／ダイドードリンコアイスアリーナ 参加人数／ 60 名



JOC 環境パートナー 佐川急便（株）

JOC Environmental Partner Sagawa Express Co., Ltd

■ ENEX2007



■ エコプロダクツ



■ オリンピックデーラン新潟大会

● 日時／ 2006 年 7 月 29 日



■オリンピックデーラン青森大会

●日時／ 2006 年 8 月 5 日



■オリンピックデーラン長野大会

●日時／ 2006 年 7 月 22 日



■環境フェスティバル 21



(NPO) 日本オリンピックアカデミー

JAPAN OLYMPIC ACADEMY

■日本オリンピックアカデミー総会

●日時／ 2006 年 5 月 20 日 場所／レストランキャスル



和田恵子理事、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、伊藤裕三監事、猪谷千春会長

■第 29 回日本オリンピックアカデミーセッション

●日時／ 2006 年 12 月 17 日 場所／上智大学



左から 4 番目：小野清子副会長、猪谷千春会長



■平成 19 年度事務局長会議

●日時／ 2007 年 4 月 25 日 場所／岸記念体育会館 地下講堂



水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長



■第 61 回国民体育大会 夏・秋季大会

●日時／ 2006 年 9 月 30 日～ 10 月 10 日 場所／兵庫県



水泳会場



県立文化体育館 休憩所



笹川スポーツ財団

SASAGAWA SPORTS FOUNDATION

■湘南オープンウォータースイミング 2006

●日時／ 2006 年 8 月 12・13 日 場所／神奈川県・湘南海岸 参加人数 2,500 名



ゴール会場・腰越海岸



10km スタート会場・逗子海岸



参加登録会場・藤澤市民会館



茹で蛙

1. 熱湯に蛙を放り込むと蛙は熱さに驚いて飛び出る
2. 通常の温度の水に蛙を放り込むと蛙は違和感無く水の中に潜っている
3. その水を徐々に熱して行くと蛙は温度の上昇に気が付かず、気づいた時はもう、飛び出る力なく茹だってしまう



2.



3.



環境省との連携

Ministry of the Environment

■ 2007 Freestyle World Cup in INAWASHIRO

●日時／ 2007 年 2 月 15 日～ 18 日 場所／福島県・猪苗代町



■ 2007J リーグ J1 リーグ戦第1節 横浜F・マリノス vs ヴァンフォーレ甲府

●日時／ 2007 年 3 月 3 日

場所／日産スタジアム



「朝日新聞社機はやどりから撮影」

■ 第 83 回日本選手権水泳競技大会

●日時／ 2007 年 4 月 5 日～ 8 日 場所／千葉県国際総合水泳場



JOC スポーツ環境専門委員会

JOC Sports and Environment Commission

■講演

関東ブロックスポーツ少年団大会

● 2006 年 8 月 20 日



水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長



山口香スポーツ環境専門委員

■第 45 回丸の内市民環境フォーラム

2007 年 3 月 2 日 東京海上日動ビル新館 大会議室



小林孝至スポーツ環境アンバサダー、塚原光男スポーツ環境アンバサダー、水野正人スポーツ環境委員長

■平成 18 年度幹部中央研修会

● 2007 年 3 月 6 日 品川区立総合体育館



土村孝夫東京都体育協会専務理事、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、佐野慎輔産経新聞社運動部長、小島壽一郎東京都体育協会副会長



■視察

城南島スーパーエコタウン

●日時／ 2007 年 2 月 15 日



左から 3 人目鎌賀秀夫委員、遠藤幸一委員、水野正人委員長、佐野和夫副委員長



■スポーツ環境アンバサダー会議

● 2007 年 4 月 25 日 理事・監事室



後列：左から 4 番目水野正人副会長、板橋一太スポーツ環境専門委員長

前列：左から黒岩敏幸、小林孝至、瀬古利彦、岩崎恭子、岡田武史のスポーツ環境アンバサダー



萩原健司



松岡修造



大林素子



塚原光男

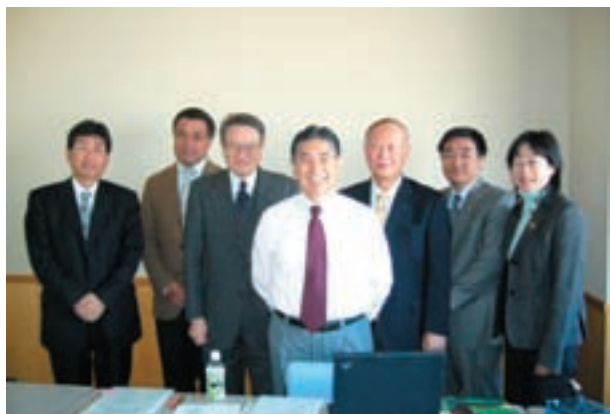


八木沼純子



阿武教子

■ JOC スポーツ環境専門委員会



別所恭一委員、田嶋幸三委員、瀬尾洋副委員長、水野正人委員長、佐野和夫副委員長、鎌賀秀夫委員、山口香委員



後列：左から2番目鎌賀秀夫委員、久保田克彦委員、西脇克治委員、別所恭一委員

前列：平松純子委員、瀬尾洋副委員長、水野正人委員長、佐野和夫副委員長、山口香委員



遠藤幸一委員



平田竹男委員



松岡修造委員

■ 「ISO14001 / 環境マネジメントシステム」更新審査と登録証



■ JOC 事務局内レクチャー



環境方針

環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC 事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC 事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源のリサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成 18 年 3 月 17 日

財団法人日本オリンピック委員会
会長 竹田 恆和

ISO14001 の認証登録を更新



認証登録証を受け取った竹田 JOC 会長（右）とスポーツ環境専門委員会の水野委員長。写真提供：フォート・キシモト

JOC は 2001 年にスポーツ環境委員会を設置し、2003 年 7 月 11 日に世界の NOC に先駆けて、事務局業務における環境マネジメントシステム規格 ISO14001 の認証登録を行い、毎年サーベイランスを受け、問題点を見直し、このたび再審査を受け、登録更新が承認された。

おん だ ん か け
温暖化でスポーツを消さないで！

STOP THE 'GLOBAL WARMING'

子供たちのために、未来をとり返そう



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
SPORTS AND ENVIRONMENT COMMISSION

財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境委員会



財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) は
「チーム・マイナス6%」に参加しています。

平成 18 年度 スポーツ環境委員会活動報告書

JOC Sport and Environment Commission Report 2006

写真によるスポーツ環境の活動報告	4
<i>Photographic report of activities on Sport and Environment</i>	

目次

Contents

1. スポーツ環境委員会活動の意義について	67
<i>Objective of JOC Sport and Environment Commission</i>	
2. 第2回 JOC スポーツと環境・地域セミナー開催報告	68
<i>Report of 2nd JOC Regional Seminar on Sport and Environment</i>	
3. 第3回 スポーツと環境担当者会議開催報告	74
<i>Report of 3rd National Sports Federations Conference on Sport and Environment</i>	
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について	77
<i>Issues regarding awareness and implementation activities</i>	
(1) JOC スポーツ環境委員会及び各団体の活動状況	77
<i>Activities of the commission, JOC affiliated NFs and organizations</i>	
(2) 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧	98
<i>List of environmental commission in each JOC affiliated NFs and organizations</i>	
(3) JOC スポーツ環境アンバサダーについて	100
<i>JOC Sports environment ambassadors</i>	
(4) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	101
<i>Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs</i>	
(5) 国際総合大会での活動	104
<i>JOC environmental activities at the International Games</i>	
(6) 環境省との連携について	106
<i>Collaboration with Ministry of Environment</i>	
(7) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	107
<i>Draft of lectures on Sport and Environment</i>	
5. IOC スポーツと環境委員会について	116
<i>IOC Sport and Environment Commission</i>	
(1) IOC スポーツと環境委員会	116
<i>IOC Sport and Environment Commission</i>	
(2) IOC スポーツと環境・地域セミナー	117
<i>IOC Regional Seminar on Sport and Environment</i>	
6. 関連資料	140
<i>References:</i>	
(1) JOC スポーツ環境専門委員会名簿	140
<i>Roster of JOC Sport and Environment Commission</i>	
(2) IOC 組織・機構図	141
<i>IOC Organization and Structure Chart</i>	
(3) IOC スポーツと環境委員会小史	142
<i>Brief history of IOC Sport and Environment Commission</i>	
(4) JOC スポーツ環境委員会小史	143
<i>Brief history of JOC Sport and Environment Commission</i>	
(5) オリンピック・ムーブメント・アジェンダ 21	144
<i>Olympic Movement's Agenda 21</i>	

1. スポーツ環境委員会活動の意義について

Objective of JOC Sport and Environment Commission

スポーツ界もストップ温暖化

ここ数年で地球温暖化、異常気象など環境汚染による不都合な事象を体感する事が加速度的に増えています。砂漠化、熱帯雨林の減少、酸性雨、生物種の減少、オゾン層の破壊など地球温暖化と並行して問題提起が成されて来ましたが、昨今は地球温暖化から生ずる異常気象が明らかに顕在化しつつあり、世界的に具体策を講じる事が求められています。

スポーツ界は各競技団体が競技力向上と普及振興策に力を尽くすと共に強化拠点の整備などが進み、また国際競技会での高い成果に今後の期待がかけられています。ところがここに来て「温暖化がすすむと、ぜったいに消えるスポーツがある」と冬季のスポーツは危機感を募らせています。地球温暖化は降雪量を極端に減少させヨーロッパで開催された幾つものスキーイベントが雪を求めて開催地を変更し、また以前は凍結した池が凍らなり、自然の水の上でのスケートが不可能になりつつあります。夏のスポーツも気温が極端に上がると競技上、健康上の悪影響を起こす可能性が指摘されています。

2001年に JOC にスポーツ環境委員会が設置されました。爾来、委員各位、JOC 加盟競技団体、国民体育大会を主催する日本体育協会、環境省、東京都環境局を始め行政の関係者、JOC 事務所の担当者、又関連する多くの協力者の絶大なご協力を得て委員会活動を推進できました事に厚くお礼を申し上げます。

スポーツ環境専門委員会の活動は継続力が求められます。年を追うごとに活動が充実している事に感謝をすると共に平成 19 年度から環境アンバサダー制度もスタートします。また、東京オリンピック招致の重要な要素である環境保全の計画立案にも協力をさせて頂きたいと存じます。

日本社会の中でスポーツ界が環境保全の模範的な活動を推進すべく皆さまのご協力をお願い申し上げます。

平成 18 年 3 月

財団法人日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会
委員長 水野正人

2. 第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

Report of 2nd JOC Regional Seminar on Sport and Environment

1. 趣 旨：財団法人日本オリンピック委員会（JOC）では平成13年度からスポーツ環境委員会を設置し、啓発・実践活動を推進してまいりました。この度その活動のひとつとして、地域セミナーを長野市で開催いたしました。このセミナーはスポーツ界における環境保全の啓発・実践活動の必要性を理解してもらうもので、北信越地区のスポーツに携わっている皆様に当委員会の環境保全活動にご理解と実践のご協力をお願いするものです。
2. 共 催：財団法人日本オリンピック委員会、長野市（JOCパートナー都市）
3. 後 援：文部科学省、中部地方環境事務所、財団法人日本体育協会
財団法人長野県体育協会、財団法人長野市体育協会、長野県教育委員会
長野市教育委員会、長野オリンピックムーブメント推進協会
4. 日 時：平成18年9月22日（金）13：30～17：00
5. 場 所：長野県県民文化会館 2階 小ホール
〒380-0928 長野市若里1-1-3 電話：026-226-0008
6. 参 加 者：JOC役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員
JOC、日本体育協会加盟団体のスポーツと環境担当者
北信越地区の体育協会、教育委員会の環境担当者及びスポーツ指導者
ワールドワイドパートナー、JOCオフィシャルパートナー
JOCパートナー都市関係者 その他 計 200名
7. プログラム：13：30 主催者挨拶 竹田 恆和 財団法人 日本オリンピック委員会会長
鷲澤 正一 長野市市長
- 13：40 スポーツと環境保全とのかかわり
◇基調講演 スポーツと環境について
荻原 健司 JOC評議員・アスリート専門委員・女性スポーツ専門委員
荻原 次晴 JOCオリンピックデラン・アンバサダー
- 14：20 休憩
- 14：50 ◇IOCスポーツと環境委員会活動
水野 正人 IOCスポーツと環境委員、JOC理事・スポーツ環境専門委員
◇JOC環境アンバサダー
大林 素子 日本バレーボール協会 女子強化委員
- 15：20 ◇長野市のESCO事業について
鈴木 克幸 環境部環境管理課 部主幹
- 15：50 冬季競技の環境保全の啓発・実践活動について
◇スキー 丸山 仁也 国際スキー連盟技術代表
◇スケート 黒岩 俊幸 日本スケート連盟スピードスケート強化スタッフ
◇バイアスロン 百瀬 公基 日本近代五種・バイアスロン連合理事
長野県バイアスロン連盟会長
◇アイスホッケー 中村 慎 日本アイスホッケー連盟理事
◇ボブスレー・リュージュ 藤牧 博和 日本ボブスレー・リュージュ連盟総務・財務委員長
◇カーリング 長岡 秀秋 日本カーリング協会理事・強化委員長
- 17：00 閉会

パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長からのメッセージ



Dear President Takeda,

On behalf of the International Olympic Committee and the Sport and Environment Commission of the IOC, I would like to express sincere congratulations to Japanese Olympic Committee and City of Nagano on the 2nd JOC domestic regional seminar on Sport and Environment held in Nagano.

Since the establishment of Sport and Environment Commission of the IOC in 1995, the commission has been committed to raise awareness and to implement environment conservation in the sports world especially at the occasion of the Olympic Games. In order to achieve this, we have been hosting the World Conferences in every two years and the regional seminar in once or twice a year since it's foundation, in which we disseminate the concept of sustainability.

As you know, Nagano hosted the 18th Olympic Winter Games successfully in 1998 with special considerations on environmental issues under the goal of "Respect of Beauty and Bounty of Nature". Since then, the IV IOC World Conference on Sport and Environment was held at Nagano in 2001 with the theme of "Give the planet a sporting Chance".

I am very pleased that JOC has been making quite concrete and practical activities for sustainable development along with the National Federations, in accordance with Nagano Declaration and Torino Commitment.

I wish you and all the participants every success and I do expect every participant become capable leader of Sport and Environment in Japan.



Paul SCHMITT

Chairman

Sport and Environment Commission of the IOC

財団法人日本オリンピック委員会と長野市の共催により第2回スポーツと環境・地域セミナーが北信越地区を対象に長野で開催されることに対し、IOC スポーツと環境委員会を代表してお祝いを申し上げます。

IOC スポーツと環境委員会は1995年に創設されて以来、オリンピック憲章に則り、環境に対する意識の啓発と具体的な方策の実践を通じてスポーツ界における環境保全を推進してまいりました。委員会は又、隔年で世界会議、年に1、2回世界各地で地域セミナーを開催しております。

長野市は1998年に第18回オリンピック冬季競技大会「美しく豊かな自然との共存」を合言葉に、環境問題に配慮した大会を開催しました。また、2001年には第4回IOCスポーツと環境世界会議を開催し、「この星にスポーツを (GIVE THE PLANET SPORTING CHANCE)」長野宣言を世界に発信するなど積極的に取り組んでおられます。

参加者の皆さんがスポーツと環境の重要性を学び、スポーツ界での環境保全のリーダーとなれることを期待しております。

IOC スポーツと環境委員会
委員長 パル・シュミット

第2回 JOC スポーツと環境・地域セミナー出席者

平成 18 年 9 月 18 日

所属先	氏 名	所属先	氏 名
日本オリンピック委員会	竹 田 恆 和	日本バドミントン協会	平 林 良 治
	早 田 卓 次	日本ライフル射撃協会	井 上 彬
	水 野 正 人	日本山岳協会	若 月 東 児
	遠 藤 幸 一	日本アイスホッケー連盟	中 村 慎
	鎌 賀 秀 夫		溝 口 宏 一
	別 所 恭 一	全日本なぎなた連盟	森 本 美佐子
	山 口 香	日本ボブスレー・リュージュ連盟	塚 田 芳 樹
長野県教育委員会	藤 井 昭 一	日本フロアホッケー連盟	小 坂 利 雄
長野県体育協会	星 見 頼 彦	北信越ブロック体操協会	中 澤 隆 一
	山 田 栄一郎	日本 3 B 体操協会長野県支部	中 島 久 子
長野市体育協会	山 本 洋		星 野 千枝子
	水 沢 宏 夫	長野陸上競技協会	中 津 敦 喜
長野オリンピックムーブメント推進協会	羽 田 直 史	長野県水泳連盟	篠 原 邦 彦
	赤 木 昌 代	長野県スキー連盟	太 谷 陽 一
長野オリンピック記念長野マラソン大会組織委員会	木 田 健二郎		内 藤 久 俊
須坂市教育委員会	牧 宏		西 村 時 夫
野沢温泉村教育委員会	坂井田 浩 史		富 永 好 文
上田市体育協会	西 川 孝 昭		三 村 功
伊那市体育協会	北 野 浩 幸	長野県テニス協会	庭 山 裕
大町市体育協会	石 原 学		倉 島 勇
須坂市体育協会	堀 内 孝 人		飛 田 昌 広
	傳 田 明 康	長野県ホッケー協会	猪 股 添
中野市体育協会	中 嶋 元 三		江 村 恵 一
	竹 内 晋 一		吉 池 珠 己
	阿 藤 千 春		三ッ井 晋
上伊那郡体育協会	米 山 正 克		清 水 峯 雄
長野市体育指導委員協議会	宮 澤 俊 弘		藤 沢 正 夫
	長谷部 千代子	長野県バスケットボール協会	小 林 和 夫
	荒 井 公		夏 目 敏
	大 橋 秀 男	長野県スケート連盟	山 上 泰 司
	小 林 公 子		小 山 幸 夫
長野県高等学校体育連盟	宮 尾 秀 利	長野県セーリング連盟	小 山 利 男
	加 藤 博	長野県ウエイトリフティング協会	市 川 秀 俊
	斉 藤 重 夫		牛 山 成 剛
長野県中学校体育連盟	久保田 博	長野県ハンドボール協会	竹 内 佳 明
	柳見沢 宏		鳥谷越 洋
日本水泳連盟	中 澤 正 治	長野県ソフトテニス連盟	宮 沢 幸 男
日本サッカー協会	丹 羽 洋 介		島 村 道 夫
日本バスケットボール協会	松 岡 憲四郎	長野県卓球連盟	大 沢 正 行
日本スケート連盟	山 崎 弘 雄		酒 井 国 充
日本ウエイトリフティング協会	岡 本 実		小 出 富美子
日本ソフトテニス連盟	和歌浦 信 雄	長野県相撲連盟	植 原 延 夫
日本卓球協会	竹 内 敏 子	長野県柔道連盟	竹 鼻 要
全日本軟式野球連盟	野々市 孝		丸 山 恒 男
	西 澤 茂 芳		宮 下 良 雄
日本フェンシング協会	末 松 英 司		

所属先	氏 名	所属先	氏 名
長野県ソフトボール協会	宮 入 正 純	長野走ろう会	原 山 袈裟三
	山 際 莊 一		青 木 正 明
	倉 又 アサ子		今 泉 健 一
長野県バトミントン協会	北 澤 幸 尚	長野市スキークラブ	山 田 雅 美
	西 澤 優 子	長野サイクリング協会	高 野 捷 紀
	西 澤 良 三	長水ソフトバレーボール連盟	大日方 美代子
長野県ライフル射撃協会	関 川 孝 雄		戸 谷 緑
長野県剣道連盟	青 木 徳 子	長野市バウンドテニス協会	矢 島 真理子
長野県山岳協会	杉 田 浩 康		雨 宮 奈美江
	伊 藤 明 雄	長野スポーツコミュニティクラブ東北	藤 牧 敏 子
長野県アーチェリー協会	菅 原 正 幸	北信レクリエーション協会	横 田 雄 司
長野県アイスホッケー連盟	山 口 満 予		春 原 輝 明
長野県銃剣道連盟	北 原 正 友	スポーツ少年団長野剣道	原 山 勇
長野県ボウリング連盟	竹 下 将 弘	スポーツ少年団長野国際交流	高 橋 寛
	黒 岩 重 樹		上 原 真 奈
長野県武術太極拳連盟	小 林 文 子		張 淑 華
	山 崎 優 子	ミズノ株式会社	宮 本 春 樹
	山 崎 岳 彦	佐川急便株式会社	松 本 秀 一
長野県カーリング協会	園 部 淳 子	株式会社日本航空	吉 田 修
	西 室 雄 二	全日本空輸株式会社	立 田 弘 士
長野県少林寺拳法連盟	宮 本 繁	シンコースポーツ株式会社	木 村 誠
	山 田 義 治	株式会社フクシ・エンタープライズ	武 田 雄 爾
	関 英 明		丸 山 隆
長野県ローラースポーツ連盟	小 山 武 男	株式会社電算・コナミスポーツ株式会社グループ	高 橋 京 一
	北 原 勲		保 谷 宗 男
	岡 村 仁		本 田 潤 一
長野市陸上競技協会	藤 本 勝 彦	株式会社アサツーディ・ケイ	栃 原 克 仁
	西 片 功		森 本 浩 司
長野市テニス協会	太 田 衛		中 村 由美子
長野市スケート協会	土 橋 文 行	GMA earth	河 村 明
	竹 内 隆 文	JOCHP・機関誌オリンピック編集チーム	園 田 郁 子
長野市家庭婦人バレーボール連盟	山 崎 公 子	JOC 事務局	廉 屋 友美乃
	黒 柳 孝 子		山 本 佳代子
	宮 澤 伸 子		石 川 宣 治
	傳 田 郁 子	長野市教育委員会	高橋ダニエル克弥
	桑 村 恵 子		島 田 政 行
	木 船 和 子		伝 田 彰 雄
	湯 本 ゆ か		増 尾 昭 彦
長野市ソフトテニス協会	駒 村 陽一郎		堀 内 志 功
長野市卓球協会	竹 内 和 男		丸 山 英 樹
長野市父親卓球連盟	清 水 堅 吾		市 川 文 彦
長野市ママさん卓球連盟	牧 野 歌 恵		篠 原 弘 美
	原 山 けい子		辛 山 賢 治
長野市軟式野球連盟	伊 藤 伸 三		吉 池 晃
	太 田 直 重		風 間 広 太
長野市相撲連盟	町 田 明 彦		塚 田 真 一
	大 谷 浩 昭		鈴 木 克 幸
長野市馬術連盟	鍋 沢 悦 也		
	渡 辺 とし子		
NCWA 長野市ウォーキング協会	桐 原 俊 文		
	塚 田 光 明		

第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー

JOCパートナー都市の長野市で開催



去る9月18日、第2回JOCスポーツと環境地域セミナーが長野県県民文化会館小ホールで行われ、約200名が参加した。主催者として竹田恒和JOC会長は「スポーツと環境は密接な関係があると思います。また相互に協調していかなければいけないもの」と挨拶。長野市の鷲澤正一市長も長野市が積極的に環境保全に取り組んでいることをアピールした。

第1部 スポーツと環境保全とのかかわり

セミナーのトップバッターで登場したのはJOC評議委員・アスリート専門委員・女性スポーツ専門委員の荻原健司氏とJOCオリンピックデラン・アンバサダーの荻原次晴氏。両氏はノルディック複合競技選手として長年、冬季競技にかかわってきた経験から、深刻な雪不足について触れた。

健司氏は世界レベルで雪不足の深刻化を指摘。「昔は暑さから逃れるため、ヨーロッパの3000m級の山の氷河を使って、クロスカントリーの練習に出かけていったが、面積が毎年、小さくなっており、雪も汚くなっている」

一方、次晴氏からはこんな衝撃的なエピソードも紹介された。「'95年にカナダで行われた世界選手権の競技場の隣にはパルプ工場があり、そのエリアの空気が非常に汚れていた。滑るとスキー板の滑走面が重油をつけたみたいな真っ黒の汚れがついていた」

また健司氏はこの先、温暖化が進むといずれ地球から雪がなくなり、スキー競技自体がなくなってしまうのではないかと警鐘を鳴らし、「スポーツを愛する若い世代も環境保全についてもきちんと考えなくてはいけない」と語った。

具体的な取り組みについて次晴氏は、「僕は家庭でもごみを何種類も分けているし、荻原家はかなり節約家で、悪く言うとかなりケチ。だから無駄なものは買

わない」と語り、会場の賛同を得ていた。またある日本代表のスノーボードの選手が環境保全のためエアコンを一切使わないといった話を披露した。

日本バレーボール協会女子強化委員でJOC環境アンバサダーの大林素子氏は、取材などを通し現在のバレーボールで行われている環境保全について次のように語った。

「私たちの時代は自由に冷房を使っていたが、今はそれが一切ダメ。試合以外は冷暖房を使わずにいる。またバレーボール会場をよく見かけるスティックバルーンも以前は使い捨てだったものが、最近はストローで空気を出し入れできるようになり、持ち運びも可能になったのでごみも減った」

JOCスポーツ環境専門委員会の水野正人委員長はスライドを使ってスポーツと環境のかかわり、活動の経緯について説明。ごみ分別など各競技団体の現場での取り組みについても写真とともに紹介。

具体的な活動の提案として、無駄な電気や紙の削減、同じものをできるだけ多い回数使う工夫をすること、使えなくなったものはうまくリサイクルし、他物資にして使用することなどをあげた。加えて水野委員長は環境保全活動を継続していくに当たり「環境保全はエンドレスな仕事。だから最初から張り切りすぎず、自分のペースで忍耐力や継続力を持って、進めていくことが大事です」と会場にアドバイスを行った。

またスポーツ環境の啓発活動を推進するバナーやポスター



JOCスポーツ環境委員会の水野正人委員長。

をオフィスなどに掲示するよう各競技団体の関係者に求めた。

長野市の環境保全の取り組みとして、長野市環境管理課鈴木克幸氏がESCO事業を説明。ESCO事業は地球温暖化対策のひとつで、ESCO事業者は建物やビル、工場などがどのようにすれば省エネルギー効果が見られるか計測・設計・施工し、さらには省エネに関する包括的なサービスを提供する。長野市がESCO事業を導入するのは今年度がはじめてで、テニスコートや陸上競技場、温水プールなどがある長野運動公園総合運動場総合的で光熱費など消費エネルギーを抑え、二酸化炭素の排出を減らすことを目的としている。

第2部 冬季競技の環境保全の啓発・実践活動について

国際スキー連盟技術代表の丸山仁也氏は、スキーは自然とのかかわりが強いスポーツだと強調。その中で雪面硬化剤使用についても慎重に協議していることを示した。「自然の雪の状態ではどうしてもやわらかく、競技をしていくうちに斜面が荒れてしまう。そういったことを防ぐために水や雪面硬化剤を使うが、開催地の住民としては草の育成に害を及ぼすようなものは使用して欲しくない。そこで全国の大会代表者に集ってもらい、どういうタイミングでまけば、少ない量で効果的に使うことができるかなどを各地の情報を交換しながら、議論し、できるだけ自然へのプレッシャーを抑えるための努力をここ数年、続けてきた」

日本スケート連盟はスピードスケート強化スタッフの黒岩敏幸氏が登壇。「大会でも電力消費量や印刷物の削減、競技役員が大会中使用する紙コップなどは名前を書いて再利用することを促した。またごみの徹底分別により、新しい資源を生み出す手助けをした」と3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進活動を具体的に示した。

バイアスロンからは日本近代五種バイアスロン連合理事長野県バイアスロン連盟会長の百瀬公基氏が取り組みについて説明。ライフルで使用する弾（鉛）の全弾回収について触れ「メタルターゲットを使用すると弾がほうきとちりとりで回収ができる。とはいえ日本では4箇所しか競技場がないため、その中ではメタルターゲットを使わず、紙やガラスのターゲットを使っているところもある。ただしその対策として、標的の下部分をコンクリートにして後ろをプラスチックか



基調講演は荻原健司氏（写真右）と荻原次晴氏（同左）が雪山やスキー競技の将来について語った。

コンクリートの枠を組んで、その中にある粘土のようなものに対して打ち込み、後で回収する装置を連盟では考えている」と語った。

アイスホッケーの保全・実践活動は、会場内のごみ分別、回収、コピー用紙の再利用、マイカップの持参、省エネ対策として暖房器具の低めの設定、マイカー利用の抑制を推進。日本アイスホッケー連盟理事の中村慎氏は「最近のスティックはブレードの部分だけが取り替えられるようになり、シャフトは何度も使える。これも環境保全対策としては意義のあることではないか」と話した。

ボブスレー・リュージュは日本ボブスレー・リュージュ連盟総務・財務委員長藤牧博和氏が長野市にある競技施設『スパイラル』で以下のような活動を推進していると報告。「6年前から『夏フェスタインスパイラル』という名称で事業を行っているが、そこで環境保全実践活動を行っている。ここでは連盟の選手や役員、『スパイラル』のある地元長野市浅川地区の住民で作られた浅川スパイラル友の会、選手の関係者で構成されるリュージュ振興会、浅川小学校の子供たちなどが集まり、草刈りやごみ拾いを行っている」このようなイベントは子供たちの環境保全に対する意識を高め、啓発活動としておおいに役立っているという。

カーリングは製氷に電気やバッテリーを使い、二酸化炭素の排出がほとんどないものを使用。日本カーリング協会理事・強化委員長の長岡秀秋氏は「氷も直接、環境に影響はなくても水道水をイオン交換して使用。またごみの分別収集の徹底も行っている」と報告した。



JOC環境アンバサダーの太林素子さん。室内競技での現状などをフレンドリーな語り口で伝えてくれた。

3. 第3回スポーツと環境担当者会議 開催報告

Report of 3rd National Sports Federations Conference on Sport and Environment

1. 趣 旨：日本オリンピック委員会（JOC）は平成 13 年度からスポーツと環境に関する啓発・実践活動を推進してまいりました。JOC 加盟団体の環境担当者及び携わっている方々に活動を理解いただき、環境保全について相互の連携を図るために標記会議を開催いたしました。
2. 主 催：財団法人 日本オリンピック委員会
3. 後 援：文部科学省、環境省、財団法人日本体育協会
4. 期 日：平成 18 年 11 月 10 日（金）13：30～16：30
5. 場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟 2 階 第 1 ミーティングルーム
〒151-0052 渋谷区代々木神園町 3-1 TEL：03-3467-7201
6. 出席範囲：①本会役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員
②本会加盟団体環境担当（3 名程度）
③JOC オフィシャルパートナー / ワールドワイドパートナー 計 85 名
7. プログラム：テーマ「私たちにできること」

13：00	受付
13：30	開会
13：40	IOC スポーツと環境への取り組みについて IOC スポーツと環境委員 水野 正人
14：00	「チームマイナス 6%」について 環境省地球環境局 地球温暖化対策課国民生活対策室 プロジェクトリーダー 吉野 議章
14：30	環境保全・啓発活動への取り組み事例紹介について スポーツ環境専門委員 鎌賀 秀夫
14：50	休憩（情報交換）
15：10	JOC のスポーツと環境保全・啓発活動について —アンケート集計結果について— スポーツ環境専門委員長 水野 正人
15：30	競技団体等の環境への取り組み事例紹介について 日本卓球協会 常務理事 竹内 敏子
15：45	日本ソフトボール協会 スポーツ環境委員長 鈴木 征
16：00	アオダモ資源育成の会 理事長 大本 修
16：15	JOC 環境アンバサダーの紹介 フィギュアスケート 八木沼 純子
16：30	閉会

第3回 JOC スポーツと環境担当者会議

平成 17 年 9 月 16 日

所属先	氏 名	所属先	氏 名
財団法人 日本オリンピック委員会	相 澤 隆 也	社団法人 日本ライフル射撃協会	石 崎 和 男
	水 野 正 人		塚 越 ゆかり
	村 里 敏 彰	財団法人 全日本剣道連盟	山 田 善 博
スポーツ環境専門委員会	瀬 尾 洋	財団法人 日本ラグビーフットボール協会	岡 本 武 勝
	佐 野 和 夫	社団法人 日本山岳協会	若 月 東 児
	鎌 賀 秀 夫	社団法人 日本カヌー連盟	岩 上 禎 宏
	久保田 克 彦	社団法人 全日本アーチェリー連盟	島 田 晴 男
	田 嶋 幸 三	財団法人 日本アイスホッケー連盟	土 田 忠
	山 口 香		橋 詰 武 彦
財団法人 日本陸上競技連盟	有 澤 政 雄	社団法人 日本クレイ射撃協会	大 江 直 之
	瀬 戸 邦 宏	財団法人 全日本ボウリング協会	宮 内 久美子
	豊 泉 和 男	全日本アマチュア野球連盟	後 勝
財団法人 日本水泳連盟	斉 藤 由 紀	社団法人 日本トライアスロン連合	和 田 恵 子
	小 川 知 伸		松 生 治 子
財団法人 日本サッカー協会	高 埜 尚 人	財団法人 日本ゴルフ協会	波 井 結 子
	不 破 信	社団法人 日本ビリヤード協会	森 村 宏 喜
財団法人 全日本スキー連盟	塩 島 寿	社団法人 日本ボディビル連盟	小 西 康 道
財団法人 日本テニス協会	橋 爪 功	財団法人 IAAF 世界陸上 2007 大阪大会組織委員会	石 田 康 男
	中 原 かおり		若 林 亮
	秋 山 英 宏	ミズノ株式会社	三 好 裕
社団法人 日本ホッケー協会	西 中 武 士		南 文 隆
社団法人 日本アマチュアボクシング連盟	吉 森 照 夫	株式会社アシックス	丸 山 博 之
	立 川 武 雄		白 井 良 治
財団法人 日本バレーボール協会	中 野 淳 子	(株)ウイル・コーポレーション	岩 崎 久美子
財団法人 日本バスケットボール協会	今 豊	株式会社エヌ・ティ・ティドコモ	塚 本 達 郎
財団法人 日本スケート連盟	安 藤 美和子	日本航空	吉 田 修
財団法人 日本レスリング協会	菅 芳 松		長 嶺 由美子
	高 橋 正 仁	株式会社アサツーディ・ケイ	松 本 芳 幸
財団法人 日本セーリング連盟	荒 居 達 雄		森 本 浩 司
	豊 崎 健		河 村 明
社団法人 日本ウエイトリフティング協会	岡 本 実	共同通信社	早 川 忠 宏
	松 尾 謙 資	JOCHP・機関誌オリンピック編集チーム	園 田 郁 子
財団法人 日本ハンドボール協会	村 松 誠		廉 屋 友美乃
	大 塚 文 雄	環境省	吉 野 議 章
財団法人 日本自転車競技連盟	松 尾 英 治	日本卓球協会	竹 内 敏 子
財団法人 日本ソフトテニス連盟	瀬 戸 幹 男	日本ソフトボール協会	鈴 木 征
財団法人 全日本軟式野球連盟	吉 田 麻 実	アオダモ資源育成の会	大 本 修
社団法人 日本馬術連盟	木 村 スガ子	J O C 環境アンバサダー	八木沼 純 子
社団法人 日本フェンシング協会	藤 原 義 和	財団法人 日本オリンピック委員会	日比野 哲 郎
財団法人 日本ソフトボール協会	青 木 敬 祐		山 本 佳代子
財団法人 日本バドミントン協会	近 岡 昭		石 川 宣 治
	本 多 修 治		高橋ダニエル克弥
財団法人 全日本弓道連盟	浅 見 卓		

第3回スポーツと環境担当者会議

2006年11月10日、国立オリンピック記念青少年センターにて「第3回スポーツと環境担当者会議」が開催された。



個人でできる環境保全活動

第3回のテーマは「私たちにできること」。すでに深刻化しつつある地球温暖化の現状や、一個人が取り組むべき環境保全活動について話し合われた。

はじめにJOCの水野正人スポーツ環境専門委員長がJOCのスポーツと環境への取り組みを説明。水河の減少、日本海域の気温の上昇など地球温暖化現象が世界各地で深刻に進んでいる現状を訴えた上で、「JOCは地球環境保全をアピールするポスターや横断幕を作り、各競技団体に配布。さまざまな協力を得て、啓発活動をしている」と、環境保全について相互の連携がしっかりと図られるようになってきたことを報告した。

次に環境省が推進している「チームマイナス6%」について、環境省地球環境局の地球温暖化対策課国民生活対策室プロジェクトリーダーの古野謙章氏が説明を行った。1997年の京都議定書では、日本は1990年に比べ2008年から2012年の間に温室効果ガス排出量を6%削減することを取り決めている。CO2排出を削減するため、チームマイナス6%の基本となる考え方として以下のことを挙げた。

- ・知識から行動へ。マイナス6%を知るだけではなく、行動する。
- ・政府の本気感を示す。そのために総理大臣や環境大臣もポスターに登場。
- ・WIN-WINの関係を大切に。行動に結びつけるためには押し付けず、お互いがメリットになるようにする。
- ・情報の洪水に埋もれる危険性があるので、温暖化の情報を集中的に発信する。

またスポーツ選手の言動は影響力があると古野氏。

「スポーツ選手が自分の言葉で語りかけることは子どもたちへの影響も大きい。ぜひスポーツ選手にオピニオンリーダーになってもらいたい」と語った。

続いて鎌賀秀夫スポーツ環境専門委員が環境保全・啓発活動への取り組み事例を紹介した。鎌賀委員は日本レスリング協会のスポーツ環境委員長でもあり、同協会での環境への取り組みを紹介。

日本レスリング協会では独自のポスターを作成。子どもたちにも環境問題を考えてもらおうと、3R運動についての漫画

もイラストレーターに依頼して作成していると報告。

「環境保全の取り組みは、まずやってみること。活動を続けていくうちにどれだけの人が関心を持っているか不安にもなるが、やらないことには前に進まない」と鎌賀委員は語った。

各競技団体などの取り組みについて

20分の休憩をはさみ、競技団体等の環境への取り組み事例の紹介に移り、日本卓球協会の竹内敏子常務理事と日本ソフトボール協会の鈴木征スポーツ環境委員長が説明を行った。

現在、卓球では揮発性のある有機溶剤を含む接着剤が問題になっている。ラケットにラバーを貼るときに使用するこの接着剤はまもなく世界で全面的に禁止となるが、それに先駆け日本では小学生の選手が使わないようにしていく考えだ。また日本卓球協会には平成17年度に環境委員会が設置され、「帰る時は来た時よりも美しく」という標語やポスターの作成、競技会場へのゴミ箱設置による啓発活動を昨年度は14会場で行った。2009年には卓球の世界大会が横浜で開催されるが、この大会は環境をテーマに開催される、と報告。

ソフトボールは金属バットの再利用を検討。現在、地元の産廃業者や日本バット工業会の会長との意見交換、回収方法、費用について思案中だと語った。また子どもたちの意識を改革するためにもソフトボール環境標語を募集し、942点の応募があった中から山梨県の中学生の作品「ホームラン 入ったスタンド ゴミはなし」が最優秀作品として選出された他、優秀作品が45点選考されたことを報告した。

次に、野球のバット材として最良とされるアオダモの育成に取り組む「アオダモ資源育成の会」について説明するため同会の大本修理事長が壇に上がった。

アオダモは九州から北海道まで広く分布している落葉高木でアオダモはバットの素材として世界一とされている。バットはこれまで年間12〜13万本が製造されてきたが、バットの材料になるまで70年もの年月を要し、しかも1本の本から4本しか作れない。現在は3万本の生産が限界となっている。そこで里山に植樹し、バット材の確保と環境保全の両方に力を入れる「アオダモ資源育成の会」を平成14年7月17日に設立した。日本各地の球場などに記念プレートとアオダモの本を植樹、循環利用として使い終わったバットは燃やして炭にし、山に還す活動を行っていると説明した。

会議の最後にはプロスケーターでJOCスポーツ環境アンバサダーの八木詔純さんが登場。スケーターの視点から見た環境問題について「フィギュアスケートのエッジは1年に2本



使いますし、靴も3足は履きつぶします。これをもう一度集めて、何か作れないと考えたことがあります。また環境への取り組みを常に言い続けなくてはと思います。各リンク訪れたとき、ポスターを貼ったりスタッフと協力し合って観客に呼びかけて協力を得ています」と述べた。

4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

Issues regarding awareness and implementation activities

(1) JOC スポーツ環境委員会及び各団体の活動状況

Activities of the commission, JOC affiliated NFs and organizations

(財)全日本スキー連盟 スポーツ環境委員会 活動報告

JOC スポーツ環境専門副委員長 瀬尾 洋

(財)全日本スキー連盟 常務理事／スポーツ環境委員長

スキー連盟では環境保全については、長野県で開催された冬季オリンピックの競技会場の検討時から環境保全に係ることがいろいろと発生し、オリンピック終了の1998年10月にスポーツ環境委員会を組織して取り組んでいる。活動内容は、スキー場開発に伴う環境保全、スキー競技条件と環境問題の調整、一般スキースポーツ全般の環境保全に関する啓発等である。

その後、JOCのスポーツ環境専門委員会の啓発と実践方針に沿って活動している。本年度の活動は、写真で紹介したとおりである。特に新しいことは、環境省のチームマイナス6%へスキー連盟として加入したこと、さらにスキー連盟11万人の会員も加入して、環境保全の啓発と実践活動を展開することが計画されている。

次の写真は今年の2月に開催されたフリースタイルのワールドカップ時に環境省が大会の協賛団体として加わり、選手や観客と横断幕を広げ、「温暖化ストップ」の掛け声を上げて環境保全の啓発をしているところである。



日本水泳連盟スポーツ環境委員会活動報告 および

平成 18 年度「スポーツと環境」水泳からのアクションプラン

JOC スポーツ環境専門副委員長 佐野 和夫
(財) 日本水泳連盟 スポーツ環境委員会委員長

日本水泳連盟内に特別委員会としてスポーツ環境委員会を設立し、2 年が経過した。その間活動内容がすっかり連盟全体に浸透し、関係者の理解も深まった。水泳連盟内の全競技 5 種目（競泳・飛込・水球・シンクロ・オープンウォーター）の大会にて、順調に活動が実践され、さらに、各会場では今後の活動展開を前進させるために、模索しながら活動展開する 1 年であった。

1. 2006 年（平成 18 年度）活動報告

① 下記の本連盟主催事業で、啓発活動の徹底と充実を実践した。

	日時	大会名	種目	場所	参加選手
1	4 月 7 ～ 9 日	2006 年度室内選抜飛込競技大会	飛込	東京辰巳国際水泳場	42
2	4 月 20 ～ 23 日	第 82 回日本選手権水泳競技大会競泳競技	競泳	東京辰巳国際水泳場	724
3	5 月 2 ～ 5 日	第 82 回日本選手権水泳競技大会シンクロ競技	シンクロ	横浜国際プール	302
4	6 月 30 日 ～ 7 月 2 日	第 82 回日本選手権水泳競技大会水球競技	水球	東京体育館屋内プール	191
5	7 月 16 日	OWS ジャパンオープン 2006 館山	OWS	千葉県館山市北条海岸	736
6	8 月 4 ～ 6 日	第 82 回日本選手権水泳競技大会飛込競技	飛込	東京辰巳国際水泳場	58
7	8 月 5 ～ 6 日	第 57 回日本実業団水泳競技大会	競泳	豊橋市屋内プール	1405
8	8 月 10 ～ 13 日	日本シンクロチャレンジカップ 2006	シンクロ	静岡県富士水泳場	285
9	8 月 17 ～ 20 日	第 74 回日本高等学校選手権水泳競技大会	競泳	府立門真スポーツセンター	1625
10	〃	〃	飛込	〃	60
11	〃	〃	水球	大阪プール	247
12	8 月 21 ～ 23 日	第 46 回全国中学校水泳競技大会	競泳	くろしおアリーナ	1317
13	〃	〃	飛込	県立春野町総合運動場	83
14	8 月 26 ～ 27 日	第 51 回日本泳法大会	日本泳法	府立門真スポーツセンター	498
15	8 月 26 ～ 30 日	第 29 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会	競泳	東京辰巳国際水泳場	4142
16	〃	〃	飛込	東京辰巳国際水泳場	148
17	〃	〃	水球	京都アクアリーナ	974
18	〃	〃	シンクロ	広島市総合屋内プール	445
19	9 月 1 ～ 3 日	第 82 回日本学生選手権水泳競技大会	競泳	東京辰巳国際水泳場	1271
20	9 月 16 ～ 17 日	日本スポーツマスターズ 2006 水泳競技	競泳	広島市総合屋内プール	6365
21	10 月 1 ～ 4 日	第 61 回国民体育大会夏季大会水泳競技	競泳	尼崎市の森	1314
22	10 月 5 ～ 7 日	〃	飛込	神戸市立ポートアイランド	98
23	10 月 1 ～ 4 日	〃	水球	〃	600
24	10 月 5 ～ 6 日	〃	シンクロ	尼崎の森	40
25	1 月 27 ～ 28 日	13-15 歳ユ・デ・ムット大会・フィギュアトライアル 2006	シンクロ	東京辰巳国際水泳場	106
26	3 月 3 ～ 4 日	第 48 回短水路選手権水泳競技大会	競泳	東京辰巳国際水泳場	709
27	3 月 27 ～ 30 日	第 29 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ春季水泳大会	競泳	東京辰巳国際水泳場	5506
28	〃	〃	水球	千葉国際総合水泳場	1054
29	9 月 14 ～ 17 日	第 11 回 FINA シンクロワールドカップ 2007	シンクロ	横浜国際プール	130
30	8 月 12 ～ 13 日	湘南オープンウォータースイミング 2006	OWS	江の島海岸	1389

※各大会での主な活動内容

- ・横断幕（連盟オリジナル）2枚 競技場内掲載
- ・場内ポスター 掲示
- ・競技会場におけるごみの分別収集
- ・プログラム配布、チラシ配布
- ・各競技会でのごみの持ち帰り
- ・OWS 競技における、競技開始前のビーチクリーン
- ・競技会開会式の挨拶にて、言葉での啓発運動 他
- ② 委員会開催による、各種目での実践報告と意見交換
- ③ チームマイナス 6%啓発ピンバッジの製作および配布

2. 2007 年度（平成 19 年度）水泳からのアクションプラン予定

1) 資源リサイクル活動

05 年発足当初より継続実施している、大会等でのゴミ分別の徹底を役員・選手・観客の協力のもと進める。

- ①大会会場・イベント開催地・役員室等各部署でのゴミ分別の為、解り易い表示等、事前からの徹底準備。
- ②ポスターや張り紙・チラシなどによる選手・お客様へのゴミ分別等環境配慮への意識を浸透。

2) 啓発活動

ポスター・チラシ等を通じた従来の日本水泳連盟およびJOCの「環境・社会への取り組み」を選手・一般の人に知ってもらうだけではなく、環境省「チームマイナス 6%」とコラボレーションし、この活動を広く告知する新たなチャレンジを試みる。

提案① 大会開会挨拶・監督者会議時のスピーチ

→大会参加選手・役員への呼びかけに、環境（水の大切さ、ゴミの分別等）保全活動について触れ、参加者への環境問題の意識向上を図る。

提案② 日本水泳連盟マスコット「ばちゃぼ」環境グッズの作成

→ばちゃぼ環境グッズを作成、水泳界の環境活動への取り組みに活用（大会役員バッジ等）

提案③ 環境・社会活動への水泳界としてのメッセージ作成。

→作成メッセージ入りポスターや垂れ幕をつくり、それらを使用したトップ選手による写真撮影等により、積極的にアピールする。

提案④ 日本水泳連盟HPで、スポーツ環境コーナーを新設、活動のPRとともに各関連部門にリンクする。

提案⑤ 『チームマイナス 6%』ブースを大会会場に設置、チーム員を募集し、同時に啓発を推進する。環境啓発ピンバッジ第 2 号の製作・配布。

3) 環境アンバサダー

提案① アンバサダーは選手団や連盟の活動を、マスメディアを通じて紹介。

→活動内容及び選手たちからの呼びかけを、マスメディアを通して紹介していくことによって、代表選手に憧れる水泳に励む子供達および一般の人たちへ非常に良い効果が想定される。尚、引き続き、JOC 環境アンバサダー水泳代表は、岩崎恭子氏とする。

提案② 関係団体の環境活動に協力

→関係する団体の環境活動・社会貢献活動にシンボルアスリートの派遣・協力を行う。日本水泳 連盟が単独で行う社会貢献・環境活動ではなく、オフィシャルスポンサーや環境省等協力団体とのコラボレーションを積極的に推進する。

担当委員 有 久 暢
齋 藤 由 紀

(財) 日本体操協会 環境委員会 活動報告

JOC スポーツ環境専門委員 遠藤 幸一

(財) 日本体操協会 常務理事／環境委員長

■はじめに

前年度の取り組みを継承し、本会加盟団体における環境委員会設置と自主活動への継続指導と、具体的な環境保全活動の実践を本年度の目標として活動を進めてきた。

■活動報告

1. 加盟団体に対する環境啓発横断幕設置の協力依頼

各種大会やイベントにおいて、それぞれの加盟団体や主管組織が主体的に横断幕を設置し、環境への取り組みを引き続きアピールした（大会によってポスター貼付）。

月	日	種別	大会名	会場	活動母体
7	15	体	第45回NHK杯	幕張メッセ・イベントホール	本環委会
7	22	ト	第15回アジア競技大会日本代表最終選考会	静岡県掛川市さんりーな	ト協会
8	9	体	第60回全日本学生体操競技選手権大会	町田市総合体育館	学連
8	12	体	2006全日本ジュニア体操競技選手権大会	横浜文化体育館	Jr連盟
8	14	新	第58回全日本学生新体操選手権大会	海老名市総合運動公園	学連
8	22	新	第15回全日本新体操クラブ選手権大会	東京体育館	新連盟
9	1	体新	全日本社会人選手権大会	北九州市総合体育館	社連盟
9	9	体新	第6回全日本新体操クラブ団体選手権大会	東京体育館	新連盟
9	23	一	2006日本体操祭	代々木第一体育館	本環委会
11	10	体	第60回全日本体操競技選手権大会	代々木第一体育館	本環委会

体：体操競技 新：新体操 一：一般体操 ト：トランポリン

2. チームマイナス6%への登録

平成18年9月27日に承認を得て第2回評議員会（平成18年12月17日）、並びに全国代表者連絡会議（平成19年2月18日）にて、その取り組み例について説明・提示した。

3. 炭酸マグネシウム対策

世界選手権代表選考会において、本部の準備した炭酸マグネシウム以外は利用できない旨通達した。またその取り組み事例を第2回評議員会にて紹介した。

4. 紙節減

大会速報のモバイルサイト掲載を実践し、大幅な紙節減を実現した。また事務局内ではFAX送信を電子メール送信に変更し、紙の節約に取り組み始めた。

5. 環境アンバサダーの選任

本会として塚原光男氏（本会副会長）を環境アンバサダーに選任した。

■今後の課題と目標

- ・炭酸マグネシウムの利用について制限した取り組みに対する効果を評価する。
- ・ブロック、各都道府県など下部組織への環境保全活動の浸透方法を検討する。
- ・ナショナル選手を対象に、環境保全に対するロールモデル化を推進する。

(財)日本レスリング協会「スポーツと環境保全・啓発活動」について

JOC スポーツ環境専門委員 **鎌賀 秀夫**
(財)日本レスリング協会 スポーツ環境委員長

昨年に引き続き、大会期間を通じ会場内のポスターおよび横断幕の掲示、一部大会でのパンフレット配布、会場内アナウンスで環境保全活動の意義やゴミの持ち帰り運動を実施し、昨年度の反省点と課題点をクリアするよう啓発活動に努めた。その活動内容は、以下の通りである。

1. 会場における環境保全啓発活動

	競技会名／開催地	開催日	参加数	ポスター		パンフレットの配布枚数	横断幕 掲示場所
				掲示場所	枚数		
1	JOC ジュニアオリンピックカップ 2006 年度全日本ジュニアレスリング選手権大会 神奈川県横浜市・文化体育館	18 年 4 月 22 日 ～ 4 月 23 日	1124 名	玄関ホール	5 枚	－	体育館
2	第 6 回女子レスリングワールドカップ 愛知県名古屋市・稲永スポーツセンター	18 年 5 月 20 日 ～ 5 月 21 日	6 ヶ国	玄関ホール	5 枚	－	体育館
3	平成 18 年度全日本選抜レスリング選手権大会 東京都渋谷区・代々木第二体育館	18 年 6 月 2 日 ～ 6 月 3 日	105 名	玄関ホール	5 枚	－	体育館
4	第 23 回全国少年少女レスリング選手権大会 東京都世田谷区・駒沢体育館	18 年 7 月 22 日 ～ 7 月 24 日	165 クラブ 1399 名	玄関ホール	10 枚	1300 枚	体育館
5	第 53 回全国高等学校レスリング選手権大会 大阪府岸和田市・岸和田市総合体育館	18 年 8 月 2 日 ～ 8 月 5 日	378 名	玄関ホール	5 枚	－	体育館
6	第 11 回鎌ヶ谷幼児レスリング大会 千葉県鎌ヶ谷市・鎌ヶ谷市民体育館	18 年 8 月 20 日	18 クラブ 76 名	体育館	5 枚	100 枚	体育館
7	JOC ジュニアオリンピックカップ 第 10 回 j ジャパンキッズ選手権志賀大会 石川県羽咋郡・志賀町総合体育館	18 年 8 月 20 日	86 クラブ 341 名	玄関ホール 会場	10 枚	400 枚	体育館
8	第 61 回国民体育大会・のじぎく兵庫国体 兵庫県猪名川市・猪名川町文化体育館(成年) ／猪名川中学校体育館(少年)	18 年 10 月 1 日 ～ 10 月 4 日	－	玄関ホール 体育館	20 枚	－	体育館
	全国連絡会 (代表者会議)		都道府県代表者	会場	10 枚	100 枚	※報告 書配布
9	第 23 回全国社会人オープンレスリング選手権大会 第 12 回社会人段別レスリング選手権大会 東京都新宿区・スポーツ会館	18 年 11 月 20 日 ～ 11 月 26 日	197 名	体育館	5 枚	－	体育館
10	第 15 回少年少女レスリング東京選手権大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年総合センター	19 年 1 月 13 日 ～ 1 月 14 日	32 クラブ 345 名	玄関ホール	5 枚	－	体育館
11	天皇杯・平成 18 年度全日本レスリング選手権大会 東京都世田谷区・駒沢体育館	19 年 1 月 25 日 ～ 1 月 28 日	282 名	玄関・体育館 大会事務局	15 枚	300 枚	体育館
12	第 20 回少年少女レスリング選手権大会 東京新宿ライオンズクラブ旗争奪戦 東京都新宿区・スポーツ会館	19 年 2 月 11 日	38 クラブ 329 名	体育館	5 枚	400 枚	体育館
13	JOC ジュニアオリンピックカップ 第 11 回全国少年少女レスリング東京大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年総合センター	19 年 3 月 3 日 ～ 3 月 4 日	86 クラブ 341 名	玄関ホール 体育館	10 枚	400 枚	体育館

2. 機関誌、大会プログラムでの啓発活動

昨年同様、協会機関誌および一部の大会プログラムの中に“環境ポスター”を取り入れた。また、大会プログラムには、環境保全についてのスローガンを入れた。

3. 大会での初めての試み

1) アンケート調査

小学生4年～6年生男女が出場した、JOC ジュニアオリンピックカップ（全国少年少女選抜選手権大会）の参加申込書の中に環境問題に関する言葉の意味や行動についての設問をいれた。[86クラブ34]名参加/男子255名、女子86名]

これは、子供たちがその言葉の意味を知っているか否かではなく、設問について子供とその保護者が話し合う機会が得られ、大会での啓発活動につながることを期待した。

また、本大会の趣旨は将来オリンピックや世界選手権大会で活躍するエリート選手発掘することに力点を置いただけでなく、「大会を通じて分別してごみを捨てる、会場を綺麗に利用できるなど」そんな選手を育てることも開催趣旨の一つとした。

2) ID カードの裏を利用した啓発活動

JOC ジュニアオリンピックカップでは、選手・監督・コーチ・大会競技役員、プレスに写真入りのIDカードを作成し配布した。その裏面を利用し、縮小した「環境ポスター」を入れるとともに「自分が継続可能なことから始めよう」と題した、5項目の環境保全スローガンをいれ、その内容を説明した。

3) 当協会の啓発活動の紹介と協力の依頼

国民体育大会の全国連絡会において、JOC スポーツ環境委員会活動報告書をもとに当協会の活動を紹介し、地方大会での啓発活動の協力をお願いした。

4) エコバッグの作成と配布

全国少年少女選手権大会での記念Tシャツ購入者、JOC ジュニアオリンピックカップへの参加者および競技役員全員にエコバッグを配布し、買い物時のエコバッグ利用をお願いした。

5) 3R 運動のイラストを作成

全国少年少女選手権大会、JOC ジュニアオリンピックカップの大会プログラムに「リデュース」「リユース」「リサイクル」の3R運動の漫画を4頁にわたり掲載した。



4. 課題とこれからの活動

今年度から協会内に環境委員会を設置した。傘下団体や国体時の全国連絡会において環境保全の啓発活動をお願いしてきたが、全国レベルの大会から地方の小さい大会まで、活動を浸透させるには時間を要すると痛感する。環境の啓発活動は宗教と同じであると思う。いかに論じて環境信者を増やしていくか、それは地道な活動を継続していくしか方法はないのである。また、活動を通じてどれだけの人々に理解してもらい、それらが個々で実践されているのか、それを計測するだけのスケールがないので不安になることもあるが、これもまた継続して活動していくしかない。今の環境を守り未来の子供たちにつないで行くのは、地球に住む我々の務めである。

これからの啓発活動は、大会以外のナショナルチームの合宿、審判講習会、指導者講習会など、新たな分野へ活動の輪を広げていきたい。また、日本協会が国際連盟に提案して始まったビーチレスリング。この新しい競技を普及させるに伴い、大会を開催する海岸の環境も維持・改善させるために、具体的にどう取り組むかを検討して進めて行こうと思う。

(財)日本陸上競技連盟 スポーツ環境活動について

JOC スポーツ環境専門委員 久保田 克彦

(財)日本陸上競技連盟 理事／総務委員長

環境プロジェクトチームを組織し、環境問題の啓発活動を担当した2年間で全国に広げる前提として陸上競技が環境問題に如何に取り組むべきかを検討してきた。全国的な競技会でスポーツ環境啓発活動を積極的に実施してまいりましたが、主導的な活動は完遂するに到らず今後に大きな課題をのこしている。

日本陸上競技連盟が全国に環境問題の啓発活動を行うには、環境活動指針を発信し、陸上競技の関係者全てに実践活動を具体的に展開すべきであると考え、環境プロジェクトチームは活動指針と活動方針の草稿を検討、また、全国の環境問題に対する意識と活動の実態をアンケートで調査した結果を理事会並びに全国評議員会議で報告し、今後の環境改善を推進すべき方向を示した。

2007年は大阪で世界陸上競技選手権大阪大会が開催されることから、大阪大会では環境問題も大きなテーマとなっておりますように、日本陸上競技連盟の専門委員会の一つとして環境委員会の設置と全国の競技会において、環境担当役員の配置を推進していくことが必要である。

本年度は日本陸上競技連盟総務委員会環境プロジェクトチームが関係する競技会で環境啓発活動を実施し、国立競技場のスタンドに横断幕を掲出したことで、今後の啓発活動の推進がより多くの機会で行えるものと確信した。

全国で開催される何万回と云う競技会の主たる環境改善は、ゴミ問題からとなるが行政の施政方針とどう関係していくか、諸問題もあるが地域にあった環境改善とグリーン購入など出来ることから進めると共に、日本陸上競技連盟が地球温暖化など環境アンバサダーも活用しどのように関わるか、陸上競技独自のポスターの作製も前進させ、環境問題をスポーツ事業のひとつの柱として継続されることになる。



スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動報告

JOC スポーツ環境委員 田嶋 幸三

(財)日本サッカー協会 専務理事／環境プロジェクト・リーダー

日本サッカー協会（以下、「JFA」）では、地球環境問題の重要性を認識しており、平成 18 年度も継続して環境保全活動に取り組むと共に、サッカーファミリー（選手、指導者、審判、運営スタッフ、そしてファン・サポーター）に対して広く啓発活動を実施しました。

以下のとおり活動実績を報告いたします。

■実践活動

◇ J リーグ

① ゴミの分別回収

全クラブ（J1 の 18 クラブ・J2 の 13 クラブ）がほとんどのスタジアムでゴミの分別回収を実施した。

② リユースカップ

3 クラブがリーグ戦等で実施した。（専用カップをデポジット込みで販売し、返却時にデポジットは返金）

③ マイカップ

2 クラブがリーグ戦等で実施した。（飲み物、一部フードの割引購入の特典あり）

④ その他

2 クラブがスタジアム内の飲食売店においてリユース食器、エコカップを導入した。

◇ JFA

① チームマイナス 6% の推進

- ・事務局オフィスでは、今年もクールビズ、ウォームビズを実施し、ビルの壁面窓ガラスには遮光フィルムを採用している。
- ・ビル内の中央監視盤改良・BEMS を導入した。

② 日本代表戦での環境活動

サッカー日本代表のオフィシャルスポンサーである麒麟ビール（株）と共同で、スタジアムで出来る環境への取り組みとして、以下の活動を展開している。

・クリーンサポーター活動

日本代表関連 16 試合、日本女子代表 2 試合、天皇杯決勝の計 19 試合で実施（試合終了後、ファン・サポーターのボランティアによるスタンドのゴミ回収と分別活動）

☆ 2003 年の活動開始以降、8,489 名（2007 年 4 月現在）が参加

・紙コップの分別回収

スタジアム内に、「燃えるゴミ」、「燃えないゴミ」だけでなく、「紙コップ専用」のゴミ箱を設置している。さらに「飲み残し専用」のゴミ箱も併設することで、紙コップの回収率を高め、リサイクル活動を推進している。

当協会では、今年度から新たに環境プロジェクトを立ち上げた。これまで、個別に行っていた環境問題を整理すると共に、今後スポーツ競技団体としてどのように環境問題と向き合い、取り組んでいくべきかを鋭意検討していく。

スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動報告

JOC スポーツ環境専門委員 西脇 克治

(財)日本バレーボール協会 運営理事／スポーツ環境小委員長

1. バレーボール競技の環境特性と対応

バレーボールには、インドアスポーツのバレーボール（6・9人制バレーボール、ソフトバレーボール）とアウトドアスポーツのビーチバレーボールがある。

バレーボール（6・9人制バレーボール、ソフトバレーボール）の場合、通常の競技会では各体育館に設置されている設備、備品を使うので、競技会の度に新たに使用する使い捨てのものは限られるが、使い捨てのものとして、ラインテープ、選手の使用するアスレチック用テープ類、スプレー類、資料などの紙類などが会場のゴミとなる。

ビーチバレーボールの場合も、設備、備品などは再利用されており、ラインテープも布製なので再利用されている。むしろ、ビーチバレーボールでは、使用する海岸の砂浜自体の環境を維持、改善することが重要である。

競技会には競技に携わる役員・関係者および観客が集まり、さまざまなゴミが出るので参加者一人一人が環境に配慮し、ゴミの分別収集、アウトドアでのゴミの持ち帰り、使用場所の環境の維持、改善を心掛け、環境保全活動を行っている。

2. 平成 18 年度の環境保全・啓発活動

日本バレーボール協会（JVA）では、3R（Reduce、Reuse、Recycle）の理念に基づき、Vリーグなどの大会で使用する看板、競技コート周囲のADボード、観客席や会場装飾に使用する布製のバナー（横断幕）などを各開催地の間を配送し、持ち回り利用することで省資源に貢献している。また啓発活動として、JVA事務局入口のカウンターに配布用スタンドを置き、スポーツ環境パンフレットの配布を行っている。

平成 18 年度に行った JVA のスポーツ環境保全活動としては、継続して（中）日本バレーボール機構の V プレミアリーグおよび日本で開催された国際バレーボール連盟（FIVB）主催の 2006 バレーボール世界選手権大会（2006 世界バレー）でゴミの分別活動を実施した。

更に、9 月 18 日に開催された第 2 回 JOC スポーツと環境・地域セミナーでは JVA 女子協会員でスポーツ環境アンバサダーである大林素子氏が環境保全について講演した。

3. 今後の活動の展開

現在までに、環境保全のためにゴミの分別収集については定着し、バレーボールに携わるほとんどの方々が実施している。

今後の活動の課題は、国内の JVA 主催競技会（全国大会）への展開によるバレーボール競技者への環境保全意識の醸成および啓発活動からもう一歩進んだ環境保全意識の醸成だと考えている。

(財)日本スケート連盟環境保全・啓発・実践活動

JOC スポーツ環境専門委員 平松 純子
(財)日本スケート連盟／理事／フィギュア部長

日本スケート連盟はスポーツ環境委員会の組織が立ち上がってから3シーズンが経過しました。

シーズン中は、主要国内大会や、日本国内で行われた国際競技大会にスポーツ環境担当委員がきめ細かい啓発、実践活動に努めました。

主要国内大会

H18.10.27-10.29	第13回全日本スピード距離別選手権大会
H18.11.17-11.19	第12回JOCジュニアオリンピックカップショート選手権大会
H18.11.25-11.26	第75回全日本フィギュアジュニア選手権大会
H18.12.15-12.17	第75回全日本スピード選手権大会
H18.12.22-12.24	第33回全日本スプリント選手権大会
H18.12.27-12.29	第75回全日本フィギュアスケート選手権大会
H19.1.11.-1.14	第30回全日本ジュニアスピード選手権大会
H19.2.10-2.11	第17回全日本ショート距離別選手権大会
H19.2.24-2.25	第30回全日本ショートトラック選手権大会

日本開催国際大会

H18.11.30-12.3	2006NHK杯国際フィギュアスケート競技大会
H18.12.8-12.10	スピードスケートワールドカップ長野大会
H19.3.20-3.25	世界フィギュアスケート選手権大会 2007 東京

の各会場、第62回国民体育大会冬季大会スケート競技においてもスポーツ環境ポスターの掲示を行いました。

又、3Rの推進では、

リデュース	エネルギーや資源を大切にするため、大会でも電力消費量、印刷物の削減、プロトコールなどのDVD化などを実施して紙の使用量を減らす事につとめました。
リユース	競技役員が大会中使用する紙コップなどは名前を書いて再使用することなどを促しました。
リサイクル	ごみの分別の徹底により新しい資源を生み出す事への手助けの推進をおこないました。

今後の課題、目標としてスケート連盟の全員がスポーツと環境問題、保全に対してより積極的に取り組んで行きたいと思っています。

(財)日本テニス協会における活動

JOC スポーツ環境専門委員 **松岡 修造**

(財)日本テニス協会 理事待遇／環境委員

委員会活動2年目に当たり、JOC スポーツ環境委員会とも緊密に連携をとり、自然環境保全のために、昨年より一歩進んだ事業を行った。

1. JOC スポーツ環境委員会との連携

- (1) JOC の「この星にスポーツを」の横断幕をあらたに5枚購入すると共に、当協会主催大会全日本選手権、AIG オープン、全日本ジュニア選手権などに加え、関東ジュニア選手権、グラスホパー全国ジュニアテニスイン佐賀などの大会で掲出活動を行った。
- (2) 「第2回 JOC スポーツと環境・地域セミナー」(長野)に、長野県テニス協会から三村理事長他2名の代表が、「第3回スポーツと環境担当者会議」に、橋爪委員長、秋山、中原両委員が出席し、JOC および各競技団体の環境保全への取り組みに関して、情報の収集と交流を深め、当協会内にフィードバックした。
- (3) ISO14001 の認証取得に関する情報収集のために、JOC の経験をヒアリングした。JTA としては、事務局体制や予算措置などを含め、解決しなければならない問題も多く、まず日常の3R活動の見直しという基本から始めることにした。

2. NPO グローバルスポーツアライアンス (GSA) とのコラボレーション

国内および海外でも活発な環境保全の活動を進める GSA との協働を更に進めるために同法人による使用済みのボール、ラケットのリユース活動の JTA 組織内への積極的な PR に加え、環境委員会に代表者の出席をお願いした。

3. 「環境レポート 2006」の発行と配布

昨年からの活動の継続として「環境レポート 2006」を300部発行し、都道府県協会、JOC、GSA などの関係団体に配布した。(秋山委員が編集を担当)

4. 都道府県協会との連携

全国に環境に関する情報を流すと共に、「環境担当者」の設置を要請した。現在担当者が決まっているのは、まだ25%程度であり更なる努力が必要である。

5. テニス指導者に対する環境問題への啓蒙と情報の提起

- (1) 全国講師講習会(県代表)での講義(橋爪委員長)対象約50名
- (2) 上級テニス教師養成講習会での講義とレポート課題対象24名
- (3) コーチアーズカンファレンスでのパネルディスカッション(環境省吉野氏、橋爪委員長、吉田委員)

6. 「環境アピール」の実施

元アメリカ大統領アル・ゴアによる映画と書籍「不都合な真実」がマスコミで大きな話題になった2月、地球温暖化に関する IPCC (気候変動に関する政府間パネル) の作業部会の発表ともあいまって、環境委員会として「地球温暖化の進行」に関して関心を持つとのアピールを出した。

以上

(財)全日本柔道連盟の環境への取り組み

JOC スポーツ環境専門委員 山口 香

(財)全日本柔道連盟 ルネッサンス／国際／強化委員

全日本柔道連盟には、環境委員会は設置されておきませんが、ルネッサンス委員会を中心に環境への取り組みを実施している。また、国際委員会においては、リサイクル柔道着の活動を、発展途上国に向けて継続的に行っている。競技会においては、国内外の大会に限らず、大会会場において選手たちが積極的にごみの分別回収に取り組んでいる。選手たちの行動は観客や子供たちにも大きな影響があり環境の普及啓発活動に大いに役立っていると思います。

来年はオリンピックイヤーであり、今まで以上にスポーツ、柔道に関心が集まり、会場に足を運んでいただく機会も増えることが予想されますのでこの機会を捉え、さらに環境への取り組みについて感心を持ってもらえるように柔道界全体で努力していきたい。

<平成 18 年度の具体的な取り組み>

1. スピーチによる啓発活動

ルネッサンス委員会では、国内で行われるほとんどの大会においてスピーチによる啓発活動を行っている。これは、ルネッサンス活動の趣旨をわかっていただくために現役の選手やコーチ、元メダリストなどが自分の経験などを通してわかりやすく会場の観客に語りかけるもので、今年度はスピーチの中にできるかぎり環境に対するメッセージもいれるよう要請した。選手やコーチたちもスピーチにおいて発言することによって、それまで以上に関心を持ち、責任感が芽生えたなどの相乗効果があったように思う。

2. リサイクル柔道着活動

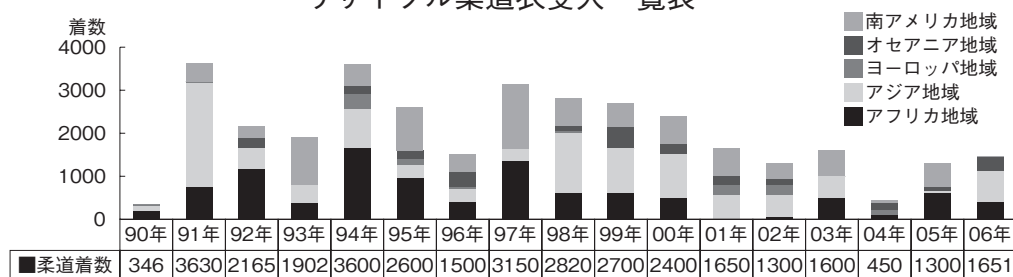
リサイクル柔道着活動は、1990 年より活動を開始した。授業で使用した柔道着や小さくなってしまったり、少し古くなってしまったものを全国から回収、整理し、要望のある国や地域に向けて発送している。日本から海外青年協力隊などで指導に行っている方々からの要請も多く、柔道着を受け取った国や地域からは感謝のお手紙も多く届けられている。

3. 今後の取り組みについて

ルネッサンス委員会においては、啓発活動の一環として、年毎にテーマを決めてキャッチフレーズを公募してきたが、来年度は、このテーマのひとつに「環境」をいれ、公募を試みようと考えている。また、選手やコーチたちの環境に対するメッセージを収録し、大会会場において開始までの時間や休憩時間などに流す環境への取り組みのガイドラインを作成し、選手や観客へ配布することなども計画している。環境への取り組みは一過性のものではなく長く続けていかなければいけない活動であることを踏まえ、ひとつひとつの取り組みを無理せず、あせらず、大事に継続していきたい。

世界に広がるリサイクル柔道衣運動

リサイクル柔道衣受入一覧表



国名	数	IJF ro JICA	備考	送信日
Madagascar	50	JICA	※1.5号15着、2号20着(第1優先)、2.5号10着、3号5着	4月21日
Russia	30	盛岡中央高等学校	※着払いで、盛岡高校に発送	4月25日
Cuba	50	IJF		5月1日
Fiji	50	JICA	2号5着、3号15着、4号20着、5号10着	5月1日
Bangladesh	6	JICA シニア	※国内発送	5月14日
Nepal	50	JICA	1号10着、2号10着、3号20着、4号10着	5月17日
Kiribati	50	IJF		5月23日
Samoa	50	IJF		5月23日
Palau	50	IJF		5月23日
Syria	100	講道館	※国内発送	5月29日
Solomon Island	100	IJF		6月12日
Vanuatu	50	IJF		6月12日
Vetnam	20	JOCV	関税対策のため、分割発送	6月12日
Botswana	50	IJF		6月22日
Marshall Island	50	IJF		6月22日
Vetnam	15	JOCV	関税対策のため、分割発送	6月22日
Mongolia	100			7月5日
Angola	5	IJF	10kg以下	7月20日
Zambia	50	IJF		7月20日
Vietnam	15	JOCV	関税対策のため、分割発送	7月20日
Bangladesh	100			9月20日
Cambodia	100			10月21日
Thai	100	IJF	子供～高校生 サイズバランスよく 10月発送希望	10月21日
Mozambique	48	IJF		11月29日
Namibia	40	IJF		11月29日
Namibia	4		10kg以下のため追加	12月14日
South Africa	52	IJF		12月14日
Bolivia	96	IJF		12月14日
Russia	40		※ベスラン (国内)	12月24日
Russia	60		ベスラン (SAL)	12月27日
Nepal	100			2月22日
Brazil	50	JOCV		2月22日

1731

※国内発送

スポーツと環境保全に関する啓発・実践活動報告

JOC スポーツ環境専門委員 別所 恭一

佐川急便 株式会社

■ JOC 共催「スポーツ発電リレー」

昨年に引き続きオリンピックデーランにおいて、「スポーツ発電リレー」を開催。来場者に自転車発電を体感いただいた。普段何気なく使っている電気を自分で作るにはいかに大変であるか、又環境配慮を一人ひとりが実践しないと今後のスポーツへも悪影響があることを知っていただくことを目的とした。デーラン9大会において2,313人の参加をいただき、約2,095Whの発電量となった。



■ オリンピックフェスティバル

オリンピックフェスティバルでは、従来のデーランで行っている「スポーツ発電リレー」の他に、ビンゴゲーム「スポーツとエコ de ビンゴ!」を実施し、日頃楽しんでいるスポーツと地球環境問題のつながりについて楽しく学んでいた。

エネルギーの大切さを伝える催しや、環境問題についてゲームをまじえながら楽しく学ぶ催しにより、地球環境保全に向けた啓発活動を行った。

■ 社内イベント「SG ホールディングスグループスポーツフェスティバル」



毎年、5月のゴールデンウィークに開催される社内イベント「SG ホールディングスグループスポーツフェスティバル」において、例年通り環境コーナーを設け、クイズなどで客席と会話しながら地球温暖化問題と佐川急便の環境活動の理解を目的に環境ワークショップを実施。また木の輪切りや葉っぱを使ったネイチャー工作やヨシの紙スキ等を体験できる

コーナーを設け、自然環境の大切さや保護を従業員、そしてその家族、地域住民に啓発することができた。

大会会場内には屋台などから排出される廃棄物に対して、分別ボックスを設置し来場者に分別を促した。



■ 社外環境イベント



社外の環境イベント「エコライフ・フェア」や「エコプロダクツ展」にも積極的に参加し、JOCの「スポーツと環境」のポスターを掲示。また佐川急便の環境活動の理解を目的としたプレゼンテーションや展示パネルにおいて、JOCとのオフィシャルパートナーとしての活動を紹介するとともに、次世代を担う子供たちに環境保全の重要性を啓発した。

(財) 日本セーリング連盟 環境委員会

日本セーリング連盟 (JSAF) では、2004 年から環境委員会を設置して「JSAF 環境キャンペーン」を展開している。目的は、未来の世代にきれいな海を残すことである。

セーラーなら誰でも、海はきれいな方が良いと思う。そして海をきれいに保つためには、森林など陸地の自然を豊かにすることや、川や海に流れ込む廃棄物をなくすることが大切なことは誰でも知っている。ところが、そんな当たり前のことが実践されていないのが現代社会である。そこで、JSAF 環境委員会では環境キャンペーンを通じて一人でも多くのセーラーの意識を高め、環境に配慮した行動を促すために、大会運営での省資源や省エネを進め、選手にはエコバッグの携帯を奨励している。このエコバッグは、レース後などに浮遊ゴミを拾って持ち帰るだけでなく、スーパーやコンビニのレジ袋の代わりとして、何度でも洗って使える。JSAF 環境キャンペーンに賛同いただいたスポンサーのお陰で、このエコバッグは選手たちに格安または無料で配布されている。

一方、JSAF 環境キャンペーンをセーラーの間で広く認知させるために、さまざまなレース会場やイベント会場で JSAF エコフラッグと横断幕 (JOC のものを含む) を掲げ、帆走指示書には「海にゴミを捨てない」ことを明記し、環境を守ることの大切さを訴えている。今年度は 20 種目の大会で JSAF 環境キャンペーンの旗と横断幕を掲げ、ビーチクリーンや海上浮遊物の回収などを行い、徐々にセーラーの間で環境意識が高まってきた。

(環境キャンペーンに参加した大会リストは下記資料を参照)

日時	大会	担当者
7/20 ~ 23	「パールレース」	JSAF 外洋東海 都築勝利
		日本シーホッパー協会 東島
8/25 ~ 27	「第 33 回 全日本自治体職員ヨット競技大会」	自治体職員ヨット連盟 小宮 三雄
8/13	「阿波踊りヨットレース」	徳島県 瀬川 洸城
8/8	北海道ジュニアヨット大会	
9/16 ~ 18	「第 62 回 国民体育大会セーリング競技リハーサル大会」	秋田県 加藤 則夫
	「2006 年全日本セーリング選手権大会」	
	「高松宮妃記念杯第 52 回全日本実業団ヨット選手権大会」	
	「第 8 回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会」	
9/30 ~ 10/1	「第 35 回 全日本ソリング級選手権大会」	日本ソリング協会 山中 康弘
9/7		秋田県セーリング連盟 加藤則夫 佐藤利秋
9/27 ~ 10/1	「第 59 回全日本スナイプ級ヨット選手権大会」	岡山県セーリング連盟
11/1-5	「第 71 回全日本学生ヨット選手権大会」	福岡県セーリング連盟 岩瀬 広志
11/4-5	「第 30 回全日本トーネード級選手権大会」	日本トーネード協会 池田 光司
10/1 ~ 9	「第 52 回全日本シーホース級ヨット選手権大会」	日本シーホース協会 外尾 竜一
	「第 43 回全日本シーホース級ヨット女子選手権大会」	
10/28 ~ 29	「全日本選手権」	日本テザー協会 赤井 寛
10/7 ~ 9	日本モス協会 「第 39 回全日本国際モス級選手権大会」	日本モス協会 小倉 正明
10/28 ~ 29	IMCO 全日本実行委員会 「IMCO 全日本」	IMCO 全日本実行委員会 浜田 宏弥
11/22-26	「第 35 回全日本 470 級ヨット選手権大会」	日本 470 協会 信時 裕
	「第 20 回兼全日本女子 470 級ヨット選手権大会」	
10/28-29、11/2、11/3-5	「J24 全日本選手権大会」	和歌山県セーリング連盟 中村
11/3 ~ 5	「ファイファーボール級全日本選手権大会」	ファイファーボール協会 鳥羽田 剛史
12/2-3	「2006 年度フォーミュラーウインドサーフィングクラス全日本選手権大会」	日本ウインドサーフィン連盟 浜田宏弥 千葉貴生
11/17		OP 協会 荒川 渡
11/22-23	全日本レーザー	佐賀県ヨットハーバー 森洋子

環境委員長 岡田 達雄

(財) 日本ハンドボール協会

「スポーツと環境保全について」ハンドボール協会では、まだ委員会レベルとなっていないが、総務委員会の中にスポーツ環境担当を設け活動を行っている。

環境保全の啓発活動として、主要全国大会会場にスポーツと環境ポスターの掲示、同横断幕の掲示を行い、各都道府県協会へは、パンフレットの送付を行った。また、平成 18 年度事務取扱責任者会議においてパンフレットを配布し、全国大会に拘わらずブロック大会、県内大会においても、スポーツと環境ポスターの掲示、同横断幕の掲示、ゴミの分別回収などについて説明・お願いを行った。

また、事務局においては引き続きペーパーレス化と経費削減に心掛け、FAX 機・コピー機の PDF ファイル作成機能の利用促進し、事務局員が内・外部に発信する情報をメール添付の PDF ファイルとすることでペーパーレス化と経費削減に効果があったと思われる。役員会議の配付資料も PDF で事前配布できるものはペーパー資料とはしないなどの協力をお願いした。情報発信源としてホームページに掲載できる情報はできる限り露出した。

今後は、スポーツにおける環境問題は大きいと捉えており、独立した委員会を設置し都道府県協会にもこれを呼びかけ、啓発活動の全国展開を考えている。

スポーツ環境担当 兼子 真（事務局長）

(財)日本自転車競技連盟

財団法人日本自転車競技連盟では、現在、専門のセクションもなく立ち遅れている状況にあります。主要大会会場ではバナー、ポスターの掲出、パンフレットの配布、ゴミの分別収集等を実施し、環境保全に対する意識の向上に努めています。

四日市市での大会ではイオン環境財団との提携による植樹を行い、自転車と樹木を通して環境へのやさしさをアピールしています。このイベントは、来年度も継続する予定です。

自転車という機材は、各種の素料を使うパーツから構成されていますが、製造業界ではグリーン調達等、環境保全に積極的に取り組んでいます。例えば、一番の消耗品のタイヤ、チューブは今まではチューブラというタイヤ、チューブ一体のものでパンクした場合には廃棄されていましたが、現在はタイヤとチューブが独立したタイプが主流になり、それぞれを交換して繰り返し使用しています。また、完成車、フレームも先輩等からの譲り受け他の形でリユースが行われていますが、安全性の確認が今後の課題であります。

今後は、より環境保全に貢献できるよう啓発活動の全国展開を目指し、委員会の設置を視野に誠意努力する所在であります。

事務局長 久保田 茂

(財)日本ソフトテニス連盟

18年度より担当を総務委員会として、主管連盟に依頼し「ソフトテニスを愛する私たちは、宇宙船地球号の乗組員」として環境を汚すことなく大切にしましょうの合言葉のもと啓発と実践をした。

この啓発のために、総務委員長と委員1名を長野県で開催された第2回JOCスポーツと環境・地域セミナーに参加させ環境保全活動の理解を深めた。

一方、JOC・ソフトテニス連盟の環境横断幕を5枚作成し、この横断幕を兵庫国体および福岡での全日本選手権大会の会場に掲げ、環境保全の啓発活動（ゴミの分別収集と資源のリサイクル）を中心に実践した。

大会名①第61回のじぎく兵庫国体

②第61回天皇杯・皇后杯 全日本ソフトテニス選手権大会

開催日時①平成18年10月1日～10月4日

②平成18年10月20日～10月22日

開催場所①兵庫県三木市吉川総合公園テニスコート・姫路市立広畑テニスコート

②福岡県東平尾公園テニス競技場・名島運動公園テニスコート

参加人数①選手777人

②選手1116人

横断幕掲揚場所 通路壁面2箇所 ゴミ回収場所3箇所 計5枚

総務委員長 和歌浦 信雄

(財)日本卓球協会 環境委員会

日本卓球協会は、平成17年度に環境委員会を設置し、平成18年度は2年目になるわけで、初年度の活動を継承し、18年度も、環境ポスター、標語の掲示とゴミ箱を全国大会会場に設置する等の啓蒙活動を実施した。

ご協力いただいた大会会場・主管団体（平成18年度）

全国ラージボール卓球大会	6/9-12	岐阜メモリアルセンター	岐阜県卓球協会
全日本クラブ卓球選手権大会	7/14-17	青い森アリーナ	青森県卓球連盟
全日本実業団卓球選手権大会	7/27-30	別府アリーナ	大分県卓球連盟
全国レディース卓球大会	7/28-30	京都府立体育館	京都卓球協会
全日本（ホープス・カブ・バンビ）	7/28-30	グリーンアリーナ神戸	兵庫県卓球協会
全国ホープス卓球大会	8/29-31	東京体育館	東京都卓球連盟
全日本（団体の部）	10/27-29	鹿角市スポーツセンター	秋田県卓球協会
全日本社会人卓球選手権大会	11/3-5	秩父宮記念体育館	神奈川県卓球協会
全日本（マスターズの部）	11/10-12	佐賀県総合体育館	佐賀県卓球協会
全日本（カデットの部）	11/10-12	鳴門県民体育館	徳島県卓球協会

天皇杯・皇后杯

全日本（一般・ジュニアの部）	1/16-21	東京体育館	東京都卓球連盟
ジャパントップ12	2/10	駒沢体育館	東京都卓球連盟
全国ホープス選抜卓球大会	3/24-25	パークアリーナ小牧	愛知県卓球協会
全国中学選抜卓球大会	3/28-29	千歳市スポーツセンター	北海道卓球連盟

2009 世界卓球選手権横浜大会 開催決定

（2009 年 4 月 28 日～5 月 5 日、横浜アリーナ）

2007 年 2 月 5 日 大会実行委員会は、次のように大会宣言をした。

2009

世界選手権大会の宣言

世界卓球は地球を守る

水と緑と平和

世界的な自然破壊は進行している

大好きな卓球が出来るのも 地球が守ってくれているからこそで その地球を 世界卓球が守ることができたならどんなに素晴らしいことではないでしょうか 2009 世界卓球が発信 その行動を起こそうではないか 毎年開催される世界大会で募金箱を設け その浄財を自然を守るための活動基金とすることを宣言する

神奈川県卓球協会

委員長 原田 宜亮

（財）日本バドミントン協会

本会では平成 18 年 4 月 1 日より、初めて環境委員会を正式に立ち上げました。

まず、環境委員会としてはできることを基本から行おうということになり、環境保全の意識を高めるために理事会にてポスター、パンフレットの配布をいたしました。

また、本会の主催する大会にポスターを配布し、開催会場での掲示を依頼しました。

特に観客の多い日本リーグを中心に全国に配布いたしました。

その他、国内事業部と連携をとり、大会参加者、主催大会すべての開催県・主管団体に対して以下三つのお願いをいたしました。

- （1） ゴミの分別収集に協力してください。
- （2） 部屋から出るときにはエアコン、テレビ、ライトのスイッチを消してください。
- （3） マイ菌ブラシを持参して大会に参加して下さい。

財団法人 全日本ボウリング協会

当協会では、常設委員会である「普及開発委員会」においてスポーツと環境の保全についての対策を検討している。協会が主催する大会、会議等の主要な行事において JOC スポーツ環境委員会提供のポスター、パンフレットを掲示・配布し、選手に大会中の注意・連絡事項を伝えるための「監督会議」、「選手ミーティング」や、競技シフトの合間に場内アナウンスによって、選手や引率者、観戦者のマナー向上等を促している。

ボウリング競技においては、競技エリア内は床面に水分やホコリ、汚れがあれば競技に大きく悪影響を及ぼすことになるため、選手は足元のコンディションに非常に敏感であり、事故に至らぬようドリンクやハンドコンディショナー（滑り止め）はかならず競技エリア外で利用することをルールとして定めている。このことについて、競技会に慣れていないであろうジュニア世代の大会では、マナーを覚えてもらうためにも再三にわたり注意を行うようにしている。

また、競技施設の特性として、民間企業による営利施設を競技に使用するため、観戦エリアと競技エリアが非常に近いことから、観戦マナーの向上も必要であることを感じている。また設備の面については、施設管理者との相互理解を深め協力して対策を進めていかなければならない。

昨年 10 月に、ボウリングというスポーツに携わる競技団体（プロ・アマチュア）、施設経営者団体、用具製造企業団体等が協力体制をとって振興を図る「日本ボウリング評議会」なる団体が創設された。この団体の指針として発表された「日本ボウリング評議会の未来像（ビジョン）」の中に環境保護も盛り込まれ、今後は我々競技者団体が抱える選手だけでなく、ボウリング場を訪れる全ての人に環境とマナーを意識してもらえようような動きが活発になるよう働きかけることも進めていきたいと考えている。

日本ボブスレー・リュージュ連盟 スポーツ環境委員会

第 2 回スポーツと環境・地域セミナーにおいて環境保全の啓発・実践活動に関して担当者が報告したことを中心に記載する。その競技施設自体が、自然の山を切り開き、莫大な費用をかけて建設した上に、冷却施設や電気代等、毎年のランニングコストも大きい。それに反して、競技人口が少なく、競技施設の他の利用価値がないということ、それだけで環境に配慮したスポーツとは胸を張って言えないのが現状である。そこで、我々が考えたことは、競技施設長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）の夏場の環境整備作業である。例年、長野県連盟は 8 月の最初の日曜日と決め、6 年前から「夏フェスタ・イン・スパイラル」という名称で、この事業を行っている。最初は、普及・強化事業の一環として、夏場にも広くそり競技の普及をはかろうという目的で始めた。

この日は、連盟の選手・役員だけでなく、地元の長野市浅川地区の住民を中心に構成された「浅川スパイラル友の会」・選手の関係者で構成された「リュージュ振興会」・地元の浅川小学校という団体が集まり、広大な敷地内の草刈りやゴミ拾いを行う。勿論、オリンピック選手も一緒に参加し、地域住民や子ども達と汗を流しながら、この活動を行っている。通常、地域住民や子ども達が、一緒に草刈りをしているオリンピック選手を見るという体験は少ないと思う。オリンピック選手といえば、一般的な子ども達には夢のような存在である。あこがれも尊敬も少なからずあるわけで、その人たちが、自分のお世話になっている競技施設の草刈りをしている姿を見るということは、大変なインパクトがあるし、自分もあんなスポーツ選手になってみ

たいという気持ちを持てるのではないか。メダルを取った選手は、勿論すばらしい。けれど、汗を流して自分の競技する場所をきれいにしている選手も、すばらしいはずである。未来ある子ども達に、そのような意識を育てる活動こそ、大きな意味でスポーツを通じた環境保全の啓発活動になると考えた。

勿論ワールドカップを初め全日本選手権大会等各種大会運営では、分別袋等を用意しごみの分別、持ち帰りに努めている。

そりスポーツと環境という面で、もう一つこれから考えていきたいことがある。雪国で自然と生まれた子ども達のそり遊びがある。現在、まともな競技施設が長野市ボブスレー・リュージュパークのみという状況の中では、選手は増やしたい、しかし増やせば、十分な練習量が期待できないと言ったジレンマがある。もう一度、私たちは、そりの原点に戻り、ふんだんにある雪を使った普及活動ができないか考えている。もともと、そり遊びが持っている楽しさに目をつけて、普及活動ができないかということである。そこはアイデアや工夫、また宣伝のやり方など、子ども達に興味を起こさせるための壁は厚いと思うが、うまくいけば、それこそ環境を生かしたスポーツ活動となるはずである。スポーツにとって恵まれた環境とは何だろうと考えれば、まずは、まず天から与えられた自然環境を活用すること、それが環境保全への意識を育てる一つと考え、今後もそり競技発展のため、努力していこうと思う。

事務局ではエネルギー節減の他コピー機変更に伴い PC から直接 fax やプリンターとして使用し、ペーパーレス化とコスト節減に心がけ、ものを大切にする 3R (Reduce, Reuse, Recycle) 実行に努めている。

事務局長 池田 芳正

全日本アマチュア野球連盟 スポーツ環境委員会

○日本野球界としての取り組み

北海道にあるアオダモの木は、バット材として世界一と言われている。ただし、バット材として適するまでには 70 年以上もかかるため、将来的な木製バットの安定供給について危惧されていた。

しかしながら、近年、北海道大学大学院農学研究課や北海道森林管理局の調査、研究により植林技術が確立され、平成 14 年には「NPO 法人アオダモ育成の会」を設立することができた。

これにより、植林技術者と各種野球団体の代表者が中心となって、毎年計画的に苗木を植林して将来の野球バット用材の確保を図るとともに、植林や草刈りなどをおして植栽環境保全にも貢献できるようになった。野球界としては、野球を愛する人々の熱意で北海道の大自然の環境保全に貢献しながら、世紀を越えて“バットの森”を育てていきたいと願っている。

○平成 18 年度植樹報告

- ・ 6 月 17 日：場所－新冠国有林 2164 林班ろ小班、参加者－約 180 名、植樹本数－1000 本
- ・ 7 月 22 日：場所－苫小牧国有林 1357 林班い 2 小班、参加者－約 120 名、植樹本数－200 本
- ・ 9 月 23 日：場所－由仁町道有林 119 林、参加者－約 200 名、植樹本数－500 本

○平成 18 年度植林実施球場

7 月 20 日－東京ドーム、7 月 21 日－明治神宮球場、7 月 22 日－サンマリンスタジアム宮崎、
9 月 3 日－山形県野球場、10 月 21 日－ナゴヤドーム、札幌ドーム－10 月 24 日

事務局次長 スポーツ環境委員会委員長 内藤 雅之
(NPO 法人アオダモ育成の会事務局長)

(社)日本トライアスロン連合

日本トライアスロン連合環境委員会が行った主な活動は以下の通りである。

- ・JTU ロゴ入りの JOC スポーツ環境委員会横断幕を 2 枚作製
- ・JOC 第 3 回スポーツと環境担当者会議に参加
- ・国内 3 大会での環境意識についてのアンケート調査

環境アンケートの集計とまとめ

2002 年 4 月日本トライアスロン連合では他の競技団体に先駆け、新たに環境委員会(委員長：和田恵子)の活動をスタートしました。発足以来、毎年取り組んでいます環境アンケートは全国の大会主催者の協力を得ながら 5 年が経過いたしました。

今年の環境アンケートは埼玉、東京、愛媛で行われました 3 大会の会場で参加選手からいただいた貴重な意見や声をまとめたものです。

このアンケートの集計結果の棒グラフからも環境に対する関心は年々高まっていますが個々の行動、実践では残念ながら大きな格差がある現実も垣間見られます。

私たちは次の世代を担う子供たちに地球という素晴らしい環境を引き継ぐためにも『今、私たちに出来ることをする』というトライアスリート一人ひとりの行動・実践の輪を広げることの大切さを過去 5 年間 15 大会を越えるアンケートの導く高校生としてつ関しています。

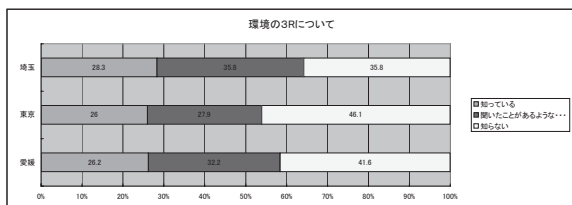
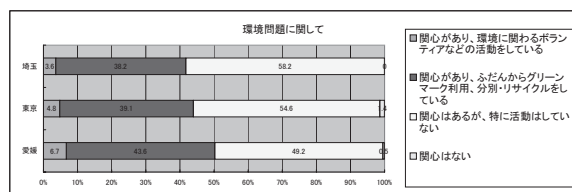
日本トライアスロン連合の環境スローガン『水、風、大地と共生・・・トライアスロン』

環境委員会 鈴木 信之、松生 治子、森重 寛、和田 恵子

アンケートを実施した大会

開催日	大会名	回収アンケート数
2006年6月5日	06彩の国トライアスロン大会・第10回関東トライアスロン選手権大会(埼玉県)	55
2006年7月30日	2006東京都トライアスロン渡良瀬大会・代17回東京都トライアスロン選手権大会(東京都)	207
2006年8月27日	第21回トライアスロン中島大会(愛媛県)	375

環境全般に関する質問



(2) 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

List of environmental commission in each JOC affiliated NFs and organizations

団体名	設置年月	委員会・担当委員会等	役職	氏名
(財) 日本陸上競技連盟	H.11.4	総務委員会	総務委員長	鈴木 義元
(財) 日本水泳連盟	H.17.4	スポーツ環境委員会	委員長	佐野 和夫
(財) 日本サッカー協会	H.19.3	環境プロジェクト	リーダー	田嶋 幸三
(財) 全日本スキー連盟	H.10.10	スポーツ環境委員会	委員長	瀬尾 洋
(財) 日本テニス協会	H.17.4	環境委員会	委員長	橋爪 功
(財) 日本バレーボール協会	H.13	スポーツ環境委員会	委員長	伊藤 晃
(財) 日本体操協会	H.15	環境委員会	委員長	朝倉 正昭
(財) 日本レスリング協会	H.18	スポーツ環境委員会	委員長	鎌賀 秀夫
(財) 日本セーリング連盟	H.17.4	環境委員会	委員長	岡田 達雄
(社) 日本ウエイトリフティング協会	H.17	スポーツ環境委員会	委員長	岡本 実
(財) 日本ハンドボール協会	H.18	総務委員会（スポーツと環境担当）	委員長	兼子 真
(財) 日本卓球協会	H.17.6	環境担当委員会	委員長	原田 宜亮
(財) 全日本軟式野球連盟	H.17.5	環境担当委員会	委員長	野々市 孝
(社) 日本馬術連盟	H.17.5	スポーツ環境委員会	委員長	土橋 武雄
(社) 日本フェンシング協会	H.15	総務委員会の部会	委員長	山崎 豊
(財) 全日本柔道連盟	H.13.1	柔道ルネッサンス委員会	運営委員長	嘉納 行光
(財) 日本ソフトボール協会	H.16.4	スポーツ環境委員会	委員長	鈴木 征
(財) 日本バドミントン協会	H.18.4	環境委員会	委員長	今井 茂満
(社) 日本ライフル射撃協会	H.17.11	総務委員会	環境担当	田村 恒彦
(社) 日本近代五種・バイアスロン連合	H.18.3	環境委員会（近代五種部門）	委員長	荒木 大三
		環境委員会（バイアスロン部門）	委員長	渋谷 幹
(社) 日本山岳協会	S.52	自然保護委員会	委員長	若月 東兒
(社) 日本カヌー連盟	H.17.4	環境対策委員会	委員長	八畝 美由紀
(社) 全日本銃剣道連盟	H.16	環境委員会	委員長	兼坂 弘道
(社) 日本クレー射撃協会	H.14	鉛問題対策委員会	委員長	高橋 義博
(財) 全日本ボウリング協会	H.16	普及開発委員会	委員長	榎本 隆明
全日本アマチュア野球連盟	H.18.5	スポーツ環境委員会	委員長	内藤 雅之
(社) 日本トライアスロン連合	H.14	環境委員会	委員長	國分 孝雄

平成 19 年 6 月 20 日現在

委員	事務局／役職	氏名
委 員：総務委員		
委 員：木原 光知子、岩崎 恭子、末弘 昭人、山口 善久、齋藤 由紀、中村 康英、岡田 奉代、 草分 容子、長谷川 雪恵、泉 正文、有久 暢、小川 知伸	事務局 総務次長	小川 知伸
サブリーダー：犬飼 基昭 メンバー：犬飼 基昭、岡田 武史、濱口 博行、石 弘之、羽生 英之、真田 幸明、加賀山 公 幹 事：湯川 和之、野上 宏志、藤ノ木 恵、志水 かず美、窪田 慎二		
副委員長：村里 敏彰		
委 員：小林 俊勝、五十嶋 博文、林 辰男、		
副委員長：宗 中正 常任委員：秋山 英宏、飯田 剛		
委 員：武田 整、中嶋 文史、佐々木 信子、中原 かおり、野村 元、吉田 友佳、水野 加余子、 丹羽 奈生子、松岡 修造、阿部 幸恵、大西 哲夫		
委 員：		
副委員長：遠藤 幸一		
委 員：秋田 昌彦、渡辺 仁、千葉 末次、小竹 英雄、三輪 康廣、秋間 律男、池谷 幸雄、 森 関光、播田 實浩明、永田 敏雄、池田 真喜子		
委 員：菅 芳松		
副委員長：荒居 達雄	事務局長	武村 洋一
委 員：豊崎 謙、菊地 透、長嶋 匡之、瀧山 朗子		
副委員長：平良 朝治		
委 員：野呂 記代志、舟喜 信生、橋本 建郎、後藤 節哉、星野 忠人		
	事務局長	兼子 真
担当理事：竹内 敏子		
副委員長：中村 喜和	事務局長	白川 誠之
委 員：渋谷 五郎、若尾 輝夫、佐藤 正喜、折居 克春		
委 員：大山 則夫、吉田 麻実	事務局員	吉田 麻実
委 員：矢作 直也、小山 香		
副委員長：西山 勝、村田 儀昭	事務局長	藤原 義和
委 員：釜井 昭人、永井 誠、佐藤 衛、中村 立雄		
運営委員長代行：松下 三郎 運営副委員長：岩崎 安孝、津沢 寿志		
委 員：山下 泰裕、細川 伸二		
委 員：笹田 嘉雄	事務局長	横田 博之
副委員長：近岡 昭		
委 員：池田 公子、本多 修治		
	事務局員	塚越 ゆかり
副委員長：角館 昭二、梅原 弘史	事務局長	菊地 孝之
委 員：伊丹、横井、伊東、田中 英一、成田 寛志		
副委員長：浅見 豊		
常任委員：青木 敏雄、梅山 義弘、小高 令子、小原 美子、斎藤 長作、椎名 宏子、杉本 憲昭、徳永 邦光、 廣田 博、松隈 豊、三ツ木 達男、山口 定男、山口 泰雄		
委 員：本田 泉	事務取扱	岩上 禎宏
委 員：大塚 亨、関 高、村井 敏夫、西尾 耕一郎、青木 正隆、石川 貴史、上萬 淳、上村 正、竹原 光則		
副委員長：太田 豊秋、渡辺 幹也	事務局長	大江 直之
委 員：笹田 矩史、千葉 守男、杉井 幸蔵、柳 一郎、松尾 博、細川 祐吉		
副委員長：岡本 脩	事務局員	宮内 久美子
担当理事：黒河敏一、金安利和、山下哲郎、荻野和男、山田祥徳		
委 員：柴田 穰		
副委員長：松生 治子、森重 寛	事務局長	中山 正夫
委 員：鈴木 信之、小金澤光司		

(3) JOC スポーツ環境アンバサダー

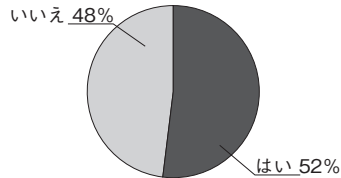
JOC Sports environment ambassadors

団体名	推薦者名	団体役職	出場大会
(財)日本陸上競技連盟	瀬古 利彦	理事	1984 ロサンゼルス 1988 ソウル
(財)日本水泳連盟	岩崎 恭子	スポーツ環境委員	1992 バルセロナ 1996 アトランタ
(財)日本サッカー協会	岡田 武史	特任理事 環境プロジェクトメンバー 元日本代表監督	1984 ロサンゼルス予選
(財)全日本スキー連盟	萩原 健司	名誉顧問	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル 1998 長野 2002 ソルトレーク
(財)日本テニス協会	松岡 修造	理事待遇	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ
(財)日本バレーボール協会	大林 素子	女子強化委員	1988 ソウル 1992 バルセロナ 1996 アトランタ
(財)日本体操協会	塚原 光男	副会長	1968 メキシコ 1972 ミュンヘン 1976 モントリオール
(財)日本スケート連盟	黒岩 敏幸	スピードスケート 強化スタッフ	1992 アルベールビル 1994 リレハンメル
	八木沼 純子		1988 カルガリー
(財)日本レスリング協会	小林 孝至	広報委員会副委員長	1988 ソウル
(財)全日本柔道連盟	阿武 教子	強化委員会 女子特別コーチ	1996 アトランタ 2000 シドニー 2004 アテネ

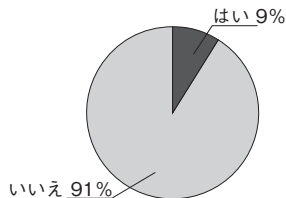
(4) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について

Results of the questionnaire regarding environmental activities of NFs

1. 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等はありませんか

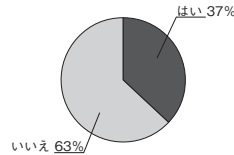


2. 環境省の「チーム・マイナス6%」のメンバーに参加していますか

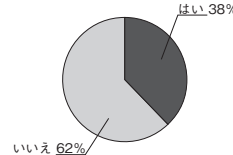


3. 貴団体が環境保全啓発のため実施されている活動について

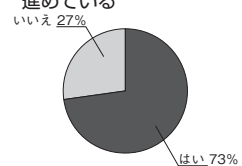
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



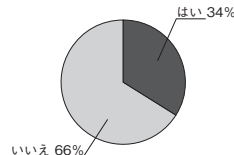
イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている



エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している

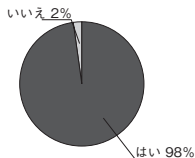


オ. その他 事例をご記入下さい

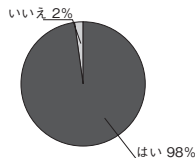
- 競技会における PR
- 大会プログラムへ広告 1 ページ掲載
- 指導者の育成講習会やセミナーで環境問題を啓発している 環境レポートの発行
- ゴミの分別収集、大会装飾の使いまわし
- 事務局 FAX 送信デジタル化
- 国体時の全国代表者会議にて報告書を配布してアピールした
- 競技会でのポスター、横断幕の掲示、競技中、競技役員のプラスチックコップへ各自の名前の記名、再使用している
- 加盟団体ごとで、清掃奉仕活動をしている
- JOC 横断幕の大会会場への掲示、JSA 横断幕の作成、掲示検討中
- 鉛弾丸の処理を一発も残さず実施するよう努めている
- 環境問題対策協議会において、射撃場に堆積した鉛散弾を回収するための助成金事業を実施。鉛汚染対策検討会のメンバーとして参加している。
- 理事会で説明

4. 競技会における環境保全のため実施されている活動について

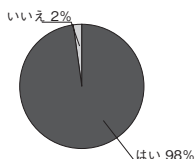
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



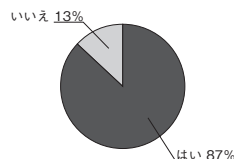
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する

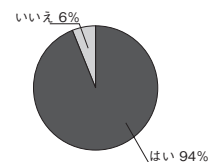


オ. その他 事例をご記入下さい

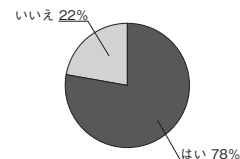
- アウトドアビーチバレーでも砂浜清掃している
- 横断幕設置、館内放送、速報、モバイルサービス
- 大会時に配布する弁当、ゴミになら内容に中身に配慮してもらっている
- 海上のゴミを収集する (エコバックの配布)
- 競技会要項へ依頼文の添付
- IF に鉛弾を使わないよう働きかけている。12 月 14 日からの京都コンgresで話合われる
- 競技会時には環境安全指導員を組織して指導にあっている
- 大会会場でのゴミは持ち帰るようお願いしている

5. JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している

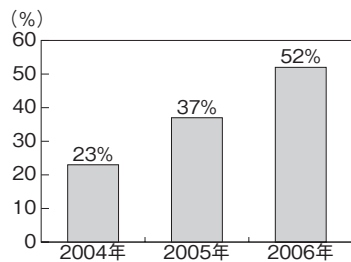


6. 最後に、スポーツと環境についてご意見等がございましたらお書きください。

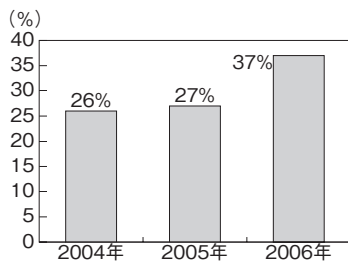
- スタートし啓発活動を続けて、現在組織内にスポーツ環境委員会を設置し、全国（各都道府県陸連）に担当者を置く準備をしています
- 指導者が環境保全に関して、関心を強く持ち具体的な行動を広げて行くことが必要である。そのためにも、体協の公認指導者養成の課程で環境に関連したテーマやカリキュラムの検討をすべきだと考える
- 地味だが継続する活動とらえている。JVA 理事会でも理解を得ている
- 体操競技特有の炭酸マグネシウム問題は運営側の準備したもの以外使わないようにしている。各競技種別の独自活動を促している
- 大会主管地の行政主導でゴミの分別、リサイクル等が行われている
- 積極的な活動を継続することが大切だと思います
- 競技会におけるゴミの分別についてのかだいとして、開催地（都道府県ソフトボール協会、市町村行政）への協力要請をしていくことが必要
- 鉛弾を使わないよう働きかけ、ロンドンオリンピックに向けて話し合いがもたれる

- 役員の吸殻は、各自で処理するよう指導しているが、之が解けるとできていて、さらに徹底する
- 平成 19 年度から環境委員会を設置予定
- 自然環境の中での競技種目であるため「来た時より美しく」をスローガンとして啓発活動を継続実施していきたい
- JOC スポーツ環境委員会活動報告書の一部を連盟機関誌「剣の心」に掲載している
- 鉛散弾 / 回収再利用、クレー標的 / ワッス燃料燃料として利用、空棄棄 / 金属とプラスチックに分離再利用、等々ゴミの分別、3R を実施している
- トップアスリートがスポーツと環境の重要性の認識を持ち、イニシアチブをとることが重要。・全国レベルでの運動の展開が課題
- 今後はなるべく早い段階でスポーツ環境委員会を設置して積極的に環境保全プロジェクトを推進したいと考えております

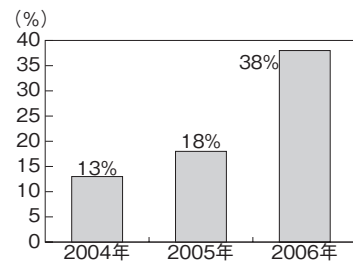
貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか



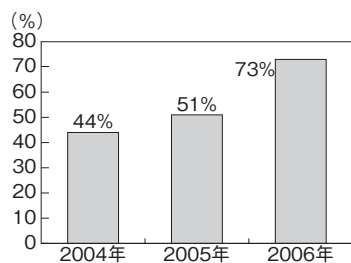
貴団体の環境保全啓発のため実施されている活動について団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している



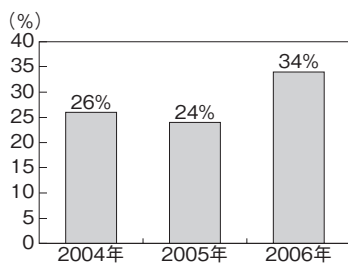
選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



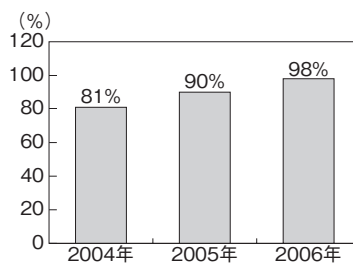
トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている



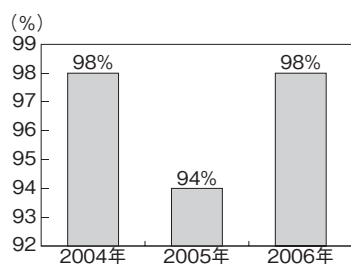
環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している



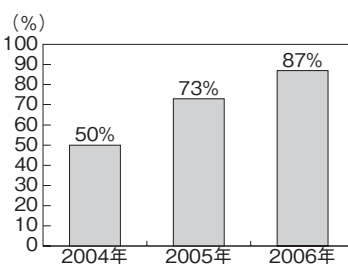
競技会における環境保全のため実施されている活動について競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



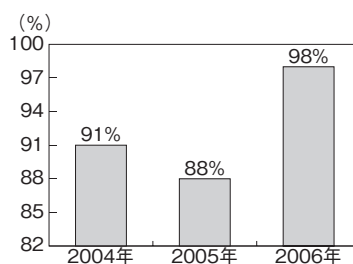
ゴミの分別を実施している



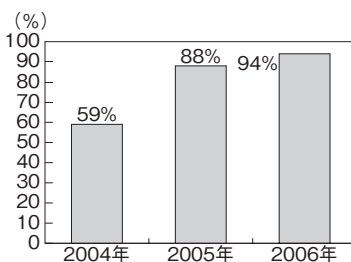
ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



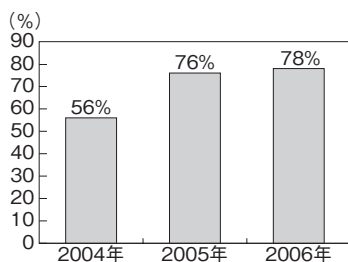
今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する



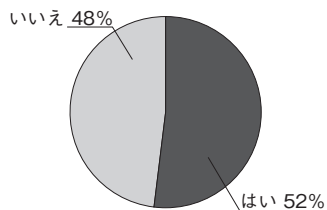
JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか
活動の参考として参照している



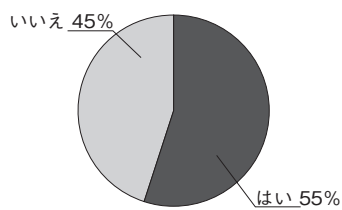
いつでも閲覧できるように設置している



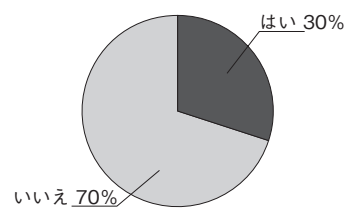
貴団体にスポーツ環境委員会、環境保全プロジェクト等がありますか？



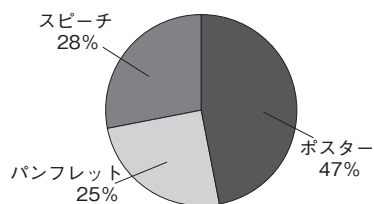
いいえの回答 設置の予定はありますか？



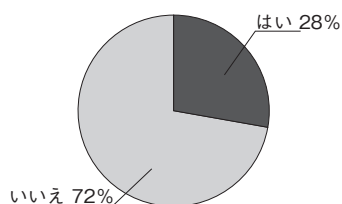
JOC 及び貴団体マーク入りの環境啓発横断幕を作成しましたか？



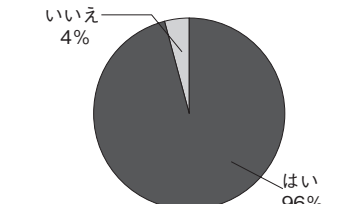
平成 18 年度作成の配布いたしましたポスター・パンフレットは何事業に貼付しましたか？



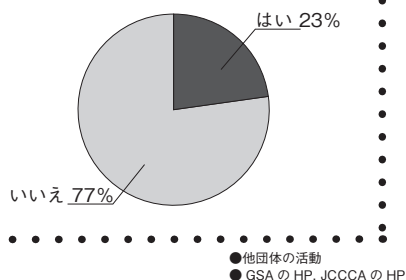
機関誌、大会プログラム等に環境保全について掲載していますか？



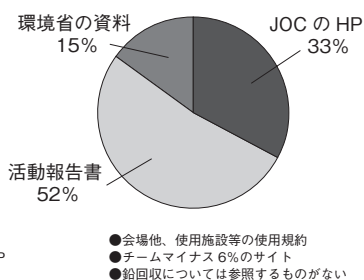
混ぜればゴミ、分ければ資源。ゴミの分別をしていますか？



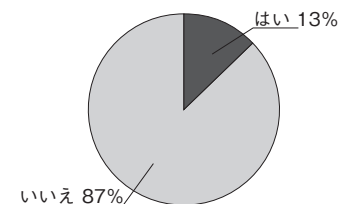
11. グリーン購入をしていますか？



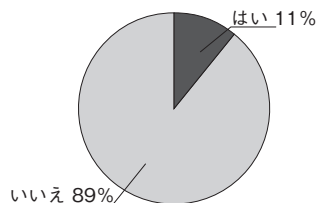
環境保全活動に関して何を参照していますか？



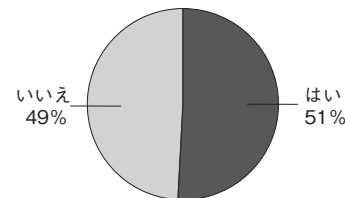
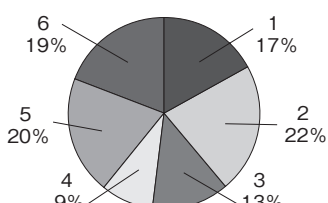
貴団体はチーム・マイナス 6% のメンバー登録をされていますか？ いいえの回答登録の予定がありますか？



貴団体役員、選手他関係者はチーム・マイナス 6% のメンバーに登録をしていますか？



チーム・マイナス 6% のアクションを貴団体の事業・日常生活において実践していますか？



- 1 温度調節で減らそう／冷房 28℃、暖房 20℃にしよう
- 2 水道の使い方減らそう／蛇口はこまめにしめよう
- 3 商品の選び方で減らそう／エコ製品を選んで買おう
- 4 自動車の使い方減らそう／エコドライブをしよう
- 5 買い物とゴミで減らそう／過剰包装を断ろう
- 6 電気の使い方減らそう／コンセントからこまめに抜こう

その他貴団体における活動

- 環境レポートの発行 指導者への啓発、47 都道府県協会内に環境担当者を設置要請
- 4 月登録予定
- 1. 3. 5. 6 については家庭で行うよう理事からコメント、マイナス 6% のメンバー登録促進させる。コピー紙の裏面利用
- 呼びかけているが実態調査はしていない。横断幕の掲出、FAX 送信のデジタル化による紙節約（事務局）
- エコバックの作成配布中
- JSAF 環境キャンペーンに参加したレースで、帆走指示書に「ゴミを捨てないこと」を明記し、大会会場に横断幕（JOC のものを含む）を掲出し、エコバックを配布して海面の浮遊ゴミなどを回収することを奨励している。
- ゴミの分別、競技大会時のプラスチックカップのリユース
- 啓発ポスターとチラシを作成、競技会・会議で掲出・配布します。
- 当団体のゴミ分別活動、持ち帰り活動は、徹底しています。理由は簡単です。好い加減にしている、次回会場を借りられません。結果として、今は自主的な環境保全活動になり、定着しています。
- 柔道ルネッサンス活動の一環として、競技会場のクリーンアップ

作戦や地域における清掃奉仕活動を実施している。

- 機関誌を再生紙で発行
- 平成 19 年度の国際試合より、先ずは会場内でのゴミを減らすため、リユースカップを導入した。
- 山岳地域におけるゴミの持ち帰り、登山道のゴミ収集。自然環境保全のためのパトロール
- 全国の大会会場にポスターの掲出、ゴミの分別の指導他
- 鉛問題に伴い 7 年前ぐらいから業界全体で環境保全について取り組んでいる。
- 競技エリア周辺でのドリンク、すべり止め剤等の管理・置き場の徹底（エリア内の安全、美化面の向上のため）、会場内のゴミ分別等
- 木製パット用材の植林活動
- パソコンで文書等作成時には、ドラフト段階では排紙を使用している。又、節電に努め、こまめにコンセントを抜くよう心がけている。
- 大会におけるアスリートとの環境意識調査
- 飲食したゴミは各自持ち帰ってもらっている

(5) 国際大会での活動

JOC environmental activities at the International Games

日本代表選手は見られています。

私たちは太陽系第三惑星「宇宙船地球号」の乗組員です。私たちはこの地球から外に出て生きていく事は出来ません。スポーツマンを含む地球に住むもの全員がこの美しい私たちの宇宙船をきれいに保っていく努力をしなければなりません。

20 世紀になって人類は文明を発展させ、石油や石炭をエネルギー源とし、あらゆる物質を資源として使い、私たちの生活がとても便利になった反面、地球の環境は破壊され続けています。

環境保全はスポーツに関る人達も率先して推進すべきであると 1990 年代初頭から国際オリンピック委員会サマランチ前会長が提唱し、スポーツと環境委員会が編成され、スポーツ界の環境保全活動を積極的に行っています。

ではスポーツ界における環境保全とは具体的にどのような活動をするのでしょうか？ 基本的には二つ、一つはスポーツ界でも環境保全活動を推進すべきである事を皆さんに知って貰う啓発活動です。二つ目は余計なエネルギー、資源を節減しモノを大切に使いまわし、使わなくなったものはリサイクルに回す事、そしてゴミは必ず分別し資源として再び我々の生活に使えるようにする事です。

「混ぜればゴミ、分ければ資源」という表現の通り、我々が廃棄するものを全て細かく分別すれば、再利用できる資源になるのです。私たちが毎日の生活の積み重ねとして日々資源エネルギーを節減したり、ゴミを分別する事を実行すればその総量は大変なものになります。

さて、日本を代表して競技大会に参加する選手の皆さんは、各種メディアを始め、観客やスポーツにあこがれる周りの多くの子供たちに見られています。代表選手になる事は子供たちの模範になる義務も同時に負う事を認識してもらいたいと思います。

皆さんが環境保全に協力される事と大会でのご健闘を心より期待します。

(財) 日本オリンピック委員会
スポーツ環境委員会

第 15 回アジア競技大会



皆さんは競技以外でも見られています。

近年、冬の降雪量が減ってきています。日本に襲来する台風の数が増え、勢力も大きくなって風水害が増しています。また、降雨量の極端に多いことから未曾有の水害や、逆に雨が全く降らない干ばつの被害など、極端な異常気象が起っています。これら異常気象には多くの原因がありますが、その大きな要因は地球温暖化です。人間社会は20世紀に文明を急速に発展させ、我々の生活は過ごしやすくなった反面、環境汚染、環境破壊を起しています。

環境問題は地球温暖化のみならず、酸性雨、オゾン層の破壊、野生生物種の減少、森林の減少、地球規模の砂漠化、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動などが起こり、我々の日常生活に大きな影響を与えているのです。

スポーツ界に携わるアスリート、役員、関係者も地球に生きる市民として環境保全に力を尽くす義務があると、国際オリンピック委員会（IOC）は1990年代初頭に、オリンピック運動の柱であるスポーツ、文化に続くものとして環境を加え、スポーツ界の環境保全活動を主導することを決めました。

1995年以来、IOCはオリンピック大会やメガ・イベントで環境保全活動を順次効果的に進めて行くことに加えて、環境汚染の現実を知り、適切な対策を打つことの啓発活動と、少しずつでも成果を上げる実践活動とを推進しており、JOCもこれに呼応して積極的な環境活動を進めています。

アスリートの皆さんにもこの活動を理解し協力していただくことをお願いいたします。環境問題についてよく知ってもらい、皆さんから環境保全のメッセージを発信してください。また、余計な電灯を消したり、リサイクルのためのゴミの分別など、出来ることから実行していただきたいと考えます。

皆さんは注目されています。子供たちはオリンピック選手を見て影響を受けるのです。それ故、環境についても良く理解し模範的な行動をお願いします。

（財）日本オリンピック委員会
スポーツ環境委員会

第23回ユニバーシアード冬季競技大会



第6回アジア冬季競技大会



(6) 環境省との連携について

京都議定書に基づいて地球温暖化の一因とされる温室効果ガスを抑制する為の日本政府と環境省が主導するプロジェクト「チームマイナス6%」にJOCは参加し協力・連携をしている。

大きく注目を浴びるスポーツのトップ選手の言動が子供たちに多大な影響を与えることを鑑み、スポーツ界が環境保全の模範となり温暖化防止に役立てるよう、JOCのみならずJOCに加盟している国内スポーツ競技団体も参加して「チームマイナス6%」の協力体制を取りつつある。

例を挙げると、スキー連盟は温暖化が進んで雪が少なくなるとスキーが楽しめなくなる事をアピールする為に、このプロジェクトの推進に協力している。

「チームマイナス6%」プロジェクトであるCO₂削減のために、以下の具体的な6つのアクションを進めている。

ACT1: 温度調節で減らそう		ACT2: 水道の使い方で減らそう	
	冷房は 28℃、暖房時の室温は 20℃にしよう		蛇口はこまめにしめよう
ACT3: 自動車の使い方で減らそう		ACT4: 商品の選び方で減らそう	
	エコドライブをしよう		エコ製品を選んで買おう
ACT5: 買い物とごみで減らそう		ACT6: 電気の使い方で減らそう	
	過剰包装を断ろう		コンセントからこまめに抜こう

環境省ホームページより抜粋 <http://www.team-6.jp/>

(7) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

Draft of lectures on Sport and Environment

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

私達スポーツを愛するものも環境保全の大切さを理解して、出来る事から実行しましょう。

スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人。

① スポーツマンはいつも爽やかなイメージを持ち、スポーツをするものは環境と関係がないように思う人が居るかも知れないがそれは幻想なのです。

② 人間として社会生活をしているものは全て環境を考え、環境保全を実行する義務があります。

(2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。

① 地球に生きる全ての動植物は地球の外では生きて行く事は不可能なのです。

② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きても地球からのバックアップなしには生き続けられないのです。

③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行しなくてはなりません。

(3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)。

① 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのような汚染・問題があるかを、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。

② そして、地球規模の現実的な問題を考えつつ実行しますが、しかし私達に出来る事は身の回りの細かなことです。

2. 協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解して貰いたいのです。

(2) 自然、資源、エネルギーを大切にしましょう。

① モノを大切にする。3 R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行。

a. 削減 (Reduce) エネルギーや資源を大切にするために、まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)

b. 再使用 (Reuse) 同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

c. リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとによりサイクルし他の物資にして使用することです。(例：金属バット→飲み物の缶)

② 夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる。

a. 冬には暖かい下着を着たり、もう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。

b. 夏は出来るだけ涼しい服装をしたり、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。

③ ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。

a. 「ゴミは全て資源」の言葉通り、廃棄物を資源として再利用やリサイクルが可能なのです。

b. そのキーワードは分別です。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 15 分レクチャー原稿

15 分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

- ① 地球形成から 46 億年です。
- ② 300 万年前に人類出現しました。
- ③ 1 万年前に大家族制による農業革命が起こりました。
- ④ 20 世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。
- ⑤ 便利な社会になった反面、化石燃料を燃やしつづけ我々の地球環境は破壊され、中でも自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます。
- ⑥ 環境問題を列記してみましょう。
 - a. 地球温暖化
 - b. オゾン層破壊
 - c. 酸性雨
 - d. 野生生物種の減少
 - e. 森林の減少
 - f. 地球規模の砂漠化
 - g. 海洋汚染
 - h. 有害廃棄物の越境移動
 - i. 大気汚染

2. スポーツと環境についての理解

- ① スポーツを愛する私たちも皆、地球人
 - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージを持ち、スポーツをするものは環境と関係がないように思う人が居るかも知れないがそれは幻想なのです。
 - b. 人間として社会生活をしているものは全て環境を考え、環境保全を実行する義務があります。
- ② 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。
 - a. 地球に生きる全ての動植物は地球の外では生きて行く事は不可能なのです。
 - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きても地球からのバックアップなしには生き続けられないのです。
 - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行しなくてはなりません。
- ③ think globally, act locally（地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する。）
 - a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのような汚染・問題があるかを、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
 - b. そして、地球規模の現実的な問題を考えつつ実行しますが、しかし私達に出来る事は身の回りの細かなことです。

3. スポーツと環境活動の経緯を見て見ましょう

- ① 1972 年札幌オリンピック冬季大会、恵庭岳ダウンヒルコース、競技終了後植林。

- ② 1976 年デンバーオリンピック冬季大会開催返上。(経済・環境問題)
- ③ 1990 年まで IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④ 1990 年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた。(スポーツ・文化・環境)
- ⑤ 1992 年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加 NOC 署名。
- ⑥ 1994 年第 12 回オリンピックコンGRESS (IOC 創立 100 周年記念) でスポーツと環境分科会開催・パリ
- ⑦ 1995 年 IOC にスポーツと環境委員会設置。
- ⑧ IOC スポーツと環境世界会議開催。(Lausanne1995, Kuwait1997, Rio1999)
- ⑨ 1999 年第 3 回 IOC スポーツと環境世界会議で Olympic Movement's Agenda21 (オリンピック運動の環境保全規約書) を採択、IOC で承認された。
- ⑩ 2001 年 4 月 JOC にスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑪ 2001 年 11 月第 4 回 IOC スポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement's Agenda21 の実践。

4. 協力依頼

- (1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう。
- (2) 「持続可能な開発」と「持続可能性」
 - ① 『持続可能な開発』は 92 年のリオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスが丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。
 - ② 『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。
- (3) 循環型社会の形成
 - ① これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
 - ② 例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間(約 25 日)処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
 - ③ 各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
 - ④ これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。
- (4) ゼロ・エミッション
 - ① ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
 - ② 循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらは又資源となるのです。
 - ③ 特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- (5) モノを大切に使う。3 R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行
 - ① 削減 (Reduce) エネルギーや資源を大切にするために、まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)

- ② 再使用 (Reuse) 同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
 - ③ リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとによりサイクルし他の物資にして使用することです。(例：金属バット→飲み物の缶)
- (6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる。
- ① 冬には暖かい下着を着たり、もう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。
 - ② 夏は出来るだけ涼しい服装をしたり、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 30 分レクチャー原稿

30 分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人 (宇宙船地球号の乗組員)

- (1) 地球形成から 46 億年です。
- (2) 300 万年前に人類出現しました。
- (3) 1 万年前に大家族制による農業革命が occurred しました。
- (4) 20 世紀は人類の転換期 (文明の急速発達) でした。
- (5) 便利な社会になった反面、化石燃料を燃やしつづけ我々の地球環境は破壊され、中でも自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます。

2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

I . 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇

- (1) 海面水位上昇による土地の喪失
- (2) 豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- (3) 生態系への影響や砂漠化の振興
- (4) 農業生産や水資源への影響
- (5) マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

II . 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物とな

り、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- (1) 森林の衰退
- (2) 湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- (3) 歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ．オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事

- (1) 皮膚がんや白内障の増加
- (2) 免疫抑制などによる人の健康への影響
- (3) 動植物の生育阻害など生態系への影響
- (4) 大気汚染などの影響

Ⅳ．野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- (1) 遺伝子資源の減少
- (2) 観光・レクリエーション資源の減少
- (3) 生態系の破壊
- (4) 食物連鎖の破壊

Ⅴ．森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- (1) そこに生息する野生生物種の減少
- (2) 土壌（表土）の流失
- (3) 森林に蓄積された炭素がCO₂ となって放出される事による温暖化の進行
- (4) 水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

Ⅵ．地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- (1) 食糧生産基盤の悪化
- (2) 生物多様性の喪失
- (3) 貧困の加速
- (4) 気候変動への影響
- (5) 都市への人口の集中
- (6) 難民の増加

Ⅶ．海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

- (1) 生態系の破壊

- (2) 漁業資源や観光資源の喪失
- (3) 有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

Ⅷ. 有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

- (1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人
 - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージを持ち、スポーツをするものは環境と関係がないように思う人が居るかも知れないがそれは幻想なのです。
 - b. 人間として社会生活をしているものは全て環境を考え、環境保全を実行する義務があります。
- (2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります。
 - a. 地球に生きる全ての動植物は地球の外では生きて行く事は不可能なのです。
 - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きても地球からのバックアップなしには生き続けられないのです。
 - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行しなくてはなりません。
- (3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)
 - a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのような汚染・問題があるかを、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
 - b. そして、地球規模の現実的な問題を考えつつ実行しますが、しかし私達が出来る事は身の回りの細かなことです。

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

- (1) 1972 年札幌オリンピック冬季大会、恵庭岳ダウンヒルコース、競技終了後植林
- (2) 1976 年デンバーオリンピック大会開催返上（経済・環境問題）
- (4) 1990 年まで IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- (5) 1990 年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた。（スポーツ・文化・環境）
- (6) 1992 年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名
- (7) 1994 年第 12 回オリンピックコンGRESS（IOC 創立 100 周年記念）でスポーツと環境分科会開催・パリ
- (8) 1995 年 IOC、オリンピック憲章に環境保全実行を明記
- (9) 1995 年 IOC にスポーツと環境委員会設置
- (10) IOC スポーツと環境世界会議開催（Lausanne 1995, Kuwait 1997, Rio 1999）
- (11) 1999 年第 3 回 IOC スポーツと環境世界会議で Olympic Movement's Agenda 21（オリンピック運動における環境保全の規約書）を採択、IOC で承認された。
- (12) 2001 年 4 月 JOC にスポーツ環境委員会設置、活動を開始

- (13) 2001 年 11 月第 4 回 IOC スポーツと環境世界会議を長野で開催
“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement’s Agenda 21 の実践
- (14) 2003 年 12 月第 5 回 IOC スポーツと環境世界会議をトリノで開催
“Partnerships for Sustainable Development”
- (15) 2005 年 11 月第 6 回 IOC スポーツと環境世界会議をナイロビで開催
ナイロビ宣言

5. 協力依頼

(1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう。

(2) 「持続可能な開発」と「持続可能性」

①『持続可能な開発』は 92 年のリオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。

②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3) 循環型社会の形成

①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。

②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約 25 日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。

③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。

④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。

②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらは又資源となるのです。

③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

(5) モノを大切にする。3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行

①削減（Reduce）エネルギーや資源を大切にするために、まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）

②再使用（Reuse）同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。

- ③リサイクル（Recycle）使えなくなったものを上手く分解して素材ごとにリサイクルし他の物資にして使用することです。（例：金属バット→飲み物の缶）
- (6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる。
 - ①冬には暖かい下着を着たり、もう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。
 - ②夏は出来るだけ涼しい服装をしたり、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

- (1) 会場立地
 - ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
 - ②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する。
 - ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する。
- (2) 施設
 - ①設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事。
 - ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする。
 - ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める。
- (3) 運営
 - ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。
 - ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする。
- (4) 役員
 - ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
 - ②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する。
- (5) 選手・コーチ
 - ①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす。
 - ②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする。

(6) オフィスワーク

- ①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する。
- ②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行なう。

(7) 観客

- ①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
- ②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい。

(8) 用具

- ①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する。
- ②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの。
- ③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの。
- ④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品。(混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない)
- ⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する。
- ⑥有害物質は全く使わない。(塩化ビニール・フロンなど)

(9) メディア

- ①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。
- ②メディア活動においても省資源・省エネを促進する。

7. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。

- ①気の長さ
- ②忍耐力
- ③継続力
- ④適正なペース
- ⑤実効性
- ⑥リーダーシップ

8. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

5.IOC スポーツと環境委員会について

IOC Sport and Environment Commission



(1) IOC スポーツと環境委員会

IOC Sport and Environment Commission

INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

Meeting agenda

Sport and Environment Commission

Date: Friday 7 July 2006
Time: 9.00 am - 12.30 pm & 2.00pm to 4.00pm
Place: Coubertin Room
Organiser: International Cooperation and Development Dept
Participants: Members of the Commission, Mr T.A. Ganda Sithole, Prof Joseph Tarradellas, Ms Nicole Girard-Savoy, Mr Edward Kensington
Objective: Annual Meeting

Meeting agenda

SUBJECT

1. Welcome by the IOC President
2. Response by the Commission Chairman
3. Presentation of the new Members
4. Approval of the Minutes of 12 November 2005
5. Overview report by the Commission Chairman
6. Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development
7. Nominations for Champions of the Earth Awards
8. Analysis of the 5th and 6th World Conference Recommendations
9. Guide to sport, environment and sustainable development
10. Regional seminars
11. Future activities
12. Report of the Olympic Solidarity
13. Report of the TOROC representative
14. Report of the BOCOG representative
15. Report of the VANOC representative
16. Report of the LOCOG representative
17. Miscellaneous
18. Next Commission meeting and World Conference

(2) IOC スポーツと環境・地域セミナー

IOC Regional Seminar on Sport and Environment

IOC スポーツと環境・東南アジア地域セミナー出席報告

2006 年 5 月 29 日
JOC スポーツ環境専門委員会
委員長 水 野 正 人

主催：IOC スポーツと環境委員会

日時：2006 年 5 月 27 日（土）・28 日（日）

場所：マレーシア / クアラルンプール グランド・オリムピック・ホテル

対象：東南アジアの国内オリンピック委員会

参加 NOC：ブータン、カンボジア、中華人民共和国、ホンコン・チャイナ、大韓民国、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、フィリピン、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、タイ、ベトナム

以上 17NOCs

IOC スポーツと環境委員会：パル・シュミット委員長、トーレ・ブレビック委員
水野正人委員（NOC の果たすべき役割発表）

JOC：遠藤幸一スポーツ環境専門委員（JOC スポーツ環境専門委員会活動報告）

プログラム：別紙の通り

今回の地域セミナーの意見表明（Commitment）

1. 東南アジアの各 NOC に於けるスポーツを通じて持続可能な開発に対する活動を鼓舞するための方策を開発する
2. IOC スポーツと環境委員のプレゼンテーション、新しい IOC のガイドライン、各 NOC のプレゼンテーションと討議が行われた
3. 各発表と討議と活動計画により、各代表は自国の NOC に於いて、適切な環境委員会やワーキング・グループを設置し、より多くの関係者と協働して環境保全の活動を強化するよう働きかける
4. NOC や競技団体は、スポーツと環境の密接な結びつきを選手や多くの人々に簡単に解り易いメッセージで伝える努力を实践する主体である
5. 参加各国の共通の類似点や多様性を認識し各国の情報や経過を連絡・交換する重要性を認識した
6. 各 NOC のスポーツと環境の活動を援助・支持する IOC の書簡の送付を要望した
7. 今回の地域セミナーを開催したマレーシア・オリムピック・評議会に感謝する

以上

IOC スポーツと環境・東アジア地域セミナー



REGIONAL SEMINAR ON SPORT AND ENVIRONMENT

27 - 28 May 2006, Kuala Lumpur, Malaysia

PROGRAMME

Friday 26 May 2006

Arrival of participants – transfer to hotel

Saturday 27 May 2006

09:00-09:45 Opening Ceremony

Welcome remarks by the Malaysia NOC President, HRH Prince Tunku IMRAN

Welcome remarks by Pal Schmitt, Chairman of the IOC Commission for Culture and Olympic Education

Official opening by Malaysian for environment

09:45-10:15 Group photograph followed by light refreshments

SESSION I: General information

10:15-11:00 1. Introduction by Pal Schmitt, Chairman of the IOC Sport and Environment Commission

- seminar objectives and procedure
- presentation of participants

11:00-12:00 2. Sport and sustainable Development
by Tore Brevik, UNEP representative on the IOC Commission for Sport and Environment

12:00-12:45 3. National Olympic Committee acting for Sport and Environment
by Masato Mizuno, Member of the IOC Sport and Environment Commission

12:45-13:00 4. Projection of Sport and Nature Camp Film

13:00-14:00 Lunch-break

14:00-14:45 5. IOC Guide to Sport, Environment and Sustainable Development
by Edward Kensington, Project Officer, IOC Department of International Cooperation and Development

SESSION II: NOC programmes and actions

14:45-16:00 6. Presentations of national programmes/actions (5-10 min.)

- Malaysia, China, Hong Kong / Discussion
- Indonesia, Japan, Mongolia / Discussion
- Myanmar, Chinese Taipei, Thailand / Discussion

- 16:00-16:15** Light refreshments
- 16:15-17:15** **7. NOC programmes/action(5-10 min.)**
(actions undertaken by NOCs and local authorities: success stories, issues to solve, obstacles, supports, future objectives, partnerships, etc.)
By NOC representatives who wish to take the floor.
- 17:15-17:45** **8. Summary of discussions**
by Tore Brevik, UNEP representative on the IOC Commission for Sport and Environment
- 19:00** **Welcome dinner hosted by Olympic Council of Malaysia**

Sunday 28 May 2006

SESSION III: Identification of key issues and action plan

- 09:00-09:30** **9. Presentation of the identification of key issues and action document**
by Tore Brevik
- 09:30-10:30** **10. Group work on action plans**
- 10:45-11:00** Light refreshments
- 11:00-12:30** **11. Group work on action plans and presentations**
- 12:30-14:00** **Lunch-break**

SESSION IV: Future strategies / recommendations

- 14:00-15:30** **12. General Discussion on next steps and follow-up to the seminar with individual action plans**
- 15:30-16:00** Light refreshments
- 16:00-16:30** **13. Presentation of recommendations and closing remarks**
by Pal Schmitt



IOC REGIONAL SEMINAR ON SPORT AND THE ENVIRONMENT

27 & 28 May 2006, Kuala Lumpur, Malaysia

COMMITMENTS

The seminar was honoured by the presence of HRH Prince Tunku Imran, President of NOC Malaysia and officially opened by Hon. Dato' Subuh Bin Mohd Yassin, Secretary General, Ministry of Natural Resources and Environment Malaysia.

The delegates from the 17 National Olympic Committees present at the seminar (Bhutan, Cambodia, People's Republic of China, Republic of Korea, Hong Kong China, Indonesia, Japan, Lao People's Democratic Republic, Malaysia, Mongolia, Myanmar, Nepal, Philippines, Singapore, Chinese Taipei, Thailand and Vietnam), with representatives of the IOC Sport and Environment Commission, gathered together in Kuala Lumpur to encourage in, their countries and Asia, the development of actions to encourage activities for sustainable development through sport.

The seminar heard presentations from IOC Sport and Environment Commission Members, a presentation of the new IOC Guide to Sport and Environment, National presentations and discussed key issues together.

With reference to the discussions on the presentations and the actions plans and strategies, each delegate will engage himself/herself to return home with recommendations for their NOC to promote sport and environment through clean and green sports events, awareness campaigns with diverse partners in and beyond the sports community and when appropriate set up national working groups/sport and environment commissions.

The key target groups will be NOCs and associated sports organisations with special emphasis on reaching out to young people and athletes with simple and easily understood messages on the close links between sport and environment.

The seminar recognized both the similarity and diversity of the countries present, the importance of remaining in contact and exchanging information and experiences.

The seminar requested the IOC for a letter of support to assist them with their future actions.

The seminar expresses its gratefulness to the host of the seminar the Olympic Council of Malaysia.

National Olympic Committee acting for Sport and Environment
IOC Sport and Environment Regional Seminar
May 27, 2006 Kuala Lumpur, Malaysia
Masato Mizuno, Chairman, Sport and Environment Commission of JOC

Since the formation of Sport and Environmental Commission of the IOC in 1995, the members of the commission and Olympic family have been making so much effort to conserve environment in the world of sport under the leadership of excellent commission chairman Dr. Pal Schmitt.

The diameter of the earth is 12700km. On which, thickness of the air that human can breathe to live is about 4km thick. If the diameter of 1m a globe, the air thickness human can breathe is only 3mm. The total amount of air of the earth is very small.

It is necessary that the IOC show the appropriate and concrete guidelines on Sport and Environment to NOCs at every occasion.

Content of the lecture

1. Boiling flog story
2. Destructions and problems of environment
3. Torino commitment
4. NOCs role to proceed activities on Sport and Environment
5. ISO 14001
6. Industry responsibility

Boiling flog story

If a frog is thrown into a pan of hot water, it will jump out from pan instantly because the frog feels high temperature. On the other hand, if a frog is thrown into a pan of normal cool water, frog stays in the water. Then, the pan of water is heated up gradually, frog would not notice the change of temperature until it is too late then frog would be boiled up to die.

This story actually symbolize that a gradual change of environment can be much more dangerous, because people does not notice it. Then people do not make any effort to get over the situation until extermination.

Human being including people related to sports, athletes and all the stakeholders of sports ought to recognize this gradual environmental change clearly.

There are several environmental problems to be noted.

Global warming

A phenomenon of average temperature of the surface of earth rises by green house gas such as carbon dioxide.

- Decreasing of land mass by rising sea level
- Cause of irregular climate
- Destruction of biosphere and water supply
- Increase of desert area

- Increase of infectious disease

Destruction of Ozone layer

The hole in the ozone layer of the stratosphere caused by “CFC”, allows excess ultra violet rays to come through the earth’s atmosphere, causes many types of global problems.

- Causes of skin cancer and cataract
- Destruction of immune system
- Growth obstruction of plants and animals
- Causes of air pollution

Acid Rain

Acid rain is caused by exhaust gas from combustion of fossil fuel

- Decreasing of forests
- Destruction of biosphere by acidic water in the rain
- Melting of historical ruins, statues and buildings made of marble

Decrease of variety of species

Destruction of forests, ocean pollution, spreading of desert, global warming, and acid rain decrease variety of creatures.

- Decreasing of genetic resources
- Decreasing of tourism resources
- Destruction of food chain

Decrease of forest

Slash and burn agriculture, pasture and excess deforestations results in the decrease of forest area (including tropical forest)

- Decrease of wild animals and species
- Loss of soil by heavy rain
- Loss of source of oxygen
- Decrease the function of water circulation

Increasing of desert area with global scale

Drought and excess grazing for livestock increases desert area

- Food resources begin to worsen
- Loss of diversity of species
- Acceleration of poverty
- Change of climate

- Population concentration of big cities
- Increase of refugees

Ocean Pollution

Ocean pollution caused by tanker accidents, dumping of toxic waste, inflow of contaminated materials through rivers and waterfront development

- Destruction of biosphere
- Decrease of tourism and fishery resources
- Indirect ingestion of toxic material to human body

Again, there are so many environmental problems getting serious.

“Sustainable Development” is the keyword for environmental protection which was adopted at the earth summit of the United Nation and many governmental officials at Rio de Janeiro in 1992. Human being must make good balance in economic development and environmental conservation to sustain the ecosystem of the earth.

Since former President Juan Antonio Samaranch clearly expressed that environment conservation was the third pillar of the Olympic Movement along with sports and culture in the resolution of the centennial congress of the IOC, the Chairman Dr. Pal Schmitt and the members of Commission have been working hard for conservation of environment in the world of sports and to be one of the role model as well.

Sport and Environment in the Olympic Charter, Chapter 2, Mission and role of the IOC, clause 13 states that the role of the IOC is to encourage and support a responsible concern for environmental issues, to promote sustainable development in sport and require that the Olympic Games are held accordingly.

The Olympic Movement’s Agenda 21 was resolved at the IOC World Conference on Sport and Environment. at Rio de Janeiro in 1999, then officially adopted at the IOC Session afterwards. This supposed to be the textbook on sport for sustainable development.

The chart of resolution of Torino IOC Conference shows that all the stakeholders must have good partnerships each other for sustainable development. NOCs should have proper linkage with stakeholders in the chart, especially with NFs who host events and championship in every level.

Those are the guidelines for NOCs how sport and environment activities should be preceded.

General Guidelines

1. Formation of Sport and Environment Commission in the NOCs
2. Promotion of awareness on Sport and Environment
3. Collaboration with NFs
4. Implementations on Sport and Environment

For NOCs who have not formed any commission or task force on Sport and Environment in the organization, it is recommend establishing a commission on Sport and Environment in the NOC. Powerful and consistent leadership is needed for commission chairman. Ideally, a commission consists of representatives from NFs, scholars, specialist, media and some from NGO and sponsors.

It is very important to promote awareness on importance of environment in the domain of sports. Most of the time people may not see clear relation between sports and environment. It is clear that, as a crewmember of this spaceship “the earth”, one must keep it clean as same as people always clean their houses.

Hanging posters of environment that NOCs create are very effective to promote awareness on environment at venue of events or offices for spectators as well as athletes and officers. NOCs are able to obtain the image of posters of JOC with free of charge upon their request.

Pamphlets are useful to explain environmental issues briefly for participants, spectators of events. Explaining by pamphlet on the Olympic Movement, some major problems of environment and what to do in sports field is very effective.

Banners appeal the importance of environment by saying, “give the planet a sporting chance” to spectators and public at sports events. It could be durable by using plastic coated cloth. JOC made rental system of the banners to NFs and the repetition of rental of banners have been getting higher.

3Rs and separation of waste are the keywords to make everyone understand for implementations. 3Rs stand for Reduce, Reuse and Recycle. Everyone who lives on this earth must save energy and resources. Turning off the switch is easy action for everybody for avoiding excess usage of electricity, air conditions and coolers.

Children grow up taller and bigger soon, avoiding of throwing away the clothes which getting smaller for children, someone may be appreciated to use hand over clothes. Some of the commodities being not needed any more should be exhibited in the free market. Some people will be glad to buy with inexpensive price and appreciated.

In the advancement of technology, almost all materials of goods are recyclable today, like PET bottles, aluminum cans, steel cans, copy papers, magazine, newspaper and even some left out foods.

Left out food could be rich fertilizer by mixing with some sort of enzyme.

It is indispensable to keep practicing some concrete implementations at the field of sports. Separation of waste is one of the most important actions every NF should execute. Japan Swimming Federation helps separation of waste by hanging big plastic bags on the wall and indicating what kind of waste people put into each bags. Volunteers change bags when they filled up by separated waste.

Separation of waste is one of the most important and concrete measures for environmental protection. We say separation turns waste into resources. It is true that mixture of waste never be able to separate again unless separation made at the beginning.

There is a concept of zero emission that all the materials are recycled to new resources to establish a recyclable society. In order to realize it, complete separation of waste must be done. There are some pictures on the screen that make understand zero emission easily.

Characteristics of environmental activities:

1. They are not difficult but simple such as awareness of 3Rs and separation of waste.
2. However environmental activities are endless
3. In order to keep on effectiveness, activities should have proper pace.
4. Then the leader must have endurance and strong leadership

Dissemination of environmental message by national hero, heroin and top athletes are indispensable for the activities of Sport and Environment. It is recommended to form a group of ambassadors consisted of top athletes of representatives from each NF, make statements regarding importance of environment in front of TV camera, at press interviews and some sports clinics they show up.

If possible, it is very effective to host a national conference and/or domestic seminars on sport and environment where members of NFs who are in charge on environment gather. Lectures and reports from the representative stimulate and give good idea to precede their activities.

Tree Planting Program is quite common to conserve environment by carbon dioxide assimilation at every occasion by many groups in the society introducing many variety of ways such as Tree-cology program, Plant an Olympic Family Tree Program, Venue Tree Program and so on. It is highly educational and effective program that let people know the environmental situation today.

ISO 14001 is an environmental standard set by International Standardization Organization of which any organization can achieve. An organization with ISO 14001 recognitions can be viewed as an organization with sustainable Environment Management System. In other words, an organization

that takes systematic and sustainable actions for environment.

Making PDCA (Plan-Do-Check-Action) Cycle of their EMS (Environment Management System) in the organization to achieve their goals, make effort to improve the system by reviewing the result by the top management of the organization. The organization is under obligation to receive examination by authorized auditing agency for severance and or renew of the recognition every three years.

In EMS, every element of environmental burdens such as electricity, oil for heating, usage of paper, office and stationary supplies, waste management and so on are listed. And each item is set with numerical goal of improvement from original amount of usage. Most important thing is whether the Environmental Management System is working properly, not achievement the goals itself.

Effectiveness of EMS should be improved every year by looking into the result. Top management, committee member of EMS, all the staffs of the organization must be educated and well aware of how to achieve the goals, importance of conservation of environment and EMS of the organization.

As a member of stakeholders of sport world to make proper environmental protection, sporting goods manufacturers in the sports industry also striving their effort to make actions. Analyzing the environmental burdens and try hard to improve their goals.

There are 5 ways of environmentally safer manufacturing. Those are:

1. Perfect recycling system
2. Recycle to some other raw materials
3. Use of recycled materials
4. Introducing environmental conservation technology for manufacturing
5. Prevention of toxic materials for manufacturing sporting goods

There are quite many examples that are very effective for conservation of environment on each ways.

Finally, it is always stressed that environmental activities should:

1. Not be processed hysterically but logically planned and calmly executed
2. Not be used as marketing gimmicks
3. Be proceeded with enthusiasm and continuous leadership

All stakeholders must work harder together for sustainable development in the world of sports.

Report on activities of Sport and Environment Commission of JOC
Mr. Koichi Endo
Member of Sport and Environment Commission of JOC
May 27, 2006 Kuala Lumpur, Malaysia

Ladies and Gentlemen,

It is my great pleasure to report on the activities of Sport and Environment Commission of Japanese Olympic Committee that has been quite active since its foundation in 2001.

I am Koichi Endo, a member of the commission representing Japan Gymnastic Association. I was a gymnast then became a judge of competitions of the International Gymnastic Federation. I have been taking a role of managing director of Japan Gymnastic Association since 2001.

First activity of JOC commission was the IOC World Conference on Sport and Environment at Nagano, Japan in 2001. The theme was “Give the Planet a Sporting Chance”.

There are 12 members working in the commission today. As you can see in the list, they represent key sports in Japan. We have 5 commission meetings annually along with quite many field activities on environment.

“Partnerships for Sustainable Development” was the theme of the Torino conference in 2003. The chart shows the Torino commitment. Today, I would like to report the activities of JOC having partnership with all the stakeholders in the chart, especially strong linkage with National Federations who hosts most of the key events like national championships in Japan.

Now, I would like to report the key activities of JOC Sport and Environment. Commission. Awareness and Implementation are the key activities of the commission along with hosting domestic regional seminars, the national conference and maintaining the ISO 14001 registration in the JOC office.

First of all, we have been requesting strongly to all the JOC affiliated national sports federations to establish their own Sport and Environment Committee in their federation, and hang posters, banners and distribute leaflets for awareness and implementation of concrete activities like separation of waste.

One of powerful tools to increase awareness of environment is a poster that you can see on the screen. This is the 2005 version

We have just launched new version of poster for year 2006. There are five posters in each year. Let me show you the posters we created since 2002 to 2006 respectively.

Pamphlets or leaflets, just you can see on the screen are quite strong tool to make everybody understand deeper what it is or what to do. We compile it as simple as possible in order for everybody to understand easily, even fourth grade children can.

The commission of JOC keeps asking to National Federations to put up the posters, banners and distribute leaflets and make separation of waste at the competitions and/or events as well.

Please look at some of the pictures that show the activities of each federation at the top events. First one is Japan Association of Athletic Federation. The bottom shows the activities of Japan Swimming Federation.

Next one is annual JOC Forum to discuss Olympic movement and the future games. The theme was looking back of Torino Games. Pictures at bottom are top event of Japan Gymnastic Association who has a specific problem with very fine powder of Magnesium Carbonate.

Japan Golf Association is quite corporative for environment as well as Japan Soccer Association, Especially; Soccer Association has been promoting a voluntarily cleaning activity that asks junior soccer fans to clean up.

Handball and Volleyball are typical indoor sports that bring many fans into gymnasiums. It is quite effective to hang posters, banners and install waste boxes to separate. Athletes are always corporative to disseminate the message to aware the importance of protection of environment.

Japan Sports Association hosts the national sports festival every year with the scale of ten thousand participants. The Association works hard to put up the posters, banners and to separate the waste.

Wrestling Association is one of the active NF. They promote separation of waste by launching their poster saying, "separation turns garbage into resource".

Judo Federation promotes "Judo Renaissance", an activity that implements not only environmental conservation but also sending used Judo Gear to developing countries.

Young kids always enjoy an event that relay to generate electricity at the Olympic Day Run. They get surprised and learn how small electricity they can make by generator of bicycle lamp.

Japan Equestrian Federation always compiles the topic of their environmental activities on their publication.

Skate events like speed skate, ice hockey and figure skate are popular sports and the federation is working hard for conserving environment.

Japan Ski Federation carrying forward all the measures of showing banners, posters and separation of waste at the venue.

One of the big events in spring is the high school baseball tournament. The officers understand the importance of environmental protection and the measurements.

Now, I go on the report of JOC domestic regional seminar and conference on Sport and Environment. We are trying to follow the system of the IOC to host a domestic regional seminar and conference once every year.

JOC hosted first regional seminar on Sport and Environment in Osaka in September last year with over 200 participants of regional federations and related organizations. After listening 7 very instructive lectures, most of the participants had become new leaders of Sport and Environment in their organizations in the region.

JOC conference on Sport and Environment for the national federations and related organizations was held on Nov. 25, last year.

The representing federations of the Sport and Environment commission members of national federations made reports on their environmental activities. Over 90 participants reconfirmed the importance of Sport and Environment.

JOC has been assenting to the movement of Ministry of Environment “Team minus 6 percent” which aims to reduce carbon dioxide in Japan. Minister of Environment, Ms Yuriko Koike made a presentation of “Furoshiki” a scarf for each athlete of Japanese Olympic team to Torino at sending off party. This scarf is very convenient tool to wrap commodities in variety of shapes, such as bottles, a watermelon, and any thing when you don’t have any bag.

The Sport and Environment Commission of the JOC put up our posters on the wall of Torino Athletes Village. Olympians again had chances to catch on environmental consciousness.

JOC has taken examination on the Environment Management System of the JOC office this year to renewal of the ISO 14001 recognition since July 2003. The staffs of JOC Office has been making so much effort on saving energy, saving usage of paper, separation of paper waste and green purchase.

Finally, the commission has been discussed hard for the future master plan as you see on the screen. There are many programs to proceed in the future.

We, Commission of the Sport and Environment of JOC, please to share information with you for mutual benefit to conserve the sport environment together in the future.

Thank you very much for your attention.

IOC スポーツと環境・カリブ海地域セミナー参加報告

2006 年 8 月 17 日

JOC スポーツ環境専門委員会

委員長 水 野 正 人

主催：I O C スポーツと環境委員会

日時：2006 年 8 月 11 日（金）、12 日（土）

場所：ジャマイカ / キングストン コートレイホテル

対象：カリブ海英語圏 N O C (C A N O C), 米国 (U S O C), カナダ (C O C)

参加 N O C : アンティグア・バーブーダ、バハマ、バルバドス、英領バーズン諸島、カナダ、
ケイマン諸島、ドミニカ、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、ジャマイカ、セント・
ルシア、セントビンセントおよびグレナディーン諸島、セントクリストファー・
ネーヴィス、トリニダード・トバゴ、米国 以上 16 N O C

I O C スポーツと環境委員会：パル・シュミット委員長、トーレ・ブレヴィック委員、水野正
人委員、エドワード・ケンジントン事務局、アンドレア・デメ
ター客員指導者

プログラム

8 月 11 日（金）

開会式：国歌、オリンピック賛歌の斉唱

挨拶、ジャマイカ N O C マイケル・フェネル会長

パル・シュミット I O C スポーツと環境委員長

ジャマイカ提督 ケネス・ホール教授

セッション I : 概論

スポーツと環境活動概論（シュミット委員長）

スポーツと持続可能性の活動（ブレヴィック委員）

スポーツと環境について N O C の役割（水野委員）

スポーツとネイチャーキャンプ映像

昼食

スポーツ、環境、持続可能性開発の I O C ガイド（ケンジントン）

ジャマイカ環境管理概要（N E P A マイヤー博士）

セッション II : N O C の計画と実践

参加 16 ケ国の発表、討議

発表のまとめ

夕食会：フェネル会長夫妻招待夕食会

8 月 12 日（土）

セッション III : 主要課題と活動計画の明確化

観光事業の環境問題（西インド大学エリザベス・トーマス教授）

主要課題と活動計画文書解説（ブレヴィック委員）

グループ討議、それぞれの結論発表

昼食

セッション IV : 将来のあり方、推薦事項

次のステップとセミナーでの各国の活動計画のまとめについて

一般討議

セミナーの確約事項と閉会挨拶（シュミット委員長）

セミナー概要報告

- ①カリブ海諸国 42 カ国中、英語圏 21 ケ国のうち 14 ケ国と米国、カナダの N O C が参加。
- ②カリブ海諸国は環境に高い意識を持つが国土が小さく人口が少ないうえ、どのような事業にも資金不足と言う共通の課題が存在する。
- ③他方米国とカナダは環境保全に対しての意識が低い。
- ④参加者の意識は高く、各国の環境に対する発表もスポーツとの関連はあまり無いものの相当質の高いものであった。
- ⑤最大の課題はスポーツ関係者に環境保全に関する高い意識を啓発すること。
- ⑥今後は活動資金をどう獲得するかが課題である。
- ⑦カリブ海諸国は観光が主な産業であり観光についての講義もあり、コミットメントにも観光との共通性を含ませた。
- ⑧スポーツとしては陸上、サッカーの人口が多い。

コミットメント（確約）

このセミナーはジャマイカ総督、ケネス・ホール教授によって開会された。

I O C スポーツと環境委員会パル・シュミット委員長と委員、またカリブ海諸国、米国、カナダなど 16 ケ国 N O C の代表はこのセミナーに参加しそれぞれの参加国においてスポーツを通じて持続可能性を強化する活動を推進する。

参加者は I O C スポーツと環境委員会メンバーとジャマイカ環境専門家の講義、新しく発行されたスポーツと環境ガイド解説、各国 N O C プレゼンテーションを聴きキーとなる問題について討議をした。

セミナー参加者は全員一致でスポーツと環境、また持続可能性に関してスポーツの関係者のみならず政府、非政府組織等の機関に速やかな配慮を求めていることを決議した。

発表やアクションプラン、方策の討議を通じて各代表は各国においてスポーツと環境の連繋の普及に従事する。参加者は各 N O C にスポーツと環境の啓発やグリーン・スポーツ・イベントの実践、スポーツ界のより多くの関係者に対し認識向上方策の提案をすることを約束する。またスポーツと環境委員会を設置する。

スポーツと環境の関連について簡略で解りやすいメッセージを送るべき主要な機関は N O C をはじめとする各種スポーツ団体、関連政府機関、マスメディア、N G O、スポーツ指導者、体育指導者、コーチ、建設業者、スポンサー等である。

セミナー参加者は参加各国のスポーツと観光事業についての類似性と多様性を認識した。参加者は将来において情報交換やそれぞれの経験を継続することに合意した。加えて参加者はカリブ海 N O C、U S O C、C O C の間で地域の環境に役立つパートナーシップや協力事業の開発を探求する。

参加者はこのセミナーを開催したジャマイカ・オリンピック協会、マイケル・フェネル会長に感謝を表明した。

IOC スポーツと環境・カリブ海地域セミナー



REGIONAL SEMINAR ON SPORT AND ENVIRONMENT

11 - 12 August 2006, Kingston, Jamaica

PROVISIONAL PROGRAMME

Thursday 10 August 2006

Arrival of participants – transfer to hotel

Friday 11 August 2006

09:00-09:45 Opening Ceremony

Welcome remarks by the Jamaican NOC President, Mr Michael S. Fennell

Welcome remarks by Dr. Pal Schmitt, Chairman of the IOC Commission for Culture and Olympic Education

Official opening by the Jamaica Governor General, H.E. Prof. Kenneth Hall

09:45-10:00 Coffee break

SESSION I: General information

10:15-11:00 1. Introduction by Pál Schmitt, Chairman of the IOC Sport and Environment Commission

- seminar objectives and procedure
- presentation of participants

11:00-12:00 2. Sport and sustainable development by Tore Brevik, UNEP representative on the IOC Commission for Sport and Environment

12:00-12:45 3. National Olympic Committees acting for Sport and Environment by Masato Mizuno, Member of the IOC Sport and Environment Commission

12:45-13:00 4. Projection of Sport and Nature Camp Film

13:00-14:00 Lunch-break

14:00-14:30 5. IOC Guide to Sport, Environment and Sustainable Development by Edward Kensington, Project Officer, IOC Department of International Cooperation and Development

14:30-14:45 6. Jamaican case studies by Dr Maiyer, NEPA

SESSION II: NOC programmes and actions

14:45-16:00 7. Presentation of national programmes/actions (5-10 min. each)

- Antigua & Barbuda, Barbados, Cayman Islands / Discussion
- Canada, Dominica, Guyana / Discussion

16:00-16:15 Light refreshments

16:15-17:15 8. NOC programmes/actions (5-10 min.)

- Haiti, Jamaica, St Kitts & Nevis / Discussion
- St Lucia, Trinidad & Tobago, St. Vincent & the Grenadines / Discussion

17:15-17:45 9. Summary of discussions

by Tore Brevik, UNEP representative on the IOC Commission for Sport and Environment

Saturday 12 August 2006

SESSION III: Identification of key issues and action plan

09:00-09:30 10. Presentation of the identification of key issues and action document
by Tore Brevik

09:30-10:30 11. Group work on actions plans

10:45-11:00 Light refreshments

11:00-12:30 12. Group work on action plans and presentations

12:30-14:00 Lunch-break

SESSION IV: Future strategies / recommendations

14:00-15:30 13. General Discussion on next steps and follow-up to the seminar with individual action plans

15:30-16:00 Light refreshments

16:00-16:30 14. Presentation of recommendations and closing remarks
by Pal Schmitt

IOC REGIONAL SEMINAR ON SPORT AND THE ENVIRONMENT

11 & 12 August 2006, Kingston, Jamaica

COMMITMENTS

The seminar was officially opened by the Governor General of Jamaica, H.E. The Most Honourable Prof. Kenneth Hall.

The delegates from the 16 National Olympic Committees present at the seminar (Antigua and Barbuda, Bahamas, Barbados, British Virgin Islands, Canada, Cayman Islands, Dominica, Grenada, Guyana, Haiti, Jamaica, St Lucia, St. Vincent & the Grenadines, St. Kitts and Nevis, Trinidad & Tobago, United States of America), with representatives of the IOC Sport and Environment Commission led by the Chairman Dr Pal Schmitt, gathered to encourage in, their countries, the Caribbean and the Americas, the development of actions to encourage activities for sustainable development through sport.

The delegates heard presentations from IOC Sport and Environment Commission Members, Jamaican environment and sustainability experts, a presentation of the new IOC Guide to Sport and Environment, NOC presentations and discussed key issues together.

The delegates unanimously concluded that the issue of sport and the environment and its sustainability demanded urgent attention not only by sports authorities but also by governments, NGOs and local and international agencies, etc.

With reference to the discussions on the presentations and the actions plans and strategies, each delegate will engage himself/herself to return home to disseminate the link between sport and the environment. They commit to make recommendations for their NOC to promote sport and environment through education, clean and green sports events, awareness raising campaigns with diverse partners in and beyond the sports community. To set up national working groups/sport and environment commissions when appropriate.

The key target groups will be NOCs and associated sports organisations, Government Ministries, the media (print, electronic & radio), NGOs, sport leaders, physical educators, coaches, architects and sponsors with special emphasis on reaching out to young people and athletes with simple and easily understood messages on the close links between sport and environment.

The seminar recognized both the similarity and diversity of the countries present and the link between sport and tourism. They agreed to remain in contact and exchange information and experiences in the future. In addition they will seek through CANOC, USOC and COC to develop partnerships and collaborate on projects for the benefit of the region's environment.

The participants expressed their thanks to the host of the seminar the Jamaican Olympic Association and its President, the Hon. Michael S. Fennell.

世界の各種統計

1. 20 世紀初頭、世界人口 16 億人、21 世紀初頭は世界人口 60 億人。
10 億人が世界総生産の 80%を保有、10 億人が一日 1 ドル以下の貧困層。
2. ビル・ゲイツ（マイクロソフト）、ヘレン・ウォルトン（ウォルマート） ウォレン・バフェット（投資家）、この三人の金持ちの総額は世界の低位 48 ケ国の総資産を上回る。
3. 今後 25 年 5000 万人が富裕層に組み入れられるが 15 億人は貧困層に組み入れられる。環境、資源、水、住宅、教育、雇用が今後の大きな課題になる。
4. 一日に 2500 人が汚染された水を飲んで死亡。毎年 2000 万の子供が栄養失調で知的障害に至っている。主にアジア地域で侵食や町の拡大でスコットランドより大きな面積の農地が失われている。
5. 豊かな国から発展支援に毎年 600 億ドルが支出され、農業補助と税率変更で 300 億ドルが支出され、600 億ドルの防衛費の支出で不均衡が広がっている。
6. 貧困国も 200 億ドルの防衛費を使っているが、それは教育費総額よりも多い。
7. 20 世紀から 21 世紀にかけて世界人口は 4 倍になり経済規模は 40 倍になった。
現代化への展望が停滞していたら、暮らし向きは 10 倍良かったに違いない。
悲惨な貧困に苦しむ人は 20 世紀初頭の人口（16 億人）に匹敵する。
8. もし現代の文明を維持するなら、自然を保全しないで、自然の恵みの恩恵を凌駕している。環境上の数値で換算すると 1960 年代の人たちは自然の 70%を消費していた。1990 年代は 100%の自然を消費した。2000 年には 125%を消費。これらの数値は正確ではないにしても、このまま行けば破綻する。
9. 干ばつ、洪水、火災、台風の頻度は上がりより巨大化している。これらに起因する汚染は急激に拡大し、それに戦争が破壊に輪をかける。医療の専門家は十億以上の人類が過密生活により栄養失調、又、増殖する細菌が空気に乗って放置された食物に感染し、多くの流行病・感染症、このような現象が人類・自然を叩きのめすと恐れている。
10. 我々の生活を徹底的に修復する最も切実な理由は、人類が希求する母なる自然との均衡を保った仕組みの実効が無いからである。

世界が 100 人の村だとしたら

1. アジア人 61 人、欧州人 12 人、アメリカ人 14 人、アフリカ人 13 人、オーストラリア人 1 人
2. 女 50 人、男 50 人
3. キリスト教 33 人、イスラム教 18 人、ヒンズー教 16 人、仏教 6 人、何か宗教を持っている人 11 人、無宗教 16 人
4. 6 人で村の 59%の富を保有している
5. 17 人の女性と少女、8 人の男と少年が悲惨な貧困で生きている
6. 村の 70%の仕事は女性がこなして、村の全収入の 10%がこれに支払われている
7. 70 人が文盲で 1 人が大学卒業者
8. 5 歳から 14 歳の子供の内、6 人は働き、その内 3 人はフルタイムで教育を受けていない

このミニチュアで見ると

1. 森の半分は無くなった
2. 安全な飲み水にありつく事が困難になった
3. 土地固有の言語や文化が消滅の危機にさらされている
4. 海面の水位の上昇、砂漠化、安全な水の供給の縮小は今後 10 年で 5000 万人の環境難民を生む
5. 環境劣化により毎年 1000 万人が移住しなければならない

（ボンの国連大学 環境・人類保安研究所 部長 ジェームス・ボガーディ）

IOC 競技別環境保全ガイドブックについて



INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

International Cooperation and Development Dept
Ref. No olo/PSE/2392/2007
By mail



To the National Olympic Committees

Lausanne, 29 January 2007

IOC Guide on Sport, Environment and Sustainable Development

Dear President,

For use by your National Olympic Committee I am pleased to enclose 5 copies of the IOC Guide to Sport, Environment and Sustainable Development which was developed in collaboration with all the International Olympic Summer and Winter Federations.

The Guide is the third major IOC publication related to the environment after the Manual on Sport and the Environment and the Olympic Movement's Agenda 21. It provides the sport movement with an easy way to move from theory and concepts to practical initiatives and behavioural changes; an easy way to understand the global challenges and needs for environmental protection while considering local conditions coming from diverse geographical, socio-economic, cultural and sports contexts.

The Guide is structured around five chapters. The first recalls the most important current knowledge on environment and sustainable development. A second chapter describes the environmental and sustainable issues of special interest to the world of sport. The fourth chapter describes these same issues in relation to each individual Olympic sport, and the final chapter proposes motivations to be taken.

I hope that the Guide will help the sport movement apply the main idea behind the Guide "THINK GLOBALLY AND ACT LOCALLY" and that it will be used as a work tool and applied as widely as possible and help sport assume its responsibility by contributing to the environment and sustainable development through its main field of expertise: sport.

To enable you to widely reach your constituents the Guide can also be found on the IOC Internet site as a free download through the following link :

http://www.olympic.org/uk/organisation/missions/environment/full_story_uk.asp?id=2030

Yours sincerely,

Pál Schmitt
Chairman
IOC Sport and Environment Commission

INTERNATIONAL OLYMPIC COMMITTEE
Château de Vidy, 1007 Lausanne, Switzerland, Tel +41 21 621 6111 / Fax +41 21 621 6216 / www.olympic.org



Japanese Olympic Committee

12 March 2007

Dr. Pál Schmitt
Chairman,
Sports and Environment Commission
International Olympic Committee

Re: IOC Guide on Sport, Environment and Sustainable Development

Dear Dr. Schmitt,

Thank you for your letter dated 29 January with the excellent books "IOC Guide on Sport, Environment and Sustainable Development" and information accessing to its data. Those books would help us to understand the environmental issue of each sport.

We will use this information to report the importance of the environmental issues to the national federations and the Japanese sports world for their understanding and cooperation towards our environmental activities.

Thank you very much for your continuous cooperation and support towards the Japanese Olympic Committee.

Yours sincerely,

Masato MIZUNO
Executive Board Member,
Chairman, JOC Sports and Environment Committee

1-1-1 Jinnan Shibuya, Tokyo 150-8050, Japan Tel:+81-3-3481-2286 Fax:+81-3-3481-2282
<http://www.joc.or.jp> e-mail: jpn-noc@joc.or.jp

ロゲ会長が国連環境計画から 『CHAMPION OF THE EARTH 2007』を受賞



INTERNATIONAL
OLYMPIC
COMMITTEE

The President

Mr Pál SCHMITT
IOC Sport and Environment
Commission Members
Mr Hein Verbruggen
Mr René FASEL
Mr Denis Oswald

Lausanne, 6 February 2007
Ref. ENV/23/2007/JRO/qcw
Sent by fax

"Champions of the Earth"

Dear Colleagues,

As you probably already know, the United Nations Environment (UNEP) has awarded the IOC the "Champions of the Earth" prize for the influence that our organisation has had on defending the environment.

I should like to thank you sincerely and congratulate you wholeheartedly on this distinction, which is the just reward for the efforts that you have been making relentlessly since the creation of the IOC Sport and Environment Commission and the historic holding of the Games in Lillehammer, where the environment really began to be the absolute focus of attention of the Olympic world.

I wish you all the best for the future and thank you once again for your valuable support.

Yours sincerely,

Jacques Rogge

cc: Mr T.A. Ganda Sithole, IOC Director of International Cooperation and Development
Mr Gilbert Felli, IOC Executive Director of Olympic Games

**VIDEO MESSAGE FROM IOC
PRESIDENT JACQUES ROGGE
ACCEPTANCE SPEECH FOR THE
2007 UNEP CHAMPIONS OF THE EARTH AWARD**

Ladies and gentlemen, dear friends,

I am proud, on behalf of the International Olympic Committee, to accept the Champions of the Earth Special Award as a recognition of the IOC's work in this field.

It is also a privilege for me to join the six other distinguished recipients of this prestigious UNEP Award. I would like to extend my congratulations to them, and wish them further success in their undertakings.

I also take this opportunity to thank UNEP, our partner since 1994, for its ongoing commitment and for all the good advice and expert counsel it has given us over the years in this field.

The IOC has taken the environmental concerns seriously since the early 1990s, when it created its Sport and Environment Commission chaired by my colleague Pál Schmitt, who is representing me today at this ceremony with IOC member Ser Miang Ng.

The IOC has today incorporated all the fundamentals of sustainable development, taking into account the environment, linked to social and economic benefits. This fundamental principle guides all our programmes and projects.

With the upcoming Olympic Games in Beijing, Vancouver and London, we have important challenges ahead of us. We are glad that we can meet them with the Organising Committees in the host country and host cities that are taking our concerns seriously. We have asked them to 1 place the bar very high, and are challenging them with strict criteria to be respected.

The IOC also has the chance and opportunity to raise awareness among its network of 203 National Olympic Committees about environmental challenges. We see this as a responsibility. Many concrete programmes based on clear

guidelines and presented in user-friendly handbooks have been developed and activated with the help of UNEP.

Indeed, this year in Beijing, the IOC and the Beijing Organising Committee, in association with UNEP, will be organising the 7th World Conference on Sport and the Environment, which would be hailed as a milestone in the quest to place sport everywhere at the service of harmonious development of humanity and our environment.

6. 関連資料

References

(1) JOC スポーツ環境専門委員会名簿

Roster of JOC Sport and Environment Commission

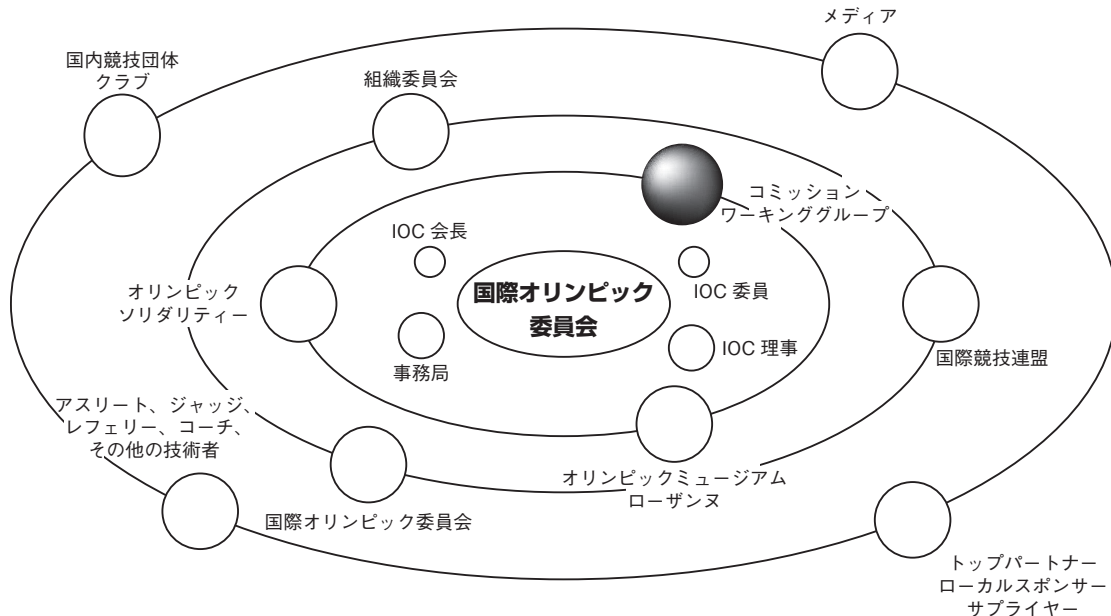
平成 19 年 3 月 31 日現在

役職名	氏 名	出身団体 (NF) 他	役職 (NF)
委員長	水 野 正 人	(IOC スポーツと環境委員会委員)	
副委員長	瀬 尾 洋	(財)全日本スキー連盟	常務理事／総務副本部長／スポーツ環境委員長
	佐 野 和 夫	(財)日本水泳連盟	専務理事／スポーツ環境委員長
委 員	遠 藤 幸 一	(財)日本体操協会	常務理事／環境委員長
	鎌 賀 秀 夫	(財)日本レスリング協会	評議員／スポーツ環境委員長
	久保田 克 彦	(財)日本陸上競技連盟	理事／総務委員長
	田 嶋 幸 三	(財)日本サッカー協会	専務理事／環境プロジェクト・リーダー
	西 脇 克 治	(財)日本バレーボール協会	運営理事／スポーツ環境小委員長
	平 松 純 子	(財)日本スケート連盟	理事／フィギュア部長
	別 所 恭 一	学識経験者 (佐川急便株式会社 理事)	
	松 岡 修 造	(財)日本テニス協会	理事待遇／環境委員
	山 口 香	(財)全日本柔道連盟	ルネッサンス委員／国際委員／強化委員

(2) IOC 組織・機構図

IOC Organization and Structure Chart

国際オリンピック委員会



各委員会

- ・ 理事会
- ・ 文化・オリンピック教育委員会
- ・ アスリート委員会
- ・ 倫理委員会
- ・ 指名委員会
- ・ 女性とスポーツ委員会
- ・ 財務委員会
- ・ 法務委員会
- ・ マーケティング委員会
- ・ 医事委員会
- ・ 報道委員会
- ・ オリンピックプログラム委員会
- ・ ラジオ・テレビ委員会
- ・ ソリダリティー委員会
- ・ スポーツと法律委員会
- ・ スポーツと環境委員会
- ・ スポーツ・フォア・オール委員会
- ・ 第 29 回オリンピック競技大会（北京／2008）調整委員会
- ・ 第 21 回オリンピック冬季競技大会（バンクーバー／2010）調整委員会
- ・ 第 30 回オリンピック競技大会（ロンドン／2012）調整委員会
- ・ 第 22 回オリンピック冬季競技大会（2014）評価委員会
- ・ 切手・貨幣・記録委員会
- ・ 国際関係委員会
- ・ テレビ・インターネット権利委員会
- ・ 2009 コングレス委員会

スポーツと環境委員会

Chairman	Pál SCHMITT	Moss MASHISHI
Members	Roland BAAR	Masato MIZUNO
	Michel BARNIER	Mamadou Diagna NDIAYE
	Tore BREVIK	Sunil SABHARWAL
	Enrico CARBONE	Shamil TARPISCHEV
	Yaping DENG	Efraim ZINGER
	Joseph FENDT	BOCOG Representative
	Zoumaro GNOFAME	VANOC Representative
	Johnson JASSON	LOCOG Representative
	George KAZANTZOPOULOS	

Director in charge Director of International Cooperation and Development

(3) IOC スポーツと環境委員会小史

Brief history of IOC Sport and Environment Commission

1972 年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭岳ダウンヒルコース、競技終了後植林
1990 年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上（経済・環境問題）
1990 年	まで IOC は環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
1990 年	年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
1992 年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加 NOC 署名
1994 年	第 12 回オリンピック・コンGRESS（IOC 創立 100 周年記念）でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995 年	IOC にスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第 1 回 IOC スポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996 年	委員に就任 岡野俊一郎（1996-2001）、水野正人（1996- 現在）
1997 年	第 2 回 IOC スポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999 年	第 3 回 IOC スポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ 2 1 採択
2001 年	第 4 回 IOC スポーツと環境世界会議開催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
2002 年	極東及び東アジア、第 1 回 IOC スポーツと環境・地域セミナー開催・北京
2003 年	第 5 回 IOC スポーツと環境世界会議開催・トリノ “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
2004 年	IOC スポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005 年	IOC スポーツと環境・西アジア地域セミナー開催・ドバイ 第 6 回 IOC スポーツと環境世界会議開催・ナイロビ
2006 年	IOC スポーツと環境・東南アジア地域セミナー開催・クワラルンプール IOC スポーツと環境・カリブ海地域セミナー開催・キングストン
2007 年	第 7 回 IOC スポーツと環境世界会議・北京

(4) JOC スポーツ環境委員会小史

Brief history of JOC Sport and Environment Commission

2001 年	JOC スポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人 委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健児 第 4 回 IOC スポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”（この星にスポーツを！）
2002 年	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第 1 回 IOC スポーツと環境・地域セミナー・北京 参加
2003 年	セカンドポスター作成 平成 14 年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 7 月に ISO14001 認証登録、IOC 加盟 NOC202NOC の中で初めて 第 5 回 IOC スポーツと環境世界会議・トリノ、参加 佐野和夫 JOC スポーツ環境委員・JOC の活動を報告
2004 年	サードポスター作成 平成 15 年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第 1 回スポーツと環境担当者会議開催・JISS 本会関係者、加盟団体、パートナー
2005 年	ジョイントポスター・パンフレット（第 2 版）作成 平成 16 年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チームマイナス 6%」のメンバーとなる 第 1 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー開催・大阪 第 2 回スポーツと環境担当者会議開催・JISS 第 6 回 IOC スポーツと環境世界会議・ナイロビ、参加 佐野和夫 JOC スポーツ環境副委員長・JOC の活動を報告
2006 年	イラストポスター（5TH）作成 平成 17 年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001 認証を更新登録 IOC スポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール、参加 遠藤幸一 JOC スポーツ環境委員・JOC の活動を報告 第 2 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー開催・長野市 第 3 回スポーツと環境担当者会議開催・国立オリンピック記念青少年総合センター
2007 年	ポスター（6TH）作成 平成 18 年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第 3 回 JOC スポーツと環境・地域セミナー・東京（予定） 第 4 回スポーツと環境担当者会議・国立スポーツ科学センター（予定） 第 7 回 IOC スポーツと環境世界会議・北京、（参加予定）

(5) オリンピックムーブメント アジェンダ 21 (要約)

Olympic Movement's Agenda 21

1. 一般原則

1. 1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議 (UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の創意で採択された。

1. 2 UNCED アジェンダ 21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ 21 に基づいた独自のアジェンダ 21 を作成するよう求めている。

2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ 21 の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOG など) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3. 1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3. 1. 1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3. 1. 2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルではIOCとNOCとが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3. 1. 3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3. 1. 4 消費者習慣の変化

無公害のあるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3. 1. 5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3. 1. 6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融けこ

むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

3. 1. 7 「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3. 2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピックの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3. 2. 1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動を行わなければならない。

3. 2. 2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3. 2. 3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3. 2. 4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関する ISO の認証を取得すべきである。

3. 2. 5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3. 2. 6 エネルギー

- ・過剰なエネルギー消費を抑える。
- ・再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- ・再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3. 2. 7 主要スポーツイベントでの宿泊設備及び食事サービス

- ・アジェンダ 21 の 3. 1. 6 節に従った構造を推奨する。
- ・衛生条件を厳守する。
- ・地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- ・使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。
- ・再利用できない廃棄物を処理する。

3. 2. 8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。

- ・地下水または地上水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3. 2. 9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改築、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3. 2. 10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3. 3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3. 3. 1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

3. 3. 2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。
- ・競技団体内で若者が自分達に関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- ・オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- ・若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- ・子供の人権に関する国連条約（決議 44 / 25）の承認を宣言し施行する。
- ・専門の国際団体と共同で活動する。

3. 3. 3 原住民族の認知および推進

- ・原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- ・特に原住民族発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- ・これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ 21 の誓い

1999 年 10 月に開催された第 3 回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ 21 の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ 21 は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ 21 の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ 21 の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれ支援していかなければならない。
7. アジェンダ 21 は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ 21 の推進・改訂についての責任は IOC にある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行なうスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOC スポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ 21 の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ 21 の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。



編集後記

今回で5巻目となります活動報告書の発行にあたり、皆様にご協力いただき深謝申し上げます。

さて、近年の温暖化現象によりスポーツ界では競技会開催に支障をきたすことが生じております。私たち一人ひとりが気をつけ、スポーツ界全体で努力を積み重ねることにより、より良いスポーツ環境を得ることが出来るのではないかと思います。

年々各団体の環境委員会、プロジェクト等の設置数も増え、活動も活発になり、昨年に比べ受取る報告書の回数、写真の枚数も多くなりました。平成19年度の活動報告の受領に際しては、管理のシステム化を考慮しております。

今後とも各団体それぞれにスポーツの環境保全、啓発・実践活動への取り組みに引続きのご協力をお願いいたします。

報告書編集担当 佐野和夫

平成18年度 スポーツ環境委員会活動報告書

平成19年6月26日

発行：財団法人日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会
〒150-8050 渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
TEL：03-3481-2313
URL：<http://www.joc.or.jp/eco/index.html>

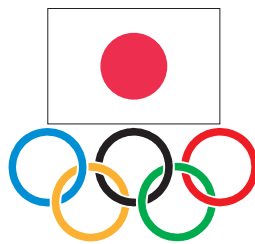
編集：日比野哲郎、山本佳代子、石川宣治、高橋ダニエル克弥
写真提供：アフロススポーツ
フォート・キシモト

〈問合せ先〉

(財)日本オリンピック委員会 事業・広報部

〒150-8050 渋谷区神南1-1-1

TEL：03-3481-2313 FAX：03-3481-0977



財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会